

震災アーカイブス・メモリアルセンター
平成 29 年度事業報告

平成29年度 事業活動報告 目次

【共通実施事業】

1. 平成29年度の活動状況
2. 共通事業報告

【施設別実施事業】

1. 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい
2. おぢや震災ミュージアムそなえ館
3. やまこし復興交流館おらたる
4. 川口きずな館
5. 妙見メモリアルパーク
6. 木籠メモリアルパーク
7. 震央メモリアルパーク
8. 中越沖メモリアルまちから前期報告
9. 中越沖メモリアルまちから後期報告

【その他の事業】

1. 東日本大震災記憶伝承体制整備事業可能性調査【宮城県】 96

1. 平成29年度の活動状況（全体）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長岡	774	969	1,701	1,332	2,546	1,616	1,535	2,031	1,012	699	849	1,249	16,313
小千谷	1,056	2,880	2,866	2,956	1,847	2,366	4,156	2,207	799	309	467	1,001	22,910
川口	458	1,667	841	824	1,734	1,075	1,928	969	484	203	274	372	10,829
山古志	1,674	4,415	3,453	2,608	4,555	3,636	4,357	4,712	198	115	146	419	30,288
合計	3,962	9,931	8,861	7,720	10,682	8,693	11,976	9,919	2,493	1,326	1,736	3,041	80,340

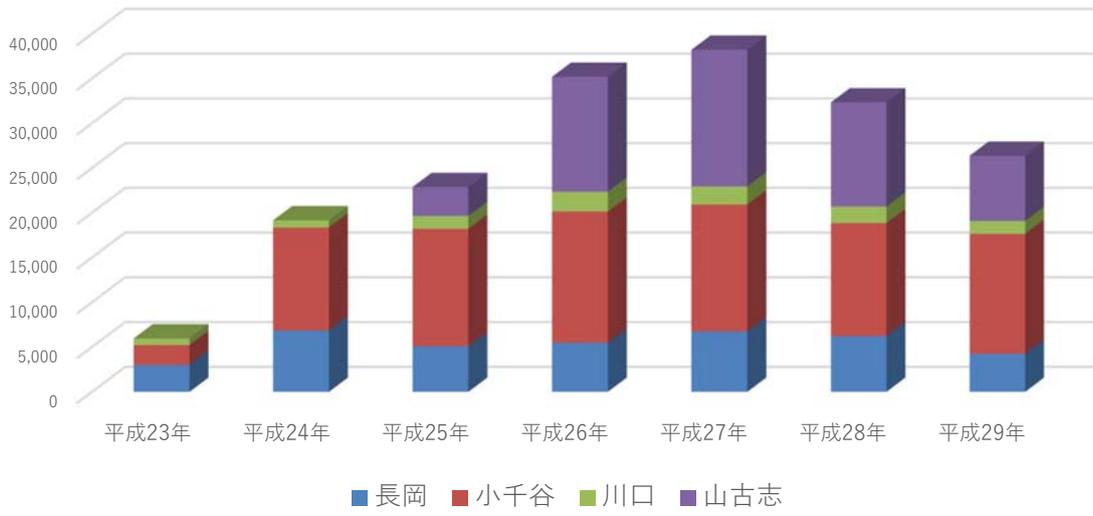
■平成29年度来館者数

■年度別来館者数

	長岡	小千谷	川口	山古志	合計	前年比
平成23年	10,821	6,686	6,252		23,759	
平成24年	22,891	17,867	12,474		53,232	
平成25年	17,323	18,770	14,299	9,278	59,670	112.1%
平成26年	17,598	22,141	18,067	33,117	90,923	152.4%
平成27年	18,052	19,704	11,389	34,510	83,655	92.0%
平成28年	18,851	18,013	11,788	31,625	80,277	96.0%
平成29年	16,313	22,910	10,829	30,288	80,340	100.1%

- 年間来館者は昨年度の実績とほぼ同じ。増加：そなえ館リニューアル効果で127.2%、おらたる、11月4日よりエレベーター工事のため休館95.8%、川口きずな館91.9%、きおくみらい86.5%。きおくみらいは特に団体客が激減。各館ごとの分析はそれぞれが報告。
- 一般客はスタンプラリーやそなえ館リニューアル効果で増加しているが、団体客が平成27年度をピークに減少傾向が続く。特に観光目的の「一般団体」が63.4%と2/3に激減。自主防・消防団は108.3%、学校関係は115.7%増加傾向。

【団体】来館者数



2. 共通事業活動報告

■メモリアルプロセス研究会の開催

昨年度に引き続き同研究会を3回開催、メモリアル施設の在り方、運営、展示、防災教育、震災遺構など様々テーマについて専門家の先生からアドバイスをいただきながら進めた。その研究テーマを最終的には報告書にまとめ、災害復興学会等で発表した。

専門家の先生方の謝金・交通費等を拠出。



研究会の様子

メモリアルプロセス研究会 名簿

氏名	所属
上村 靖司	長岡技術科学大学
澤田 雅浩	兵庫県立大学
松田 曜子	長岡技術科学大学
小島 由記子	長岡高等工業専門学校
平林 英二	人と防災未来センター
水戸部 智	NPO法人柏崎まちづくりネットあいさ
稲垣 文彦	中越防災安全推進機構
玉木 賢治	中越防災安全推進機構
松本 勝男	中越防災安全推進機構
赤塚 雅之	中越防災安全推進機構
筑波 匡介	中越防災安全推進機構
山崎 麻里子	中越防災安全推進機構

開催日時	参加者	備考
4月4日(火) 18:00~20:00	上村靖司、松田曜子、小島由記子、稲垣文彦、諸橋和行、松本勝男、赤塚雅之、筑波匡介、山崎麻里子	きおくみらい
6月20日(火) 18:00~20:00	上村靖司、澤田雅浩、小島由記子、平林英二、水戸部智、稲垣文彦、諸橋和行、玉木賢治、松本勝男、赤塚雅之、筑波匡介、山崎麻里子	きおくみらい
9月14日(木) 18:00~20:00	上村靖司、松田曜子、水戸部智、稲垣文彦、玉木賢治、松本勝男、赤塚雅之、山崎麻里子	まちなかキャンパス長岡

メモリアルプロセス研究会
報告書

公益社団法人中越防災安全推進機構
平成29年3月

2. 研究報告

「中越メモリアル回廊の経営面からの考察」 5
公益社団法人中越防災安全推進機構 事務局 五木 賢治

「新潟県中の地震震を表示する」
・「地震」を表示することとその活用について 10
公益社団法人中越防災安全推進機構 震災メモリアル・アーカイブセンター
マナージャー 沢田 浩介

「震災遺構・メモリアルパークの活用」
・震災メモリアルパークにみる災害遺構保存の未来図 12
公益社団法人中越防災安全推進機構 震災メモリアル・アーカイブセンター
マナージャー 赤坂 雅之

「震災アーカイブを活かした次世代向け防災学習プログラムの開発・運営」 14
公益社団法人中越防災安全推進機構 震災メモリアル・アーカイブセンター
マナージャー 松本 雅秀

「新潟県における防災教育の特徴と課題」 16
公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災センター センター長 齋藤 和行

「中越沖地震から10年、被災地柏崎市に見る市民自治力の再構築に関する考察」 20
特定非営利活動法人地球まじゅりネットあいさ 理事長事務局 水戸部 聖

「自治体が行う被災地支援で活用できる知見・教訓・資料について」 22
・熊本地震被災地における県庁市の支援を例に
公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災センター マナージャー 山崎 麻穂子

「過去の被災地の教訓を次の被災地に伝えることを考える」 26
公益社団法人中越防災安全推進機構 震災メモリアル・アーカイブセンター
センター長 齋藤 浩介

3. 研究報告を受けて

「課題解決」か「主体形成」か 30
新潟大学工学部 機械製造工学専攻 教授 上村 博司

「きおくみらいリニューアルへの期待」 32
新潟大学工学部 建築社会工学専攻 准教授 松田 穂子

4. おわりに

「震災メモリアルプロセスとは何だろう」 34
新潟大学大学院 防災復興政策研究科 准教授 藤田 雅治

■スタンプラリーの開催



中越沖 10 年、そなえ館リニューアルオープンの機会をとらえたスタンプラリーを開催。各施設で防災クイズなどに挑戦、5 施設すべて回られた方は 112 組。また、アンケート調査から様々な感想や問題点も把握できた。

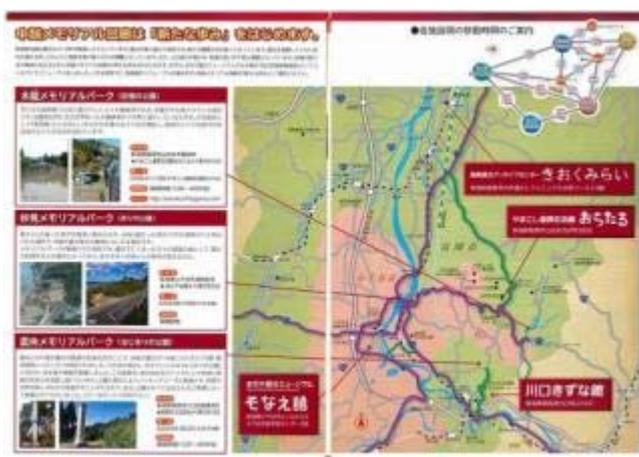


ゴールされた方は記念撮影を実施。

ポスターやチラシを配布

■メモリアル回廊総合パンフレットの制作、配布

A4 サイズ 8 ページの総合パンフレットを作成、今回はそなえ館リニューアルをメインに 1 万部作成、問い合わせ先や県内大型公共施設・道の駅などに配布。



■その他

災害・文献データベース、ホームページのサーバー管理費などを拠出。

1. 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

1. 企画展・シンポジウム

日本自然災害学会オープンフォーラム、エクスカーショ

■概要

主催：日本自然災害学会

第36回 日本自然災害学会学術講演会・オープンフォーラム実行委員会
(公社)中越防災安全推進機構

日時：平成29年9月29日(金)

オープンフォーラム 9:30~12:30

エクスカーション 13:30~18:00

テーマ：「後世に遺す～未来を守る防災教育～」

内容：アーカイブや防災教育に様々な立場から関わっている方々を招き、「遺す」ことをどう防災教育につなげていくかを考える。

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 登壇者：山内宏泰氏 | リアス・アーク美術館・学芸係長(津波/気仙沼) |
| 北野央氏 | 仙台市市民文化事業団・主事(地震・津波/仙台) |
| 諏訪清二氏 | 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・特任教授(地震/神戸) |
| 米山正幸氏 | 北淡震災記念公園・総支配人(地震/淡路島) |
| 崎山光一氏 | 稲むらの火の館・館長(津波/和歌山県) |
| 樋口勲氏 | ラブリバーネット・代表(水害/大河津分水) |
| 松井智美氏 | 震災復興交流館郷見庵・運営管理責任者(地震/中越) |
| 山崎麻里子 | 長岡震災アーカイブセンター・マネージャー(地震/中越) |

コメンテーター：北原糸子氏(立命館大学歴史都市防災研究所 研究員)

コーディネーター：上村靖司氏・松田曜子氏(長岡技術科学大学)



「糸魚川大火」写真パネル展示

■概要

期間：平成 29 年 10 月 13 日（金）～平成 29 年 12 月 28 日（水）

会場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

主催：長岡震災アーカイブセンター

概要：平成 28 年 12 月に発生した「糸魚川駅北大火」の消火活動の様子を収めた写真パネルの展示。

震災 13 周年復興祈念事業「糸魚川から中越へ、そして中越から糸魚川へ」シンポジウム開催にあわせて展示したもの。

主な展示物：

- ◎ 糸魚川大火の消火活動の様子
- ◎ 鎮火後の市街地の様子
- ◎ 震災 13 周年復興祈念事業「糸魚川から中越へ、そして中越から糸魚川へ」シンポジウムポスター

■展示内容（写真）



シンポジウム「糸魚川から中越へ、そして中越から糸魚川へ」

■概要

期日：平成 29 年 10 月 14 日（土）13：00～17：30

会場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい 多目的ホール

主催：（公社）中越防災安全推進機構

概要：糸魚川駅北大火から 1 年を迎えるにあたり、今後の被災地復興を支援することを目的に、中越地震、中越沖地震の被災地復興に携わった関係者と糸魚川の復興関係者を招いた円卓会議を開催。商店街のにぎわいづくりや伝承していくことの意義など意見交換を行った。

参加者：46 名

登壇者：武藤悟氏（糸魚川市消防本部糸魚川市消防署副署長）

竹田健一氏（糸魚川市消防本部消防防災課課長補佐）

太田亘氏（糸魚川市産業部復興推進課参事）

山崎和俊氏（糸魚川市産業部商工農林水産課商工労政係長）

中村政行氏（糸魚川市社会福祉協議会事務局長）

小林大祐氏（加賀の井酒造株式会社第十八代蔵元 取締役）

- 小出薫氏（糸魚川きぼう法律事務所弁護士）
 水戸部智氏（NPO 法人柏崎まちづくりネットあいさ理事兼事務局長）
 上村靖司氏（長岡技術科学大学教授）
 松田曜子氏（長岡技術科学大学准教授）
 宮本匠氏（兵庫県立大学講師）
 小林秀行氏（明治大学専任講師）
 稲垣文彦（中越防災安全推進機構業務執行理事）
 阿部巧（中越防災安全推進機構ムラビトデザインセンター長）
 野村祐太（中越防災安全推進機構）
 山崎麻里子（中越防災安全推進機構）

オブザーバー：平井邦彦氏（長岡造形大学名誉教授、中越防災安全推進機構顧問）

■展示内容（写真）



■報告書

報告書（200部）を作成。登壇者及び関係機関、糸魚川市内で配布した。
 また、被災地復興に感心のあるきおくみらい来館者より、閲覧できるよう図書コーナーに配架した。

こうべまちづくり会館「1.17×23rdの集い」写真展

■概要

期間：平成 30 年 1 月 12 日（金）～16 日（火）

開場：こうべまちづくり会館ギャラリー

主催：こうべまちづくり会館

概要：阪神・淡路大震災から 23 年を迎えるにあたり、神戸の被災だけでなく、中越大震災、東日本大震災、熊本地震の被災地の様子を伝える写真を展示。中越からは中山間地の被災を紹介する写真パネルと、地域住民が復興に取り組む姿を紹介するフラッグを展示。スラッグ前ではイベント期間中に開催されたコンサートイベントなど開催され、多くの来場者の目に留まるものとなった。



2. 調査・研究

他被災地現地調査

■概要

【熊本地震】

日程：平成 29 年 4 月 2 日（日）、3 日（月）

視察先：復興志民会議シンポジウム聴講、西原村、御船町、益城テクノ団地仮設住宅視察



【阪神・淡路大震災】

日程：平成 29 年 4 月 28 日（金）

視察先：人と防災未来センター 意見交換

北淡震災記念公園 視察、ヒアリング



【東日本大震災】

日程・視察先：

- ・平成 29 年 5 月 27 日 気仙沼シャークミュージアム
- ・5 月 28 日 リアスアーク美術館（学芸員山内宏泰氏ヒアリング）
- ・7 月 22 日 仙台市荒浜小学校、荒井駅
- ・7 月 24 日 陸前高田市沿岸部（国営公園予定地、復興公営住宅、自立再建宅、「アバッセたかた」他）
- ・7 月 25 日 南三陸町、東松島市野蒜駅、石巻市大川小学校、女川交番
- ・8 月 6 日 岩手県釜石市（地域安全学会現地見学会）

復興を考える若手研究会

■概要

中越、能登半島、東日本、熊本など全国の震災被災地の復興に携わる実務者・研究者と共に、改めて今後の被災地復興を考える研究会。研究会メンバーが関わる被災地の現状、復興の実情について情報提供、共有を図りながら、これからの復興について議論する。

メンバーからの報告内容、議論の内容を取りまとめ、被災地復興に関心を持つきおくり来館者に提供するなどアーカイブ資料として活用した。

■開催日程、内容

- ・第 1 回 6 月 8 日（木） 自己紹介、研究テーマ発表
- ・第 2 回 7 月 26 日（水） 共通テーマの検討
- ・第 3 回 8 月 16 日（水）、17 日（木） 糸魚川合宿（現地視察、糸魚川市復興関係者との意見交換）
- ・第 4 回 9 月 22 日（火） 東日本大震災被災地の現状報告
- ・第 5 回 11 月 24 日（木） 中越地震被災地の復興事例紹介
- ・第 6 回 1 月 18 日（木） コンサルタント業界の変遷、コミュニティに関する書籍紹介と意見交換

■メンバー

- 上村靖司氏 長岡技術科学大学教授
- 松田曜子氏 長岡技術科学大学准教授
- 宮本 匠氏 兵庫県立大学講師
- 小林秀行氏 明治大学専任講師
- 若田謙一氏 一般社団法人 RCF 元岩手復興応援隊
- 中沢 峻氏 宮城大学特任助教、みやぎ連携復興センターチーフコーディネーター
- 稲垣 文彦 中越防災安全推進機構 常勤理事
- 山崎麻里子 中越防災安全推進機構 マネージャー

■写真



3. 広報

『防災グッズチェックリスト』増刷

■概要

期間：平成 29 年 11 月 5,000 部印刷

概要：「防災グッズチェックリスト」の増刷。

きおくみらい来館者の防災意識啓発を目的に、施設紹介パンフレット共に配布するため増刷した。自主防災組織、町内会等の活動の際、また燕市の各種防災講座等で参加者に配布するため、希望があれば必要部数を提供した。

HP でも PDF データを公開し、必要な場合は各自で印刷、配布できるよう情報を提供している。



きおくみらいホームページ改良

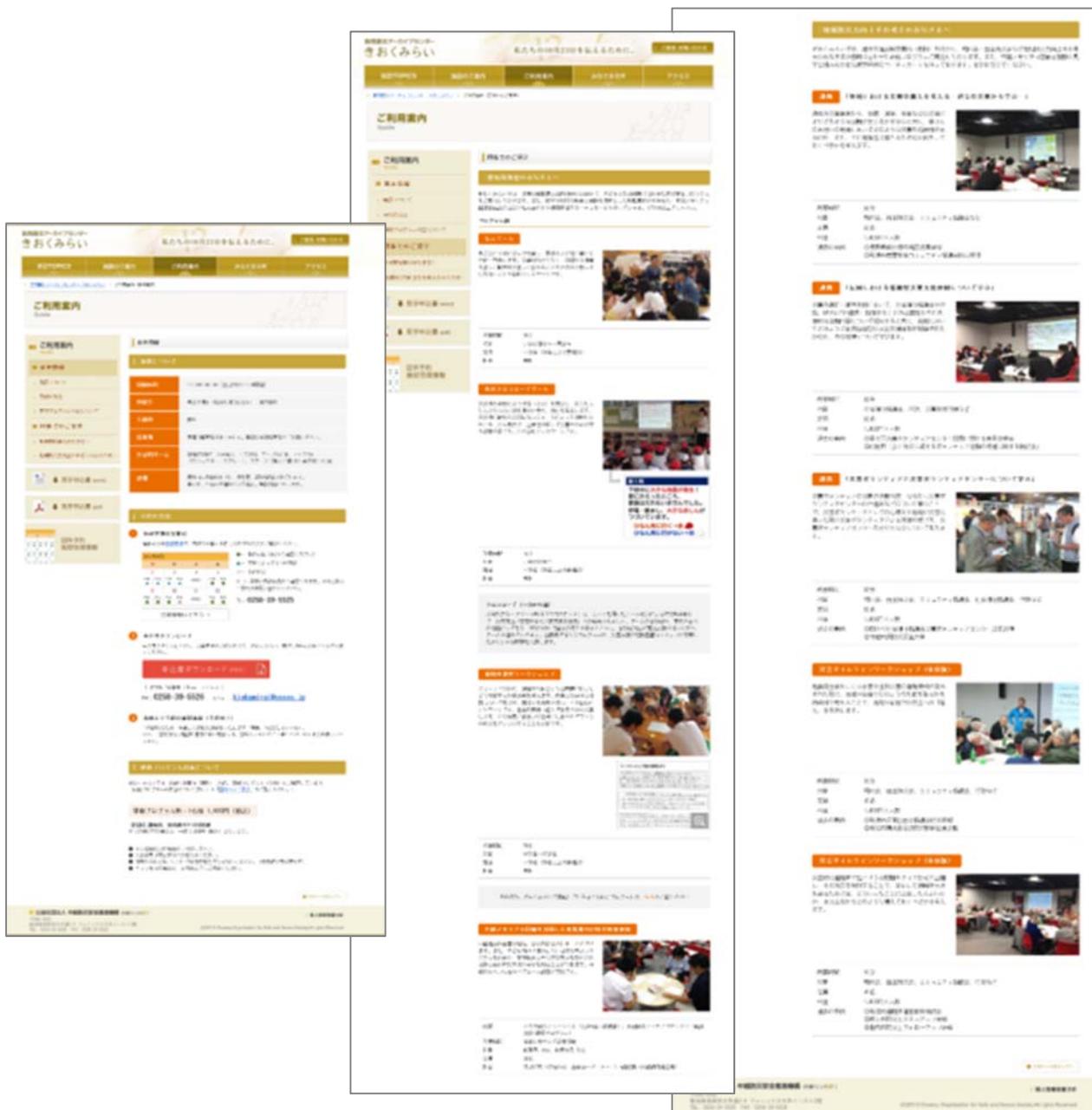
■概要

改良点：きおくみらい有料研修プログラム導入にあわせ、研修プログラムの内容、実践例、料金設定、申込方法などをホームページ上で紹介するページを追加した。

同時に、小学校、中学校の防災学習に関する支援体制や申し込み方法を紹介するページを追加した。

アドレス：<http://c-marugoto.jp/nagaoka/use.html>

アドレス：<http://c-marugoto.jp/nagaoka/use-group.html>



4. ガイド・語り部活動

同行ガイド

■概要

対応回数：19回

受け入れ人数：258名

中越メモリアル回廊拠点施設をめぐる団体の希望に応じて、同行ガイドを行った。地域住民ガイド及び職員によるガイドを手配した。

月	日	団体名	都道府県	人数	備考
5	4	聖心女子大学 大橋正明教授	東京都	3	きおくみらいスタッフ
5	15	丹波市復興推進部	兵庫県	2	きおくみらいスタッフ
6	2	日中友好館栃木さん	東京都	1	きおくみらいスタッフ
6	2	NHK制作局吉永さん	東京都	1	きおくみらいスタッフ
6	7	(株)一測設計	福島県	2	きおくみらいスタッフ
6	12	秋葉区自主防災組織	新潟県	36	斉藤隆さん
6	28	北京職業女性代表团	海外	25	きおくみらいスタッフ
7	23	新潟市秋葉区中村町内自主防災会	新潟県	44	斉藤隆さん
8	18	NPO法人おはごさき市民会議	岩手県	6	山口壽道氏
9	22	株式会社電通	東京都	6	山口壽道氏
10	21	武蔵野芸術大学須郷さん(卒業制作)	東京都	1	きおくみらいスタッフ
10	25	丹青研究所	東京都	1	きおくみらいスタッフ
10	27	JICA 博物館学研修	海外	15	きおくみらいスタッフ
10	30	新潟市秋葉区役所自主防災組織研修	新潟県	40	斉藤隆さん
10	30	石巻市かどのわき町内会	宮城県	20	きおくみらいスタッフ
11	10	自治体災害対策全国会議	全国	40	筑波匡介氏
11	28	黒川復興プロジェクト	福岡県	4	きおくみらいスタッフ
2	7	兵庫県丹波市「うちの花は赤いプロジェクト」	兵庫県	8	きおくみらいスタッフ
2	18	KHB 東日本放送、佐藤翔輔先生(東北大学)	宮城県	3	きおくみらいスタッフ

語り部

■概要

対応回数：全13回

受け入れ人数：255名

長岡震災アーカイブセンター施設見学及び語り部の講話を希望される団体に、語り部紹介、手配、会場手配を行った。来館者の要望に合わせた語り部に依頼することで、防災学習、防災研修の支援に努めた。

月	日	団体名	都道府県	人数	備考
5	10	附属長岡小学校4年	新潟県	62	川上沙織さん
5	12	熊本市内支援団体	熊本県	16	佐野玲子さん

6	28	北京職業女性代表団	海外	25	山古志木籠ふるさと会
7	28	東京書籍株式会社社会編集部	東京都	8	青木勝さん、五十嵐なつ子さん
8	19	おたがいさま食堂くまもと	熊本県	13	佐竹直子さん他
9	29	熊本県水俣病保険課・環境政策課	熊本県	3	稲垣さん
9	30	北淡震災記念公園米山氏語り部	新潟県	35	米山正幸さん
10	21	武蔵野芸術大学須郷さん（卒業制作）	東京都	1	関静子さん
10	27	JICA 博物館学研修	海外	15	わかとち未来会議
11	5	静岡県袋井市防災課	静岡県	4	畔上純一郎さん
11	10	国際地震工学研修	海外	25	水落優さん
11	18	仙台ライフライン防災情報ネットワーク	宮城県	4	斉藤隆さん
11	27	強戸地区区長会	群馬県	44	岸和義さん

語り部講話会

■概要

期日：平成 29 年 9 月 30 日（土）

内容：北淡震災記念公園より、「震災の語り部」を招き、阪神・淡路大震災の体験談を中越で初めて語ってもらった。主に、中越で震災伝承活動や、語り部活動に協力いただく住民及び、広く一般に広報を行い、誰でも聴講できるものとした。

語り部：米山正幸氏（北淡震災記念公園支配人、震災の語り部）

参加者：35 人



有料研修プログラム

■概要

対応回数：8回

受け入れ人数：114 名

中越防災安全推進機構職員を講師として、地域防災力向上を支援するための研修プログラムを有料で提供した。研修プログラムのテーマをきおくみらいホームページで紹介した。

月	日	団体名	都道府県	人数	講師・テーマ
6	21	上田市自治会連合会	長野県	23	河内毅「地域における災害の備えを考える」
6	22	小諸市区長会	長野県	27	諸橋和行「地域における災害の備えを考える」

7	8	山形県西村山郡朝日町消防団	山形県	10	河内毅「地域における災害の備えを考える」
8	30	福井市本庁職員組合ネットワーク	福井県	5	河内毅「地域における災害の備えを考える」
11	6	舟橋村議会	富山県	8	諸橋和行「地域における災害の備えを考える」
11	19	安曇野市消防団	長野県	20	諸橋和行「地域における災害の備えを考える」
11	25	一般社団法人リバイブジャパン	山梨県	8	野村卓也「災害ボランティアとボランティアセンターについて学ぶ」
12	4	栃木県国府地区自治会連合会	栃木県	21	野村卓也「地域における災害の備えを考える」

5. 職員派遣

気仙沼災害文化講演会

■概要

期日：平成 29 年 5 月 27 日（土）

概要：気仙沼災害文化講演会にて、災害伝承施設としての先行事例の紹介および今後の課題について紹介した。



日本学術振興学会 JSPS 実社会対応プログラム（公募型研究）

■概要

期間：平成 27 年 10 月～平成 30 年 9 月

平成 29 年度参集日：7 月 21 日

課題（研究領域）：「制度、文化、公共心と経済社会の相互連関」

研究テーマ：「効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究」

目的：災害に見舞われた被災地では、経験・教訓を継承するために展示、ガイド・語り部等の災害伝承活動が行われるが、それらの効果は未検証であり、利用者が経年的に減少するという課題がある。本研究は人文・社会科学の叢智を結集し、これら諸問題を改善する災害伝承拠点構築モデルの確立を目的とする。

内容：研究プロジェクトチームのメンバーとして参加し、新潟県中越地震を中心にして、過去の被災地での展示や語り部の事例にもとづいて実践への助言を行った。



NHK「復興サポート」

■概要

期日：平成 29 年 7 月 23 日（土）

概要：NHK 番組「明日へつなげよう～復興サポート～」公開収録出演。

岩手県陸前高田市役所にて公開討論番組として撮影、8 月 6 日（日）放映。

中越メモリアル回廊の取り組みを紹介。地域住民と共に、メモリアル施設で災害伝承を続けることの意義について議論した。



http://www.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D001510592_0000

いわて三陸復興フォーラム

■概要

期日：平成 30 年 1 月 27 日（土）

概要：岩手県、いわて未来づくり機構主催。

基調講演およびパネルディスカッション。

パネルディスカッションにおいて、中越メモリアル回廊の取り組みを紹介するとともに、施設を活用した地域づくり、コミュニティの再生、住民主体が主体となった防災の取り組みなどについて議論した。

併催：第 5 回「いわての復興を自治の進化に」シンポジウム、平成 29 年度第 3 回いわて復興未来塾

テーマ：希望をつなぐ地域防災とコミュニティ

講師：小宮山 宏氏（演題：「プラチナ社会の実現と復興」）

コーディネーター：坂口 奈央氏（元岩手めんこいテレビアナウンサー）

パネリスト：佐々木慶一氏（大槌町 安渡町内会会長）

二宮 雄岳氏（釜援隊 統括マネジメント）

小山 雄士氏（大槌町 震災検証室長）

山崎 麻里子（中越防災安全推進機構）



震災の経験・教訓を伝える活動の今後を考える研修会

■概要

期日：平成 30 年 3 月 29 日（木）～30 日（金）

概要：日本 NPO センター主催。仙台・秋保温泉・岩沼屋

東日本大震災から 8 年、国・自治体により、津波などの被災施設（遺構）の保存、教訓を伝える伝承施設、祈念公園の設置などハード整備が進んできている。一方で、被災経験・教訓を伝える活動は、各地の NPO や個人が担っているのが現状で、この分野では公的支援が充分とは言えない中で、実施団体は抱える様々な課題、プログラムの質的向上、担い手確保・育成、活動継続のための資金確保などを互いに補い、必要に応じて連携しながら、取り組んでいく必要が高まっている。被災経験・教訓を地域内外に伝える活動を行う団体同士が、互いの想いや活動内容を理解する時間、過去災害などの取り組みを聞く時間を設け、今後の協力・連携のきっかけの一助として、中越の取組を一時刻として紹介。



タケダ
いのち・くらし
再生プログラム
のびる・つながる・輝く

タケダ・いのちとくらし再生プログラム（第 2 期）
祝賀感謝化事業【テーマ別研修】

震災の経験・教訓を伝える活動の今後を考える研修会

■趣旨・目的
東日本大震災から 8 年目を迎え、国・自治体によって、津波などの被災をうけた施設（遺構）の保存、教訓を伝える伝承施設、祈念公園の設置などハードの整備が進んでいます。一方で、被災経験・教訓を伝える活動は、各地の NPO や個人が担っている現状です。
この分野の活動は公的支援が不十分であり、実施団体も様々な課題を抱えながら運営をしています。そのような状況の中、プログラムの質的向上、担い手確保・育成、活動継続のための資金確保などの課題を互いに補い、必要に応じて連携しながら、取り組んでいく必要が高まっています。
今回の研修は、被災経験・教訓を地域内外に伝える活動を行う団体同士が、互いの想いや活動内容を理解する時間、過去災害などの取り組みを聞く時間を設けて、今後の協力・連携のきっかけとなることを目指します。

■日程：2018 年 3 月 29 日（木）（1 日） 13:30-17:30
3 月 30 日（金）（2 日） 09:30-15:30

■会場：仙台 秋保温泉 岩沼屋 <https://www.rockinn.co.jp/>
〒982-0241 宮城県仙台市太白区秋保新町字岩沼 107



■プログラム（予定）	
1 日	
13:30(15分)	●開会・開校 出席 祝賀会 3 期（少額） ●懇話会：スタジール編成
13:45(30分)	●研修開始 自己紹介 ●仙台地区の被災アンケートを基にした自己紹介（1 日研修 3 分間）
15:30(75分)	●研修開始 自己紹介 ●研修 第 1 期（震災 NPO 法人、まち・コミュニティセンター 代表者等） - グループで感想共有 - 質疑の場
15:30	休憩
15:45(75分)	●研修開始 自己紹介（50 分） ●研修 第 2 期（公益社団法人、中越被災地支援協議会 事務局員） - グループで感想共有 - 質疑の場
17:10	●お茶の会
17:20	●研修開始
17:30	研修中：休憩（10 分）
18:30	●夕食 祝賀会 2 期（予定）
20:00	●2 日
2 日	
8:00	朝食（祝賀 7:30-9:00、お昼） 休憩 1 期（花みずき）
9:30 (10)	●開会・開校 - 1 日研修の振り返り
9:40 (130)	●研修開始 自己紹介 - 個人ワーク：経験・教訓を伝える活動の現状、目的など、課題を整理出す - 発表、個人ワークの結果を共有し共有する - グループワーク：4-5 人のグループに分かれて経験への理解を整理出す
11:50	昼食 休憩 1 期（花みずき）
13:00 (130)	●研修開始 自己紹介 - グループワーク：4-5 人のグループに分かれて経験への理解を整理し共有する
14:40(30)	●お茶の会 - 各グループからワークの感想を共有
14:50	●研修
15:05	●研修開始
15:15	●終了
15:30	送迎バス出発（仙台駅前口）

●参加者の数					
地区別	団体名	所在地	役職	お名前 (仮名)	参加
仙台地区	1 被災地復興協議会	宮城県	理事長	大橋 浩一	720
	2 一般社団法人 SAITO TAKETA	宮城県	理事	菅井 浩太	720
	3 被災地復興協議会 いわて復興推進センター	北上市	常任 2-チーフリーダー	大岡 博史	620
	4 被災地復興協議会	宮城県	常任 理事	鈴木 正	620
	5 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常任 理事 常務理事	佐藤 浩太	720
6 一般社団法人 復興センター	仙台市	代表理事	菅野 浩史	720	
7 公益社団法人 仙台市まちづくり	仙台市	常務理事	中川 浩史	720	
8 被災地復興協議会	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
9 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
10 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
11 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
12 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
13 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
14 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
15 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
16 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
17 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
18 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
19 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
20 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
21 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
22 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
23 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
24 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
25 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
26 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
27 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
28 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
29 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
30 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
31 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
32 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
33 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
34 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
35 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
36 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
37 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
38 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
39 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
40 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
41 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
42 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
43 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
44 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
45 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
46 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
47 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
48 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
49 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
50 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
51 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
52 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
53 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
54 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
55 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
56 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
57 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
58 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
59 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
60 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
61 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
62 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
63 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
64 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
65 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
66 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
67 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
68 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
69 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
70 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
71 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
72 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
73 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
74 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
75 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
76 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
77 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
78 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
79 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
80 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
81 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
82 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
83 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
84 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
85 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
86 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
87 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
88 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
89 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
90 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
91 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
92 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
93 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
94 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
95 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
96 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
97 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
98 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
99 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	
100 東北被災地復興協議会 復興センター	仙台市	常務理事	佐藤 浩史	720	



※参加者アンケートあり（日本 NPO センター提供）

6. 資料・情報収集

資料・情報収集

■概要

平成 29 年度（2 月 11 日現在）に「災害・文献データベース」に登録した災害関連資料数は下記の通り。

1. 書籍・雑誌等 145 冊
2. 写真データ 10 件
3. 新聞、チラシ、パンフレット等 31 件
4. 広報誌 54 冊
5. ウェブ資料 3 件
6. 物品 1 点
7. 音声データ 1 件

8. その他

地域安全学会 論文発表

■タイトル：中越メモリアル回廊におけるオープン 6 年目に見えた課題とその対応

Six years of challenges on operationg the CHU-ETSU Earthquake Memorial Corridor

■著者：山崎麻里子¹，山口壽道²，佐藤翔輔³，松本勝男⁴

- 1 公益社団法人中越防災安全推進機構，
- 2 公益財団法人山の暮らし再生機構，
- 3 東北大学災害科学国際研究所
- 4 公益社団法人中越防災安全推進機構

■期日：平成 29 年 8 月 5 日（土）

■会場：釜石市「釜石情報交流センター」

日本自然災害学会 査読論文発表

■タイトル：震災伝承施設に必要な要件の探索的分析

—木籠メモリアルパークへの再訪者に対する質的調査をもとに—

Explorative Analysis of Critical Requirements of Disaster Memorial Facilities

-Based on a Qualitative Survey of Repeat Visitors to the Kogomo Memorial Park-

■著者：山崎麻里子¹，佐藤翔輔²，山口壽道³，マリエリザベス⁴

- 1 公益社団法人中越防災安全推進機構
- 2 東北大学災害科学国際研究所
- 3 公益財団法人山の暮らし再生機構
- 4 東北大学災害科学国際研究所

■期日：平成 29 年 9 月 27 日（水）

■会場：長岡市「アオーレ長岡」

2. おぢや震災ミュージアムそなえ館

4. 事業活動状況

① 地域防災力向上支援

1. 防災学習体験プログラム参加団体の増加策



パンフレットを作成、利用実績のある旅行代理店、関東隣県基礎自治体の担当部署など 400 件配布し、来館及びプログラム参加を促進



ホームページの「みなさまの声」に参加団体の記録写真や感想を掲載、防災学習体験プログラム参加促進を図る。

2. 語り部さんの新規開拓、講話内容見直し。



防災サポートおぢや「大矢氏」 同「草野氏」 金子氏代理「広井氏」 市役所「真皿さん」
計4人がデビュー。また、語り部さんと相談しながら配布資料の改訂を行う。

3.ガイドブックの更新。

リニューアルで展示内容が更新、当館公式ガイドブックの内容も見直し。原稿は完成、印刷は来年度に。

4.小千谷市自主防災組織結成10周年記念行事をサポート（防災視察研修）

10月26～27日 福島第2原発、南相馬市、福島県環境創造センター交流棟（愛称：コミュタン福島）など自主防
組織連絡協議会幹部及び各町内会防災会の代表のみなさまと視察研修。原子力災害の現実を強く感じた有意義な研修となる。



1日目 福島第二原発 概要説明

発電所建屋内

原子炉圧力容器真下まで



2日目 南相馬市内や津波被災後を視察（南相馬市職員の方が丁寧に対応していただく）

コミュタン福島を見学

② 次世代防災学習支援

1. 市内小中学校防災教育支援の強化（有効活用提案）

ふるさと新潟防災教育推進事業（義援金活用メニュー）の推進、「中越大震災の日」制定等や市学校教育課さんが実施の小千谷市初赴の先生の見学ツアー、小千谷市教育研究会や新潟県教職員組合 小千谷北魚沼支部教育研究集会のサポートなど市内の小中学校で防災教育の取り組みが浸透し、当館利用も順調に増加している。



7月4日(火) 千田小学校6年生



7月6日(木) 小千谷小学校5年生(4クラス)



7月18日(火) 総合支援学校高等部



7月18日(火) 東小千谷小学校4年生



8月8日(火) 小千谷市初赴任の小中学校の先生方来館



8月23日(水) 県教組合 小千谷北魚沼支部
教育研究集会「防災教育」部会来館、研修



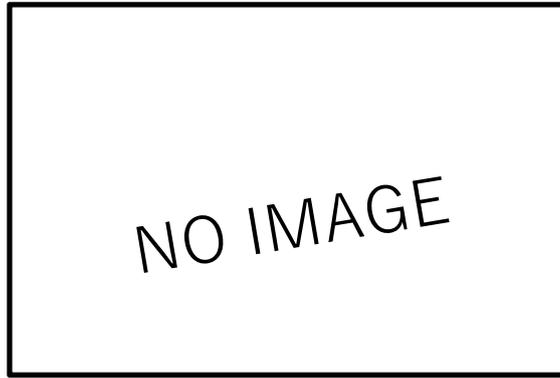
9月15日(金) 吉谷小学校4・5年生【おちゃ〜る出前】



9月30日(金) 吉谷小学校6年生(学年行事)



10月18日(水) 吉谷小学校 全校【出前】



10月19日(木) 小千谷中学校 全校【出前】



10月21日(土) 和泉小学校 全校+PTA【出前】



10月24日(火) 片貝中学校 1年生



10月25日(水) 千田小学校【出前】



11月1日(水) 小千谷小学校 5年4組(妙見同行)



12月5日(火) 東小千谷中学校 1年生【出前】



12月13日(水) 小千谷小学校 5年1組【出前】



1月31日（水）小千谷小学校5年1・2組【出前】 2月21日（水）小千谷小学校5年生総合発表会

小千谷小学校5学年4クラスは総合学習の授業で「中越地震から学ぶ～いま、わたしたちにできること」を学年テーマに、「オリジナル防災グッズについて」「普段の生活や地震の時の心構えについて」「小千谷小学校の防災設備について」「命を守る三カ条について」それぞれクラステーマを設け学習し、2月にその発表会を行い、学習の成果を共有化。半年にわたり本格的な防災教育に取り組んでいた。県内でも特筆できる防災教育事例である。来年度も継続する予定、できる限りサポートしたい。

2. 次世代防災学習体験プログラムの充実。



防災ワークシート：1日の生活時間を振り返り、地震発生時の危険事項をチェック



和泉小学校 PTA 役員のみなさまに防災工作を伝授 フローシステム（小型端末によるクイズやアンケート）

3. 子ども向け防災イベント「防災ジャングル」の実施。



【GW】新装になった3F防災レクチャールームで闇夜からの脱出防災ゲームを実施。

9日間で274人（市内34%、県内50%、県外26%）、子どもたちの満足度は高いアンケート結果をえられた。



【夏休み】前半・後半でチャレンジ内容を変え実施。

29日間、355人がチャレンジ（市内39%、県内37%、県外24%）概ね高評価。

【秋】（10～11月の土日祝実施）館内クイズラリー+防災工作を実施、19日間で222人がチャレンジ



45リットルのごみ袋を利用した防寒具づくり

館内クイズラリーの答え合わせ

【冬休み】

【春休み】



防災工作にチャレンジ 10日間で36人がチャレンジ 防災クロスワードパズルに201人が挑戦

4.防災学習プログラム運営の連携先を模索、また、セミナーや現場同行などでスタッフのスキルアップを図る。



リニューアル工事期間中 4月13～14日、首都圏防災学習施設視察（横浜市、千葉県、埼玉県）



7月1日、東京消防庁本所防災館視察

同日、北区地震センターを視察

また、今年、2月6日には静岡県地震防災センター視察を実施、担当責任者と意見交換を行う。

運営方法や展示方法などについて意見交換特に学校等の受け入れについて取材。それぞれの施設で様々な工夫や誘客活動など参考となった。

③ 展示内容の更新、企画展・イベントの実施などで個人来館客促進

1.東北、熊本地震被災地の取材、企画展の定期的な開催。

東北・熊本地震の被災地取材はスケジュール合わず、未実施



周年特別企画展「おぢやのそなえ」展をそなえ館とそなエリア東京で同時開催。



南相馬市ヘイエローフラッグメッセージ募集 (OGP さんより依頼)

3.11「忘れない」パネル展

【展示内容の更新（リニューアル後）】



受付カウンターにイメージボード設置 若年層向けのイメージアップを図る



小学校からの礼状などを展示するボード設置

我が家の防災グッズ投票を実施（シールを貼る）

2.リニューアルの機会をとらえたイベントの実施（オープニング、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休みなど）



4月23日、大勢の方々を支えられ無事リニューアルオープン、市民を中心にたくさんの方々が来館。来館記念として「そなえ缶」をプレゼント。



10月23日、米山知事と小千谷の語り部さんたちとの懇談会を実施、追悼式典（防災サポートおぢやさんと共催）

また、リニューアル記念の中越メモリアル回廊+まちからでスタンプラリーを実施。県観光協会スタンプラリーと相まって個人客の来館数に貢献。(回廊スタンプラリー199人、うまさぎっしりスタンプラリー825人)

3.地元イベントや首都圏等関連への出店、PR。



小千谷市防災訓練に出店



小千谷市生涯学習集中セミナーをそなえ館で開催(2回) そなえエリア東京 出前講座を開催

【データ編】

■地元団体活用一覧（学校除く）

月	日	曜日	団体名
4	26	水	東山地区福祉会【出前】
4	28	金	新潟県内市選挙管理委員会連合会
4	28	金	つくし幼稚園
4	28	金	千谷島の家(ディサービス)
5	23	火	木津町福祉会
5	27	土	さつき工房
6	22	木	小千谷淡交会
6	23	金	高校退職者の会
7	8	土	千谷川公民館
7	9	日	日吉町内会
7	15	土	地方創生・交流自治体連携フォーラム
7	21	金	震災メモリアルツアー
7	22	土	関山地区自主防災班
7	23	日	吉谷中学校第8回 同級会
7	29	土	こども元気フェスティバル (OGP)
8	8	火	小千谷市教育委員会 学校教育課
8	17	木	おぢや童夢
8	22	火	小千谷市教育研究会 (社会科部会)
8	23	水	新潟県教職員組合 小千谷北魚沼支部
8	26	土	みのわの里 工房かわさき
10	3	火	税理士会 小千谷支部
10	20	金	片貝福祉会
10	24	火	魚沼地域退職者連合
10	27	金	八珍柿の会
10	29	日	なでしこ小千谷支部
11	19	日	船岡町町内会行事
12	3	日	片貝町一之町二区町内会 【出前】
12	8	金	平成 29 年度 生涯学習集中セミナー「戊辰戦争から学ぶ危機管理」1 回目
12	14	木	平成 29 年度 生涯学習集中セミナー「戊辰戦争から学ぶ危機管理」2 回目
2	8	木	小千谷市役所 (H29 新規採用職員)



東山地区福祉会【出前】



震災メモリアルツアー



船岡町内会防災訓練



小千谷市役所 (H29 新規採用職員)

合計 610 人（団体）利用実績。自主防災会や福祉関係で活用

■学校関係一覧（小中学校及び教職員）

月	日	曜日	団体名	人数	エリア	市町村	有料
5	12	金	杉並区立 東田中学校	103	東京都	杉並区	
5	16	火	杉並区立 神明中学校	85	東京都	杉並区	●
5	19	金	杉並区立 荻窪中学校	90	東京都	杉並区	
6	1	木	長岡市立 小国中学校	19	新潟県	長岡市	
6	15	木	文京区立 本郷小学校	76	東京都	文京区	●
6	15	木	文京区立 駒本小学校	24	東京都	文京区	
6	16	金	柏崎市立 新道小学校親子行事	71	新潟県	柏崎市	●
6	18	日	魚沼市立宇賀地小学校 3 年生 学年行事	32	新潟県	魚沼市	●
6	20	火	文京区立 柳町小学校	78	東京都	文京区	
6	22	木	長岡市立 宮内中学校 1 年生（1 回目）	60	新潟県	長岡市	●
6	22	木	長岡市立 山古志中学校	12	新潟県	長岡市	
6	23	金	長岡市立 宮内中学校 1 年生（2 回目）	63	新潟県	長岡市	●
6	23	金	文京区立 礪川小学校	67	東京都	文京区	
6	23	金	文京区立 湯島小学校	50	東京都	文京区	
6	26	月	長岡市立 宮内中学校 1 年生（3 回目）	64	新潟県	長岡市	●
6	27	火	柏崎市立 北条小学校 6 年生	35	新潟県	柏崎市	●
6	27	火	文京区立 金富小学校	58	東京都	文京区	
7	4	火	小千谷市立 千田小学校 6 年生	24	新潟県	小千谷市	
7	6	木	小千谷市立 小千谷小学校（2 クラス）	148	新潟県	小千谷市	
7	7	金	杉並区立 中瀬中学校 1 年生	128	東京都	杉並区	●
7	8	土	文京区立 汐見小学校 6 年生	40	東京都	文京区	
7	11	火	南魚沼市立 六日町小学校 6 年生	68	新潟県	南魚沼市	●
7	18	火	小千谷市立 東小千谷小学校 4 年生	58	新潟県	小千谷市	
7	18	火	小千谷市立 総合支援学校 高等部	29	新潟県	小千谷市	
7	18	火	上越市立 東本町小学校 6 年生	70	新潟県	上越市	
7	22	土	江戸川区立 清新第一中学校	21	東京都	江戸川区	
7	24	月	三郷市立 彦成小学校 6 年生 3 クラス	102	埼玉県	三郷市	
7	25	火	江東区 浅間堅川小学校 5 年生 3 クラス	198	東京都	江東区	
7	27	木	江戸川区立 小松川第三中学校 2 年生	67	東京都	江戸川区	
8	8	火	小千谷市教育委員会 学校教育課	27	新潟県	小千谷市	
8	21	月	江戸川区立 葛西第三中学校 2 年生	111	東京都	江戸川区	

8	22	火	小千谷市教育研究会（社会科部会）	5	新潟県	小千谷市	●
8	23	水	新潟県教職員組合 小千谷北魚沼支部	27	新潟県	小千谷市	
9	10	日	文京区立 昭和小学校 6年生	86	東京都	文京区	●
9	15	金	小千谷市立 吉谷小学校 4/5年生【出前】	38	新潟県	小千谷市	
9	15	金	文京区立 千駄木小学校 6年生	100	東京都	文京区	●
9	22	金	文京区立 林町小学校	81	東京都	文京区	●
9	23	土	文京区立 大塚小学校	30	東京都	文京区	●
9	24	日	文京区立 根津小学校	47	東京都	文京区	
9	26	火	文京区立 駕籠町(かごまち) 小学校	54	東京都	文京区	●
9	29	金	文京区立 指ヶ谷(さすがや) 小学校	32	東京都	文京区	
9	29	金	文京区立 関口台町小学校	67	東京都	文京区	●
9	30	土	小千谷市立 吉谷小学校 6年生(学年行事)	23	新潟県	小千谷市	
10	13	金	上越市立 春日中学校 1年生	32	新潟県	上越市	
10	18	水	小千谷市立 吉谷小学校【出前】	90	新潟県	小千谷市	
10	18	水	加茂市立 若宮中学校【出前】	118	新潟県	加茂市	
10	19	木	新潟大学附属長岡中学校 1年生	124	新潟県	長岡市	
10	19	木	小千谷市立 小千谷中学校【出前】	516	新潟県	小千谷市	
10	21	土	小千谷市立 和泉小学校【出前】	154	新潟県	小千谷市	
10	24	火	小千谷市立 片貝中学校 1年生	40	新潟県	小千谷市	●
10	25	水	小千谷市立 千田小学校【出前】	167	新潟県	小千谷市	
11	1	水	小千谷市立 小千谷小学校 5年4組	38	新潟県	小千谷市	
11	2	木	長岡市立 大島小学校 5年生	112	新潟県	長岡市	
11	24	金	長岡市立 栃尾東小学校 3年生	43	新潟県	長岡市	
12	5	火	小千谷市立 東小千谷中学校 1年生【出前】	61	新潟県	小千谷市	
12	19	火	小千谷市立 東山小学校(1~6年生)	22	新潟県	小千谷市	
1	31	水	小千谷市立 小千谷小学校 5年1・2組【出前】	74	新潟県	小千谷市	
2	19	月	魚沼市立 入広瀬小学校 5年生	8	新潟県	魚沼市	
3	13	火	長岡市立 川口中学校 1年生	41	新潟県	長岡市	

40校 3,302人に対応

■団体昼食場所/宿泊温泉地

順位	昼食場所	団体数	人数
1	サンプラザ	28	587
2	わたや(平沢店)	26	423
3	深雪の里(魚沼市)	11	251
4	山古志弁当(長岡市)	10	193
5	寺泊(長岡市)	9	243

宿泊温泉地	団体数	人数
蓬平温泉(長岡市)	22	500
月岡温泉(新発田市)	21	412
湯沢温泉(湯沢町)	11	246
瀬波温泉(村上市)	8	156
寺泊温泉(長岡市)	7	101

6	魚野の里（南魚沼市）	8	200
7	角屋（本店）	7	144

有効回答 120 団体

岩室温泉（新潟市）	6	99
大湯温泉（魚沼市）	6	98

有効回答 126 団体

■防災学習体験プログラム及び語り部講話実施一覧（学校除く）

月日	団体 種	取引先	参加人数	語り部/プログラム名
5/13	3	ガールスカウト新潟県第1団 事務局	29	プログラム体験
5/14	7	上里親睦会(民児協)	38	石坂氏
5/21	1	金沢市安原地区町会連合会	24	風間氏
5/27	1	さくら会	14	金子氏
6/3	1	さいたま市消防団岩槻第2分団	15	金子氏
6/8	7	荒川地区民生委員協議会	11	佐藤知己氏
6/9	7	津幡町民生委員児童委員協議会	59	佐藤知己氏
6/11	7	長野市第三地区民生児童委員協議会	11	石坂氏
6/19	1	平塚消防団	25	金子氏
6/19	7	立川市民児協	20	石坂氏
6/23	1	団体長研修会	23	風間氏
6/25	1	東金子地区区長会	34	風間氏
6/26	3	長岡市宮内中学校	70	桑原先生
6/26	1	唐子地区区長会・ハートピア協議会	26	風間氏
6/26	7	佐渡市両津地区民生委員児童委員協議会	25	石坂氏
7/1	8	北杜社協	14	篠田氏
7/2	1	新潟市西蒲区潟東地区連合自治会	20	風間氏
7/6	1	龍江地区まちづくり協議会	13	プログラム C
7/7	9	JICA 研修「中央アジア・コーカサス総合防災行政」コース	10	細貝
7/13	1	安曇野市堀金地域区長会	22	風間氏
7/13	5	島根県雲南市議会	9	関田さん
7/21	3	神川町消防団	21	金子氏
7/28	7	和島地区民生・児童委員協議会	15	石坂さん
7/28	9	東京書籍株式会社 社会編集部	8	佐藤知己氏
8/3	1	知多地域消防長会	15	金子氏
8/18	8	神川町社会福祉協議会	17	プログラム C
8/22	1	日本赤十字社長野県支部飯綱町分区	40	桑原先生
8/22	3	小千谷市教育研究会	5	細金剛氏
8/25	1	上里町区長会	55	風間氏
8/27	8	昭和村社会福祉協議会	28	プログラム体験

8/29	1	榛東村区長会	21	風間氏
9/3	1	鳥原新田自治会	12	風間氏
9/12	1	川越市自治会連合会 大東支会	42	風間氏
9/12	7	亶理町民生委員児童委員協議会	40	石坂氏
9/28	1	長野県下伊那郡喬木村 小川区議会	13	風間氏
10/1	1	福島市消防団 第二方面隊	20	金子氏
10/10	3	長岡大学 山川ゼミナール	11	和田
10/12	1	下大島町西団地自治会	36	風間氏
10/14	1	群馬県危機管理室	14	風間氏
10/16	8	南魚沼なじょもネット	14	羽鳥氏
10/16	7	舘岩地区民生委員児童委員協議会	11	石坂氏
10/17	7	若穂地区民児協	23	大矢氏
10/17	7	こばと会	21	大矢氏
10/17	1	紫竹山校区コミュニティ協議会	14	風間氏
10/19	7	座間市第5地区民児協	20	石坂氏
10/20	1	桑折町消防団	11	金子氏
10/20	9	鴻巣市防火安全協会	11	大矢氏
10/22	9	平塚建設業協会 なでしこ会	11	草野氏
10/24	2	JA にいがた岩船女性部全体研修	34	佐藤笑子さん
10/24	9	南陽市危険物安全協会	13	金子氏
10/24	1	駒ヶ根市区長会	18	風間氏
10/26	1	白鳥町自治会長会	19	プログラム C
10/27	7	伊勢崎市民生児童委員地域福祉委員会	95	瀬沼さん
10/27	7	朝陽地区民生児童委員協議会	19	石坂氏
10/28	9	商工会第6ブロック連絡会	26	藤田氏
10/30	1	岩室地域コミュニティ協議会	40	風間氏
10/31	7	みどり市民生委員児童委員協議会	34	石坂氏
11/2	4	江戸川水防事務組合	26	佐藤知巳氏
11/4	1	坂井輪中学校区まちづくり協議会 女性支援隊	15	佐藤笑子さん
11/4	1	袋井市役所防災課	4	佐藤知巳氏
11/5	1	第一天川町自治会	22	和田さん
11/5	1	西会津町消防団	17	広井氏
11/6	8	青海ボランティア協議会	15	桑原先生
11/6	1	桐生市婦人消防隊	24	佐藤笑子さん
11/7	1	福島市鎌田地区町内会連合会	12	風間氏
11/7	2	JA 総務部会 南信支部	15	プログラム C
11/9	7	新発田市第二地区民生委員児童委員協議会	23	石坂氏
11/11	1	東半田自主防災会	14	風間氏
11/11	1	山寺コミュニティ振興会	15	風間氏

11/11	4	中越森林管理署	10	草野氏
11/12	1	日和ヶ丘自治会	50	和田さん
11/13	4	松伏町役場	4	プログラム B
11/13	5	笛吹市議会（誠和会・笛政クラブ）議員合同研修	7	関田氏
11/16	1	市川市婦人消防クラブ	24	佐藤笑子さん
11/16	1	江南区自治協議会 安心安全部会	17	風間氏
11/17	1	和良町自治会長会	12	風間氏
11/18	9	仙台ライフライン防災情報ネットワーク	4	プログラム B
11/20	9	長崎市自衛消防連絡協議会	10	佐藤和美さん
11/25	1	女池校区コミュニティ協議会	43	風間氏
11/26	9	(一社)リバイブジャパン	8	篠田氏
11/26	1	心の絆でつながった交流拡大支援事業	20	風間氏
11/27	1	石神井 VFC（消防団）	42	金子氏
11/28	1	胎内市自主防災組織連絡協議会	50	風間氏
11/30	2	甲州市老人クラブ連合会	28	星野氏
12/3	1	渋川市役所防災安全課	22	風間氏
1/15	1	久喜市消防団	9	金子氏
2/20	1	小手指まちづくり協議会	29	風間氏
2/22	1	藤沢市商業ビル防火連絡協議会	13	風間氏
3/8	1	胎内市東牧自主防災会	22	風間氏
3/27	2	コープぐんま沼田ブロック委員会	23	プログラム体験

■主な広報活動

日付	内容
4月6日	リニューアルオープニングチラシ・ポスター配布
4月10日	小千谷市「市民だより」に記事掲載
4月17日	防災ジャングル GW イベントチラシ配布
4月21日	新潟日報社記事掲載
4月21日	NHK 新潟放送局取材
4月21日	Teny 新潟一番生放送
4月21日	FM 新潟「おぢやふあんふあんチャンネル」取材・放送
4月22日	新潟日報全県版竣工広告掲載
4月22日	小千谷新聞リニューアル取材記事掲載
4月24日	NHK 新潟 610 で放送
4月28日	雑誌「旅行読売」広告掲載
5月5日	FM 新潟「おぢやファンファンチャンネル」イベントPR
随時	スタンプラリー（うまさまるごと）春・夏版、秋版

随時	回廊スタンプラリー
6月30日	高速SA配布チラシ広告掲載（川口SA）
7月8日	小千谷新聞 メモリアルツアー参加者募集記事掲載
7月10日	小千谷「市民だより」メモリアルツアー参加者募集記事掲載
7月16日	関越自動車道上里SA、越後川口SA、PR用チラシ配布
7月18日	夏休みイベントPRチラシ配布
8月1日	小千谷新聞取材、8/5掲載（夏休み防災イベント）
8月9日	まるごと生活情報8月号掲載
8月19日	新潟日報イベント記事掲載
8月末	「教育旅行」10月号雑誌記事掲載
9月25日	企画展チラシ県内主要観光施設に配送
9月10日	小千谷「市民だより」チラシ講演会告知掲載
10月3日	そなエリア東京企画展
10月8日	そなエリア東京出前講座
10月15日	小千谷市総合防災訓練会場出店
10月26日	小千谷市自主防災組織連絡協議会10周年記念事業研修旅行共催
10月28日	小千谷新聞、知事懇談会、和泉小学校出前講座記事掲載
10月31日	新潟日報ふむふむ、和泉小学校防災教室記事掲載
12月24日	パンフレット代理店・自治体担当部署に送付
1月6日	新潟日報、防災イベント取材記事掲載
1月30日	小千谷郵便局スタンプラリー用紙施設PR掲載
2月18日	東日本放送（テレビ朝日系）取材対応（3.11）
2月23日	東北放送取材対応（3.11）
3月9日	エフエム新潟番組出演（3.11）

3. 山古志復興交流館おらたる

○年間来館者数

30,288 名(一般客:23,006 名、団体客:7,282 名)

平成 29 年度は、エレベーター・スロープの工事のため 11 月 4 日から 3 月末まで休館をしたが、来館者は 3 万人を超え年間目標を達成することが出来た。

おらたる主催の事業のほか、他団体と連携しおらたるを活用した企画等に取り組んだが、通常の施設運営と事業の企画実施の業務バランスが悪く、思うように事業の企画実施が行えなかったことが課題としてある。通常の施設運営業務を効率よく行っていくとともに来館者獲得、満足度の向上につながる事業に次年度も取り組んでいきたい。

①震災体験と復興経験の発信

1.山古志住民ガイド、語り部の活用促進

山古志住民ガイド利用数:119 件(2,297 名)

語り部利用数:13 団体(228 名)

2.木籠メモリアルパークを含む地域内周遊バスツアーの実施

住民ガイドと行く！山古志里山めぐり

日 時:7 月 2 日～10 月 29 日(実施回数 21 回)

場 所:やまこし復興交流館おらたる及び山古志地域内

参加者:149 名

概 要:一般来館者を対象に山古志の魅力を知ってもらうため、住民ガイドの案内で山古志を巡るツアーを実施した。

木籠メモリアルパーク、中山隧道、棚田・棚池の景観、アルパカ、闘牛などの地域資源を、住民ガイドが案内することで、地域資源と住民ガイドの PR につながった。



3.防災&山古志学習プログラムの活用

プログラムの活用

概 要:防災&山古志学習プログラムを活用した小中学生の受入に取り組み、年間 5 団体を受け入れた。

- ・5 月 19 日長岡市立青葉台中学校 2 年生(59 名)
- ・6 月 15 日長岡市立黒条小学校 5 年生(105 名)
- ・6 月 22 日長岡市立山古志小学校 1・3 年生(8 名)
- ・9 月 11 日小千谷市立小千谷中学校 1 年生 1・2 組(64 名)
- ・9 月 13 日柏崎市立北条小学校 6 年生(17 名)

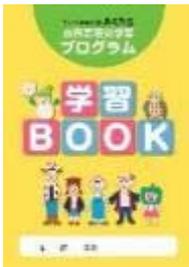
・9月25日小千谷市立小千谷中学校1年生3・4組(62名)

・9月29日小千谷市立小千谷中学校1年生5組(31名)



チラシ・学習 BOOK の増刷

概要: 防災 & 山古志学習プログラムに活用しているチラシ、学習 BOOK の増刷を行った。内容については、より活用しやすくするため改訂も行った。



4. 企画展・周年事業の実施

山の暮らしと錦鯉展

日時: 4月29日～5月14日

場所: やまこし復興交流館おらたる 1階交流スペース

参加者: 3,076名(期間中来館者数)

概要: 山古志を含む一帯地域が日本農業遺産認定されたことをPRする展示として実施した。日本農業遺産に関する展示に加え、5月5日に新潟県の鑑賞魚に指定された錦鯉の写真の展示も行った。錦鯉の写真はヒロスイ写真館の協力を得て大きなパネルを設置でき、来館者の目を惹く企画展となった。



泳ぐ芸術品「錦鯉」 鯉師の暮らし

日時: 8月2日～8月31日

場所: やまこし復興交流館おらたる 2階大ホール

概要: 昭和49年より山古志を撮影し続けているカメラマン・片桐恒平さんの写真展を共催事業として実施した。県の鑑賞魚に錦鯉が指定されたことを祝し、錦鯉を飼育する鯉師にスポットを当てた展示を行った。



村長、ありがとう展

日 時:8月19日～11月3日

場 所:やまこし復興交流館おらたる 1階交流スペース、2階展示スペース前室

参加者:13,683名(期間中来館者数)

概 要:長島忠美館長が8月18日に逝去した。中越地震で被災した山古志村の最後の村長としても手腕を発揮してくださった村長を偲び、特別企画として「村長、ありがとう」展を行い、写真パネルや遺品の展示、またメッセージボードや芳名帳も設置した。長島館長を偲ぶ多くの方が来館した。



つなごう山古志の心展

日 時:9月9日～11月3日

場 所:やまこし復興交流館おらたる 全館

参加者:10,871名(期間中来館者数)

概 要:多くの方に向けて震災体験や復興経験を発信することを目的に、パネルの展示を行った。震災10周年から毎年この展示の期間に設置している住民たちの笑顔で棚田を描いたモザイクアート「山ん笑」は、今年も来館者の反応が非常に良かった。



チラシの送付等

概 要:チラシ等の送付、またカラーコピーを行った。

5.住民ヒアリングの実施

住民証言カードの作成

概 要:地域住民から聞いた話(震災の体験談や昔話など)を証言カード(メモ)として集積した。(計9枚)

②地域の交流促進に向けたゲートウェイ機能強化

1.フィールドナビゲーションシステム(山なび)の管理更新・活用促進

概 要:活用を促進するため、スタッフによる更新に力を入れた。(投稿数:146回)

2.パンフレット、インフォメーションボード、SNS による地域情報の発信

パンフレットの作成

概要:おらたと山古志地域の情報を発信するためのパンフレットを作成した。(1 万部)

パンフレットの送付

概要:旅行代理店等へパンフレットの送付を行った。

SNS による情報発信

概要:ホームページ、Facebook に加え、今年度おらたの Twitter を開設し地域情報の発信を行った。(250 回)

3.住民と来館者の交流の場作り

概要:地域住民が受入家庭として交流をしている関東圏の中学校からの民泊体験(山古志グリーンツーリズム協議会)や、東洋大学の学生が山古志での暮らしを体験する山の暮らし体験学校(山古志住民会議)において、開村式・閉村式またはお土産作り体験の会場として利用があった。



4.訪日外国人旅行者対応強化

概要:山古志のゲートウェイとして、英語版パンフレットの設置のほか、訪日外国人向けの Free Wi-Fi のログインカードの配布等を行った。

5.ポストカード作成用プリンターの導入

概要:来館者が自分のスマートフォン等で撮影した写真をポストカードにし、山古志・おらたに来た記念として持ち帰ることが出来る Wi-Fi プリンターを導入した。山の暮らし体験学校で山古志を訪れた大学生からの利用があり、体験の中で撮影した写真や山古志の景観写真などでポストカードを作成して記念品として持ち帰ってもらった。

11 月 4 日から休館に入ったため、活用促進は次年度さらに力を入れて行っていく。



③地域経営拠点としての取り組み

1.コミュニティビジネスの推進

概要:山古志住民会議などの連携団体がおらたるを活用し、山古志の食をテーマにした情報発信に取り組み、コミュニティビジネスを推進した。



2.やまの学び場の実施

場所:やまこし復興交流館おらたる 2階大ホール、1階交流スペース

参加者:合計 137名

概要:地域外からの来館者が山古志について学ぶ場として、「1000年の山古志」などの上映会を行った。(計12回)
また地域内の子どもたちの学習の場として、スタッフによる学習塾も開催した。(計7回)



3.地域づくり活動との連携

まちの駅との連携

概要:越後長岡まちの駅ネットワークの会員として、シールラリーのチェックポイントとして参加者対応を行った。

関連機関への送付

概要:関連機関へ書類の送付を行った。

4. 川口きずな館

1.地域の情報収集

○『地域のきずな』情報の収集

前年度から「震災のエピソード」や「川口地域の昔話」などをテーマに継続して情報収集。

個人への依頼だけでなく、懇親会や茶会などの地域の方を集めて直接話を聞けるようなイベントでも聞き取りを行う。

ただ、これらはいくまでNPO事業としての聞き取りであり、きずな館スタッフによる個別の聞き取り・情報収集は難航している。

今後上記内容を資料化するにあたって、来館者に対して「川口らしい」「きずな館らしい」情報の収集及び発信が今後の課題となる。



懇親会

出張茶会

○語り部の依頼と情報の整理・登録

上記『地域のきずな』情報収集と連動して、これらを語れる語り部を新規で9名追加登録し、震災だけでなく多様な分野で来館者に川口地域を知ってもらう取り組みを強化。

こちらも上記と同様、きずな館としての運用実績は乏しく、蓄積した情報の資料化と共にこれらを語る語り部の実践の場の検討が必要となる。

元復興支援員としての目線から
復興を語る川口中学校にて
語り部による講演

2.地域を活性化するイベントの実施

①『くらサポ主催』のイベント

●木曜しゅげいぶ

今年度4月から、元復興支援員の脇田妙子氏を講師に招き、毎週木曜日に手芸を趣味とする人達の集いの場として「木曜しゅげいぶ」を開催。「気軽の趣味の集い」として利用促進を狙う。8月は夏休みの子供を対象に工作体験のような形で実施。

実施期間：4月～8月 毎週木曜日（計18回開催）

参加者数：合計18名



●つきいち手芸教室

毎週開催の「木曜しゅげいぶ」の他に、毎月第2木曜日に講師によってテーマを設けて開催する「つきいち手芸教室」を開催。

実施日	イベント名	参加者数
4/13（木）	さくらの切り紙づくり	2名
5/11（木）	刺繍教室	2名
6/8（木）	小物入れ作り	1名
7/13（木）	水引でアクセサリ作り	11名
9/14（木）	こぎん刺しブローチ作り	6名
10/12（木）	北欧風デザインアクリルたわし作り	2名
11/9（木）	クリスマスリース作り	2名
12/14（木）	布の手提げ袋作り	1名
1/11（木）	水引アクセサリ作り	4名
2/8（木）	つまみ細工	6名
3/8（木）	入園・入学グッズ作り	12名



●子育て応援☆まったり会

これまできずな館としても関係性が手薄だった子育て世代を対象としたイベントを開催し、田舎町の特殊な育児環境下で不安を抱える子育て世代が気軽に情報交換できる環境を提供。

実施日	イベント名	参加者数
10/8 (日)	親子でBBQ	21名
12/17 (日)	巨大ダンボール迷路で遊ぼう!	31名
2/17 (土) ~23 (金)	雪色水遊び	5名



親子でBBQ



ダンボール迷路遊び



雪色水遊び

②『あなたが主役』のイベント (持込みイベント)

●木の実のクラフト教室&アメリカンフラワー教室

主催：佐藤かつ子氏、小池久美子氏

前年度から継続で開催。毎月第2金曜日にクラフト教室を開催。

実施日	参加者数
4/14 (金)	3名
6/9 (金)	4名
7/14 (金)	6名
9/8 (金)	5名
10/13 (金)	4名



●W-FUKUYAMA ツアーL I V E

実施日：5月27日（土）

主催：喜多村茜氏、福山竜一氏

参加者数：35名

全国各地でツアーライブを行っているアーティストの会場の1つとして地域住民のコーディネートで川口きずな館を利用。



●川口図書クラブ

実施日：6月3日（土）

主催：中越図書委員会

参加者：13名

本が好きな人達が集まり、自分の好きな本を持ち寄って紹介し合ったり、本を使ったレクリエーションを行うなど、本を媒介とした交流・趣味のコミュニティ形成を目的としたイベント。



●星野福太郎写真展、福の茶会

実施日：展示 10月18日（水）～10月30日（月）

茶会 10月21日（ど）

主催：yamakawa_sun

参加者数：15名（茶会）

今年で99歳を迎える木沢在住の星野福太郎さんの100年前から変わらない農法や昔ながらの生活を伝える写真展を開催。

期間内に星野福太郎さんご本人を招いたお茶会も開催。



●狛江市友好都市提携30周年記念写真展

実施日：1月12日（金）～21日（日）

主催：長岡市 川口支所

東京都狛江市との友好都市提携から今年でちょうど30周年を迎えるため、これまでの30年間の交流の歩みをまとめた写真展を開催。



③夜のきずな館（多世代交流の場作り）

前年度から継続事業として夜間の交流イベントである「夜のきずな館」を年間4回開催。

前年度に比べて参加者数規模、20～30代の参加率が増加。

参加地域も川口地域内だけに拘らず、長岡・魚沼・小千谷など、他地域からの参加もあり、より多くの層の多世代交流の場の足掛かりとなる。

実施日	イベント名	参加者数
6/3（土）	新生活！新たな飲み友と出会おう！	39名
8/5（土）	浴衣！花火！きずな館 summer★party	32名
9/30(土)	featuring ながおか若者会議@古民家	39名
12/16(土)	きずな館 忘年クリスマスパーティ	34名



6月開催



8月開催



9月開催



12月開催

3.周辺地域・施設との連動（地域経営指標に基づく活動）

○周年事業の開催

毎年開催している追悼式典は今年度は規模を縮小し Song Of The Earth の開催をせず屋内施設で追悼のみを行った。また今年度は会場にてキッチンカーの出店をしドリンクやスープ等の販売を行う。

川口中学校の生徒による震央メモリアルパークの植栽は荒天により今年度は中止。



追悼式典



式典会場にて出店

○地域イベントへの参画

川口きずな館の活動 PR も兼ねて地域のお祭りやイベント等に出店。

きずな館で販売しているドリンク類に加えて、お祭り限定の商品も販売。



川口まつり 参画



雪洞火ぼたる祭 参画

5. 妙見メモリアルパーク

■公園内清掃作業

除草・清掃作業を実施（7月6日）

除草・清掃作業を実施（10月4日）

■記帳台・献花の設置（10月23日）

中越地震発災日に、犠牲になられた方への追悼と祈りのための来訪者のため、記帳台と献花を設置。
悪天候により、短時間の設置となる。



6. 木籠メモリアルパーク

■施設維持管理

中越地震の震災遺構として保存している水没家屋（2棟）の維持管理を実施。

①流出防止柵設置

保存家屋の流出防止柵の設置（6月16-17日）。積雪期間に撤去していた、ネットを再設置。
上流側家屋へアプローチのための仮設道路が、渡河部分で一部流失。仮復旧を要した。

	施工前	施工後
--	-----	-----



②流出防止柵撤去

上流側家屋へのアプローチの都度、仮設道路の復旧を要することから、上流側家屋の積雪期間撤去を実験的に見合わせ、下流側家屋のみ撤去（11月17日）。

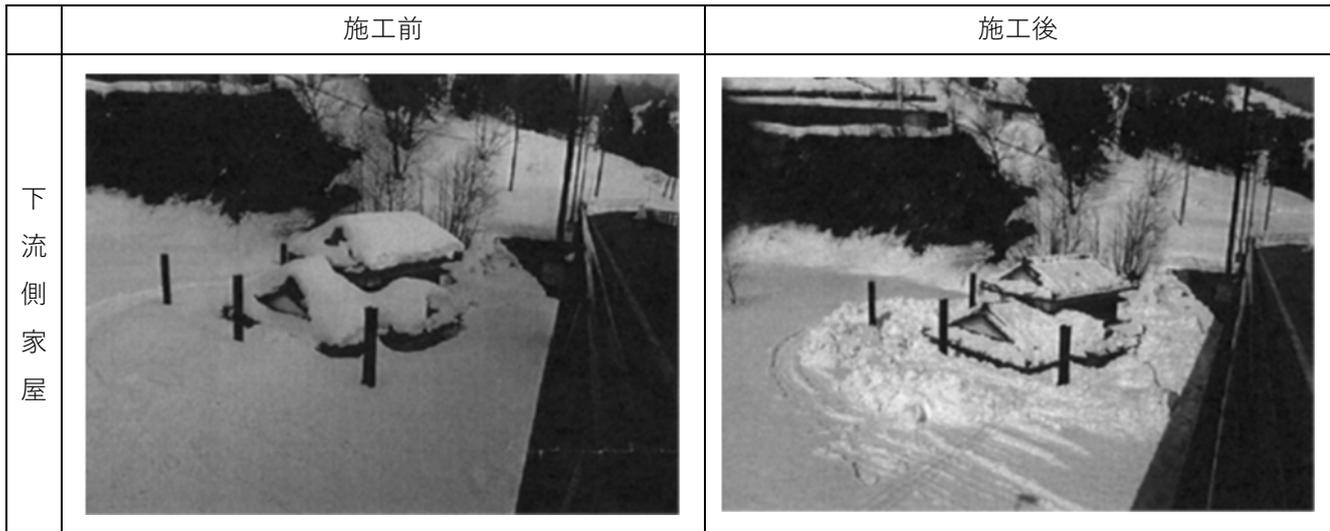
今後の対応について、今冬の経過を評価のうえ、再設置・撤去の必要性を検討する。

	施工前	施工後
--	-----	-----



④ 除雪

積雪による保存家屋倒壊等の対策のため、除雪を実施（2棟）。今冬は積雪量が多く2度実施した（1月19日、2月26日）。



7. 震央メモリアルパーク

■7月18日豪雨災害により震央標柱付近法面が崩落、土砂が流出したほかエリア一帯の棚田等にも土砂が流出するなどの被害があった。地権者関係者と復旧方法を検討し、震央標柱を展望広場に移設することとし、それに伴い地盤整地・捨てコン・コンクリ舗装・移設・向き調整・地固め工事を9月7～11日に実施した。

	施工前	施工後
土砂崩落		
展望広場		

■メモリアルパーク維持管理費

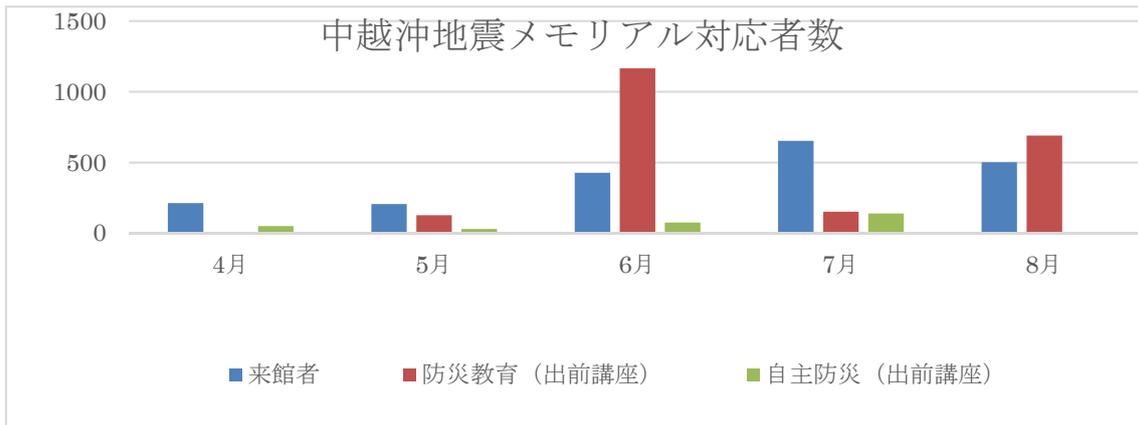
施設内看板の設置撤去、東屋の設置撤収作業、環境整備等を実施。その費用を拠出

■施設案内看板設置場所である県道の道路占用料を拠出

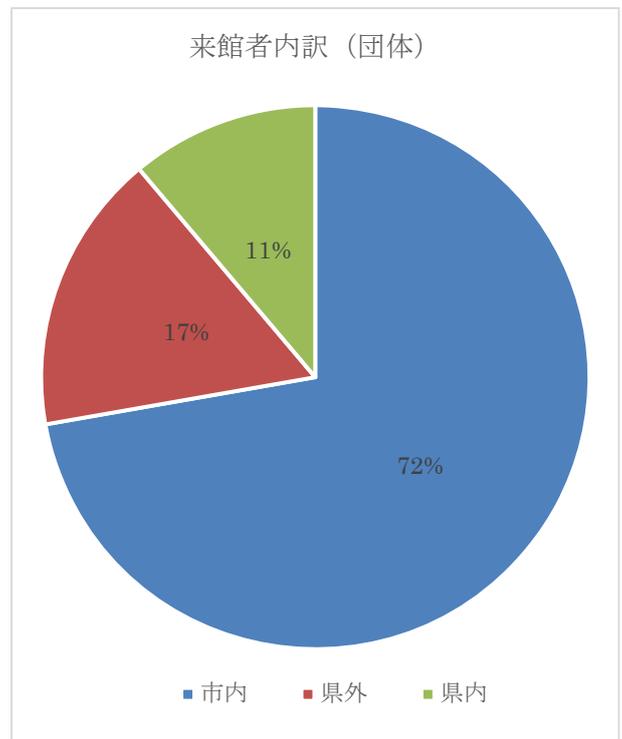
8. 中越沖メモリアルまちから前期報告

○ 来館状況

	4月	5月	6月	7月	8月	合計
来館者	213	206	427	653	502	2001
防災教育（出前講座）	7	127	1165	152	690	2141
自主防災（出前講座）	50	30	75	140	0	295
合計	270	363	1667	945	1192	4437



- ・ 開館（27年11月）から29年8月まで、メモリアルへの来館者累計は7,639人（月平均347人）。まちから全来館者の約30%。
- ・ 平成29年4月～8月のメモリアル来館者は2,001人（月平均400人）。
- ・ 来館者の傾向は一般（個人）が多く、かつ「柏崎市内」からが7割以上。
- ・ 団体（メモリアルのみ）での来館は18団体となり、市内の利用が多い。一団体の平均利用者数は42人。
- ・ メモリアルでは防災教育の取り組みに力を入れており、市内の学校へのアプローチを通じ、学校からの利用問い合わせが増えている。今後の防災学習目的の来館が期待できる。
- ・ 地域外からの誘客施策として、中越メモリアル回廊との共通パンフレット作成や共通イベントの開催等、連携を図りながら取り組んでいる。



1 広報用印刷製物・広告代

(1) パンフレットの配布、広告掲載による広報

- ・ FMピッカラの番組表に広告を掲載した。
- ・ 柏崎市観光協会のパンフレットにも施設を記載していただき、観光客向けにPRした。
- ・ 中越メモリアル回廊との共通パンフレットを作成し、中越メモリアル回廊施設来訪者にPRすることで、柏崎市外からの誘客増を図った。

(2) 防災グッズチェックリストの配布による広報

- ・ 中越メモリアル回廊で配布している防災グッズチェックリストをまちから用に再編集し印刷・配布した。
- ・ まちから来館者に配布し、家庭での防災活動に活用するように説明した。
- ・ 学校の授業等での活用もPRし、学校からの配布依頼を得た。

2 語り部活動費

(1) 語り部プログラム（有料）の実施（1件30名）

- ・ 新潟市東区のコミュニティ協議会から「地域が防災に熱心ではなく、これから取り組みを始めたい。我が事感が増すワークショップを行いたい。」との依頼を受け、語り部とワークショップを組み合わせたプログラムを提案・実施した。依頼者からは、「効果的な視察研修であった」との声があった。

(2) 語り部プログラムの体制づくり

- ・ メモリアル回廊に合わせ、今年度から語り部謝金を6,000円に設定し試行中。
※ 次年度以降については、試行状況を評価し、決定する。
- ・ 学校からの要請に対して、語り部の内容や時間配分等で十分応じきれていないケースもあった。学校ニーズの把握及び語り部やコーディネーターのスキルアップが課題である。
- ・ 語り部本人のスケジュールや体調といった面で不安定な要素もあることから、語り部の組織化による安定的な体制づくりと、メニューの多様化、一定の品質を保證できる仕組みづくりを目指す。

3 資料収集・整理

(1) アーカイブの作成

- ・ 「まちからでできる防災教育」「地域活動サポートセンター柏崎」「地域コミュニティセンターの歩み」「被災者生活再建支援法」「えんま通り商店街の復興」「中越沖地震をきっかけとした市民活動のうねり」をアーカイブとして編集した。今後、製本して語り部や防災教育、視察対応の際に配布資料として頒布する。

(2) アーカイブの活用

- ・ 収集した資料を活用した展示を制作し、参加型のアーカイブ展示を行った。来館者からコメントを集めて蓄積している。
- ・ アーカイブ資料を活用した市外団体との連携として、刈羽村社協のイベントに出張展示を行った。
- ・ 講座等で使うデータを作成するために、資料を購入した。



参加型アーカイブ



刈羽村社協への出展



資料の購入

4 防災教育・防災学習への寄与

(1) 来館者対応

校外学習で4校（小：2校、中：2校）、のべ54人が来館した。それぞれ以下のように対応した。

- ・ 柏崎市立北条小学校

1年間の総合学習の相談を受けた。まちからで見学を行った後に、地域について学ぶ学習を重ねている。次年度に向けて地域の自主防災会と小中連携による避難訓練の実施へ向けてサポートを続けている。

- ・ 柏崎市立第二中学校

グループ学習形式による総合学習で、中越沖地震の経験から防災を学ぶグループの対応を行った。災害時に避難所となる学校で、中学生ができることを、スタッフが事例を交えて説明し、一緒に考え話し合った。

- ・ 柏崎市立日吉小学校

地域との震災追悼行事のキャンドル作成にあたり、中越沖地震を学ぶ授業のため、まちからへ来館。さらにハーフ成人式（10歳）につながるような授業にしたいとの要望で、感謝や未来へのメッセージを想起する授業提案を行った。

- ・ 新潟県立翔洋中等教育学校

柏崎学を学ぶ過程で、中越沖地震から復旧・復興を学ぶために来館。えんま通りの取組を中心に説明し、10年前の経験を振り返る機会とした。

<利用者の声>

- ・ 体験できるプログラムがあれば、教育的な効果も高くなる。もっと利用したいとの声が増えるのではないか。（教育委員会）
- ・ 一学年全体の対応が可能であるとよい。地下で映像が見られないとなると、まちからへ行く意味が半減してしまう。できる限り地下で子どもたちに見せてあげたい。（西山中学校教員・鏡が沖中学校教員）
- ・ 床面の地震によるヒビに実際に触れられることが、まちからの特徴の一つ。子どもたちが自分事として捉えられる授業の展開が可能となる。（柏崎小学校教員）
- ・ 道徳や、キャリア教育といった視点から防災教育を展開できれば、まちからの映像が一層生きてくる。（教育委員会、柏崎小学校教員）

(2) 出張対応

校外学習で4校（小：3校、中：1校）、のべ837人が来館した。それぞれ以下のように対応した。

① 学校対応

- ・ 柏崎市立北条小学校

親子学習の際にそなえ館を利用し、中越地震を学び、その後親から児童へ中越沖地震の経験を伝える授業を行った。親が子を思う気持ちや、児童がいざという時の備えについて、家族で話し合う場づくりを行った。

また別日に、調理実習として災害食体験のメニュー相談をおこなった。アレルギー対応食や災害時の栄養について、パッククッキングの実習について助言を行った。担任と栄養教諭がアレルギー対応食のカレーライスを保護者から事前に教えてもらい、パッククッキングで調理を行い全員でカレーを試食した。

- ・ 柏崎市立比角小学校

P T A行事での防災の取組を支援した。お笑い芸人ジャックポットと防災講話を実施した。全学年を対象とし、保護者も含めた講座で、比角小学校が避難所になった様子を基に、災害時に小学生でもできることを中心に講話を行った。

- ・ 新潟県立柏崎翔洋中等教育学校

道徳教育での防災学習を支援した。生徒の将来像や地域課題について教員と意見交換を行い、方向性について助言した。第1回目の授業を担当し、中高生が避難所でできることを考える講話を実施した。

<利用者の声>

- ・ まちからが研修施設だと思っていたので、見学ができる施設であれば、子どもたちにも使わせたいと思う。(北条小学校教員他)
- ・ 出前講座の対応に感謝する。地域と学校をつなげる取組を今後も続けていきたい。(柏崎翔洋中等教育学校教頭)

② 児童クラブ対応

- ・ 北条児童クラブ（柏崎市）

夏休み期間の避難訓練に合わせて防災講座を実施した。簡単なゲームから、どうやれば低学年に向けて、易しい言葉で避難方法を伝えられるかを考えるワーク等を取り入れた。防災工作では、カラフルなポリ袋を取り入れたことで、児童が関心をもって取り組んだ。

- ・ 矢代田ひまわりクラブ（新潟市）

夏休み期間中に、地域と児童が関わる防災の取り組みをしたいとの依頼を受け、出前講座を実施した。地域の人たちに向けたメッセージを込めた防災工作を行い、参加者からは、こういった取組を継続的に実施したいとの意見があった。

③ イベント出展

- ・ 子どもお仕事塾

子ども向けイベントへのブース出展等で、防災を分かりやすく伝える活動を実施した。「まちのB O S A I マスター」を活用し、子どもからお年寄りまでの幅広い年代で、カードゲームを通じた防災講座を行う等、プログラムの多様化に取り組んだ。

(3) 小・中学校への働きかけ

- ・ 柏崎市内の全小・中学校へアプローチし、防災教育における「まちから」利用に関するニーズの洗い

出しを行った。各学校における日常の取組と防災教育を結びつける提案を行い、校長、教頭、教務主任、防災担当教諭らとの意見交換を継続している。

- ・ 教育委員会、市教育センターと連携して教員向け、PTA向けの研修を行った。次度以降も継続する方針で調整を進めている。今期は、防災教育に関する講座のコーディネートを担当した。実施に当たっては、学校との関わり方や、教育現場への授業提案方法等のアドバイスを受けた。また、防災教育がキャリア教育にもつながることを共有できた。

(4) 子ども向け防災プログラムの整理・配布

- ・ 「まちからでできる防災教育」を整理し、各学校への説明時に配布した。教員からは、「防災教育に取り組む際の参考になる」との意見をいただいている。今後も改稿を重ね、理解しやすいものに仕上げる。
- ・ 各校における防災教育の自校化が目的であるため、教員の自立を意識し、支援し過ぎることのないよう配慮した。

(5) 地域連携

子どもが学校にいる時間は年間で2割程度である。子どもの命を守るには、学校だけでなく子どもを取り巻く環境との連携も必要である。そこで、地域の団体と連携し、以下の取組を行った。

① 青少年健全育成市民会議との連携

学区の枠がない高校生は、地域とのかかわりが薄くなってしまう。この課題の解決に向けて、中高生を対象としたリーダー養成塾において、防災と地域のかかわりに関する講座を担当した。

この講座を通じて、自主防災会、行政（市民活動支援課、防災・原子力課、ガス・水道局、消防署）、防災士等からも参加いただくことになった。

② 女性消防隊との連携

主に館外のイベント活動のため、女性消防隊と連携し、子どもを対象とした啓発活動を行った。まちからでは女性消防隊に対して事前研修を実施し、防災工作等に関するノウハウを提供した。イベント時には、写真パネル等を隊へ貸し出している。

(7) まちからチャレンジデーの開催

- ・ 家族対象のイベント（まちから家族の日 6/25）では、日頃のそなえを考える仕掛けをもたせた防災迷路を行った。チェックリストの配布も行った。
- ・ 子ども対象のイベント（まちから子どもアカデミー 8/19）では、手軽にできる防災工作を紹介し、防災グッズの作成・販売を行った。

5 中越沖地震 10 周年イベント

(1) トークセッション（来館 361 名トークセッション参加 200 名）

市内全域の町内回覧、町内会長への案内、関係団体等への郵送等事前広報を重点的に実施した。その結果、初めての来館者も多く、新規顧客の開拓につながった。また、震災 10 周年ということもあり、マスコミ各社からの問い合わせも多く、広報活動としては一定の成果があった。

トークセッションでは、普段からの防災まちづくりを進める上で大切な「想定外」「近所付き合い」といったキーワードを、登壇者が分かりやすい事例と分かりやすい言葉で語られたため、来場者の満足度はとても高かった。

参加者は比較的年齢層が高く、今後、未来を担う若い世代の関心と来館につながるよう、次回以降の事業を企画していきたい。また、参加者アンケートから来場者の志向やまちからの利用状況を把握し、今後の事

業活動に反映していきたい。

(2) 防災フェア

地域活動サポートセンター柏崎、柏崎市女性消防隊、柏崎翔洋中等教育学校と連携し、地域への愛着が防災への第一歩とする「地域応援隊」としてブース出展を行った。

写真を展示するイーゼルを活用して、会場や設備を選ばずに各地への出展が容易にできるようになった。

(3) 作文コンクールへの協力

新潟日報社主催の作文コンクールに協力し、市内小学生を対象とした情報提供等を行った。新潟日報社が作成し、市内全小学生へ配布したリーフレットに、まちからの利用を促す内容が記載され、展示パネルを見学に来る親子連れが散見できた。

新潟日報社から新聞紙面の提供を受け、7～9月にかけてパネル展示を行った。また、新潟日報データベースもまちからで利用可能となり、過去の新聞記事での調べ学習ができるようになった。(29年9月まで)。

作文コンクールに合わせて、剣野小学校の児童が作成した授業の成果「柏崎の魅力発見」を借り受け、展示した。



新潟日報社データベース



作文コンクール チラシ



新潟日報写真パネル



剣野小学校成果展示

(4) スタンプラリーの実施

中越沖地震 10 周年とそなえ館リニューアルオープンを記念して実施したスタンプラリーは、中越メモリアル回廊と本格連携した企画である。これまでまちからを知らなかった中越メモリアル回廊施設利用者へのPR効果もあり、現時点でまちからはでラリー達成者が他施設より多くみられている。(8 月末：まちから 28 個/全体 50 個)

スタンプラリー参加者には景品を用意した。非常持ち出し袋の中に、100 円ショップで購入できる防災グッズ等 800 円相当を組み合わせ、中身を変えることで選択できるものとした。防災チェックリストと併用することで、日頃の防災につながるものとして説明を行った。



スタンプラリー



スタンプラリー景品



スタンプラリー達成者

平成29年 防災教育プログラム一覧

受付	月	日	団体	対象 人数	内容	備考	担当
1	4	2	青少年健全育成市民会議	12	中学生が避難所でできることなど	実施	筑波
2	4	23	翔洋中等教育学校	7	中越沖地震の概要及びえんま通り商店街の復興	レク	水戸部
3	4	29	まちから昭和の日	25	エコノミークラス症候群の説明と健康体操の実施	実施	筑波
4	5	16	小学校長会	23	防災教育の説明と、助成金について説明	説明	筑波
5	5	16	中学校長会	15	防災教育の説明と、助成金について説明	説明	筑波
6	5	15	北条小学校	17	施設見学と主体的に考えるクロスロードゲーム	実施	筑波
7	5	24	教育センター	72	防災教育の必要性に関する講座	実施	筑波
8	6	15	女性消防隊	280	えんま市で子どもたちへ防災工作実施	実施	筑波
9	6	19	翔洋中等教育学校	160	地震・津波の防災講座	実施	筑波
10	6	19	比角小学校PTA	620	中越沖地震のこと	実施	筑波
11	6	24	わいがやフェス	70	持ち出し袋と参加型アーカイブ	実施	渡邊
12	6	25	まちから家族の日	83	防災迷路体験を通じた家庭の備え	実施	筑波
13	6	27	北条小学校	35	そなえ館・親子トーク	実施	筑波
14	6	30	日吉小学校	25	中越沖の経験	実施	筑波
15	7	7	北条小学校	22	バッククッキング 災害食について	実施	筑波
16	7	7	第二中学校	5	中越沖地震からの復興について	実施	筑波
17	7	16	防災フェアー	80	女性消防隊、サボセン、翔洋と協働	実施	筑波
18	7	26	産業大学教員養成課程	15	主体的に防災教育に取り組むために	実施	筑波
19	7	29	ふくふくフェスタ	50	持ち出し袋と参加型アーカイブの展示	実施	筑波
20	8	18	北条児童クラブ	32	ゲームと工作を通じた防災学習	実施	筑波
21	8	20	お仕事体験塾	73	ゲームを通じた防災学習	実施	渡邊
22	8	19	チャレンジデー	60	工作を通じた家庭の備え	実施	筑波
23	8	20	お仕事体験塾	73	仕事体験を通じた防災指導員の紹介	実施	渡邊
24	8	24	矢代田ひまわりクラブ	35	ゲームを通じた家庭の備えについて	実施	筑波
25	8	26	教育センター	550	クロスロードから家族の防災へ	実施	筑波
			受講人数合計	2439			

平成29年 自主防災プログラム一覧

受付	月	日	受講団体	受講 人数	内容	講師	備考	担当
1	4	23	田島町内会	50	災害発生時の対応	会田	2回	渡邊
2	5	20	上条地区防犯・防災連絡協議会	30	AED講習	小林	6回	渡邊
3	6	7	関町町内会自主防災会	30	AED講習/心肺蘇生法	会田	8回	渡邊
4	6	18	東の輪町自主防災会	45	災害発生時の対応	会田	3回	渡邊
5	7	2	比角10区自主防災・防犯会	50	災害発生時の対応/日頃からの 防災対策	押見	5回	渡邊
6	7	9	旧広田自主防災会	30	災害発生時の対応/日頃からの 防災対策	会田	3回	渡邊
7	7	9	家近町内会	35	バッククッキング	会田	1回	渡邊
8	7	9	比角11区町内会	25	バッククッキング	押見	3回	渡邊
			受講人数合計	295				
*			新規受講団体					

平成29年 語り部プログラム一覧

受付	月	日	団体	参加人数	内容	講師	備考	担当
1	4	2	青少年健全育成協議会	12	バッククッキング	会田		筑波
2	4	19	上条地区コミュニティ振興協議会	4	防災講話打合せ	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
3	4	21	日本放送協会	3	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
4	4	27	新潟日報社長岡支社	1	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
5	4	28	テレビ新潟放送網	1	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
6	5	1	新潟総合テレビ	2	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
7	5	10	熊本支援者	8	意見交換	増田	松田先生から回廊施設見学	筑波
8	5	10	熊本支援者	8	意見交換	渡邊	同上	筑波
9	5	11	新橋二丁目町内会	2	自主防災打合せ	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
10	5	15	上軽井川町内会	3	自主防災打合せ	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
11	6	26	枇杷島地区コミュニティ振興協議会	1	「AED」「非常時にも強い地域づくりについて」打合せ	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
12	7	8	共同通信社	1	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
13	7	8	UX新潟テレビ21	3	中越沖地震時の外国語支援について	清水	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
14	7	10	新田畑子供会	1	ロープワーク、災害時単クッキング	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
15	7	10	TeNYテレビ新潟	2	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
16	7	12	TeNYテレビ新潟	2	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	語り部プレゼン(映像と共に)	筑波
17	7	20	新潟市中野山小学校区コミュニティ協議会	30	災害復興に係るコミュニティ活動(1部)	関矢	語り部	筑波
18	7	20	新潟市中野山小学校区コミュニティ協議会	30	WS「日常の生活と災害時の生活」(2部)	渡邊	ワークショップと語り部	筑波
19	7	21	穂波町内会自主防災会	2	「AED」講習・心肺蘇生法・応急手当	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
20	8	7	太田コミュニティセンター	2	平成29年度「防災サミット」打合せ	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
21	8	7	南部コミュニティ協議会	3	誰にでもできる日ごろからの防災対策	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
22	8	28	米山台自主防災会	2	外傷への応急手当方法	渡邊	語り部プレゼン(スライド)	渡邊
			受講人数合計	123				

8. 中越沖メモリアルまちから後期報告

1. メモリアル事業

(1) 実績

平成 29 年度後期の来館者数、語り部プログラム参加者数、防災教育講座参加者数（出前講座）、自主防災講座参加者数（出前講座）の実績は以下の通りである（表 1、図 1）。なお、語り部プログラム参加者数、防災教育講座参加者数、自主防災講座参加者数の内訳（団体名等）については各事業報告のなかで詳述する。

表 1 単位（人）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メモリアル来館者数	570	612	279	155	31	229	115	1,991
語り部プログラム	170	60	137	78	0	104	70	619
防災教育(出前講座)	876	212	551	69	0	34	0	1,742
自主防災(出前講座)	120	119	179	27	0	35	14	494
合計	1,736	1,003	1,146	329	31	402	199	4,846

単位（人）

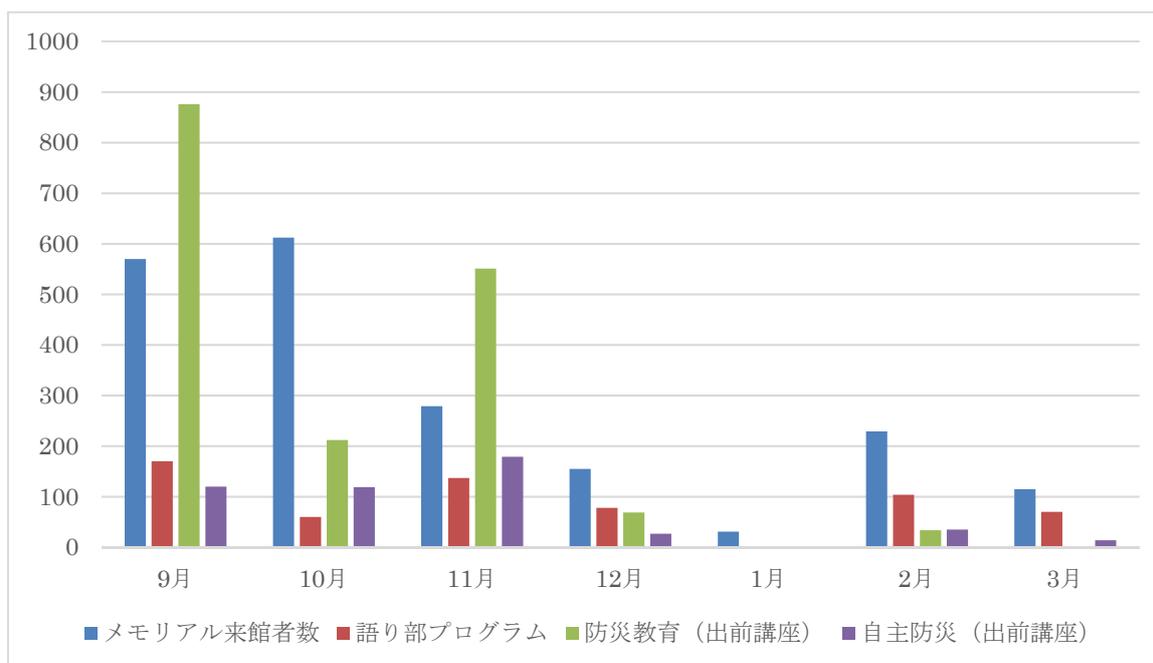


図 1

【来館者数及び傾向分析】

- ・平成 29 年 9 月から平成 30 年 3 月までの来館者数は、1,991 人であった（月平均 284.4 人）（表 1、図 1）。
- ・来館者内訳は、団体（10 人以上）が 1097 人（55%）、個人が 894 人（45%）であった（図 2）。
- ・団体客内訳は、市内が 905 人（82%）、市外（県内）が 149 人（14%）、県外が 43 人（4%）であった（図 3）。ここから、市外、県外での認知度が低いことがわかる。ちなみに団体数は 28 団体で一団体当たりの平均客数は 39.1 人であった。

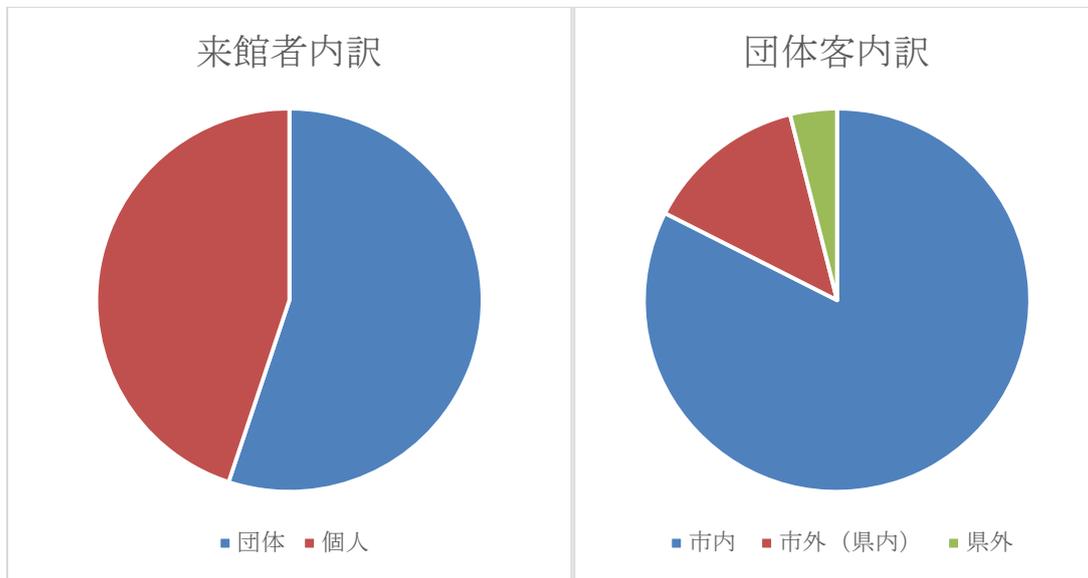


図 2

図 3

(2) 資料収集・整理

①アーカイブの作成・活用

中越沖地震、東日本大震災の教訓や各種文献等をもとに来館者対応及び防災教育講座、自主防災講座に活用する資料を作成し、活用した。なお、アーカイブの作成・活用プロセスは以下の通りである。

【アーカイブの作成・活用プロセス】

- ①中越沖地震、東日本大震災、各種文献の資料収集
- ↓
- ②資料のデータベース化（デジタルアーカイブ）
- ↓
- ③各種資料をもとにした資料（パワーポイント化）の作成
- ↓
- ④資料を活用したプログラムの実施

【主な作成資料】

◆防災教育資料

- ・柏崎市立北条小学校における防災教育の取り組み

柏崎市立北条小学校で実施した防災教育講座の様子を取りまとめた資料を作成した。今後、他の小学校の防災教育の普及・啓発活動に活用する。

平成29年度

柏崎市立北条小学校
総合的な学習の時間をつかった
防災教育

防災教育は、どうあるべき？

～防災教育プログラム実践の心得より～

育しの防災教育の限界と弊害

地域の災害の危険性だけを教えるのでは、
地域を嫌いになってしまう恐れも。

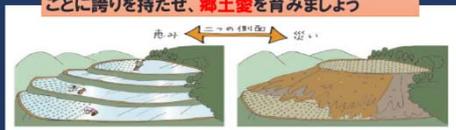


防災教育は、どうあるべき？

～防災教育プログラム実践の心得より～

育しの防災教育の限界と弊害

自然の恵みと災いの二面性を捉え、地域に住む
ことに誇りを持たせ、郷土愛を育みましょう



命と地域を大切に思う気持ちを育む

2/22

子どもたちが一年間で
学校にいる時間

8時間 × 20日 × 10か月
24時間 × 30日 × 12か月

= 約2割

学校の避難訓練
だけで大丈夫？

命と地域を大切に思う気持ちを育む

学校だけではなく、
地域と一緒に防災に
取り組む姿勢が
これからの防災教育に必要です。



命と地域を大切に思う気持ちを育む



命と地域を大切に思う気持ちを育む

自主防災会と学校が
協力して、避難訓練を行いました。

地域役員のみなさんが
危険な場所を教えてくださいました。

命と地域を大切に思う気持ちを育む



命と地域を大切に思う気持ちを育む



中越沖地震の時に
家族がまだ小さな自分を
助けてくれたことを知りました。

家族と、もしもの時のことを
普段から話しあって
おくことが大切です。



学校の設計者から支援拠点となる
学校の設備を学びました。

北条小学校が
避難所となることを知りました。

防災を学ぶのではなく
防災教育でまなぶ地域学習は
大きな効果を
生み出すことができます。

自分たちができること
まだまだきっとあるはずです。

持ち出しリスト

～お家には、持ち出し品がしっかりそろっていますか？～
「またたな～」と思っている人も大丈夫！
いっしょに4篇読んでみましょう。

1. 食料品	<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> かんづめ <input type="checkbox"/> 非常食	5. 生活用品	<input type="checkbox"/> ライト <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 充電器 <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> ろうそく <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> フラップ <input type="checkbox"/> ポリ袋 <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 貴重品 <input type="checkbox"/> 傘 <input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 笛 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> トライアングラー <input type="checkbox"/> 情報カード <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> 給水タンク <input type="checkbox"/> トイレレットペーパー <input type="checkbox"/> ティッシュ <input type="checkbox"/> レジューシート <input type="checkbox"/> 印鑑
2. 救急用品	<input type="checkbox"/> ばんそうこう <input type="checkbox"/> 包帯 <input type="checkbox"/> ガーゼ <input type="checkbox"/> 薬	<p>紙は全部の紙、パカ〜</p>	
3. 衛生用品	<input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ネットティッシュ <input type="checkbox"/> 歯みがきシート <input type="checkbox"/> ガム <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 使い捨てトイレ		
4. 衣類	<input type="checkbox"/> 下着 <input type="checkbox"/> 防寒具 <input type="checkbox"/> カイロ		
	<p>ポイント！ 両者が使えるように、リュック等の袋に入れましょう。 すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。 定期的に食料などのチェックをしましょう。</p>		

防災グッズ

<p>1. おなかポケット</p> <p>2. ヘルメット</p> <p>3. 防犯着</p> <p>4. 雨具</p>	<p>5. 防寒着</p>	<p>6. 雨具</p>
<p>1. おなかポケットの両側を縫って、紐の目を中央におきます。</p> <p>2. ニつにたたきます。</p> <p>3. 口がとくなるように、紐を同じ向きに縫い合います。</p> <p>4. ポケットを前に付けます。</p>	<p>1. ヘルメット</p> <p>2. ヘルメットの生地の部分を頭の部分に縫い付けます。</p> <p>3. 口の部分を縫い合います。</p> <p>4. 紐を縫い合います。</p> <p>5. 紐の部分を縫い合います。</p>	<p>1. ヘルメット</p> <p>2. ヘルメットの生地の部分を頭の部分に縫い付けます。</p> <p>3. 口の部分を縫い合います。</p> <p>4. 紐を縫い合います。</p> <p>5. 紐の部分を縫い合います。</p>

これで、準備は完了です。

「あ、みなさんも作ってねよう。」

これで、準備は完了です。



・ 柏崎市立鏡が沖中学校における防災教育の取り組み

柏崎市立鏡が沖中学校で実施した防災教育講座の様子を取りまとめた資料を作成した。今後、他の中学校の防災教育の普及・啓発活動に活用する。





◆東日本大震災関連資料

- 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故による避難の実態について
中越沖地震メモリアルまちからスタッフの渡邊（双葉町出身）の実体験をもとに東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故による避難の実態について取りまとめ、資料を作成した。今後、来館者対応、語り部プログラム、自主防災講座等で活用する。

双葉町震災画像

提供 双葉町



◆中越沖地震関連資料

・仮設住宅・復興住宅における見守り活動について

中越沖地震時の仮設住宅・復興住宅の見守り活動について取りまとめ、資料を作成した。なお、この資料は、東日本大震災被災地及び熊本地震被災地の支援者からの当時の取り組みの様子を知りたいというニーズが

高いことから作成に至った。今後は、来館者対応、語り部プログラムに活用するとともに、被災経験のない地域の説明資料としても活用する。



NPO法人 地域活動サポートセンター=柏崎
渡邊浩二

地域活動サポートセンター設立

- ◆設立 2008年(平成20年)12月18日
- ◆中越沖地震から1年5ヶ月後

～目的～

- 1、自助・共助のもとに復興支援活動がより効果的に行われること
- 2、市民がお互いに手をとりあい、向こう三軒両隣の関係を作れるようなコミュニティを増やすこと
- 3、市民の様々なニーズに対応できる支援組織のネットワークを構築し、中間支援を行う

サポセン バンフレットより抜粋

地域活動サポートセンター=柏崎について

【サロン活動】中越沖地震

- ◆中越沖地震を契機として孤独・孤立を防ぐためにサロン活動に取り組み、寄り添う支援を継続して行うNPOとして平成20年12月に開設。

【自主防災組織出前講座】

- ◆平成22年には、柏崎市防災原子力課からの委託を受け、市内町内会の自主防災組織へ防災出前講座を行っている。

【東日本大震災避難者支援】

- ◆東日本大震災からの避難者受入については、柏崎市から委託を受け、「柏崎市被災者サポートセンターあまやどり」を開設。見守り訪問、サロン活動を通して情報提供を行っている。

【中越沖地震メモリアル施設】

- ◆館内案内(齋柏園)、中越沖地震、東日本大震災の教訓を伝える、語り部活動、福島県立博物館「あまやどりの活動記録・こころ展」開催。

中越沖地震発生からのドキュメント

年	月 日	出来事
平成19年	7月16日	中越沖地震発生(震源:新潟県中越沖)
	8月13日	仮設住宅入居開始(中越沖地震 被災者)
	9月18日	生活支援相談員設置(柏崎市社会福祉協議会)
平成20年	12月18日	地域活動サポートセンター=柏崎設立
平成21年	8月21日	復興公営住宅入居開始(中越沖地震 被災者)
	9月14日	仮設住宅閉鎖(中越沖地震被災者)
平成23年	11月13日	「えきまえサロン」開始
	3月11日	東日本大震災発生(震源:三陸沖)
	6月1日	柏崎市被災者サポートセンター設立
平成25年	4月1日	えきまえサロン運営、管理を委託
平成27年	3月 末日	生活支援相談員設置事業終了(柏崎市社会福祉協議会)

～つなぐ～

『コミュニティ構築と人と人をつなぐ』

震災前は暮らし慣れた地域で顔の見える関係とコミュニティを形成していたものが、中越沖地震により仮設住宅を経て災害復興住宅で、新たなコミュニティを形成していかなければならなかった。

そして、その多くが高齢者や一人暮らしの方々であったことから孤独・孤立死を防ぐ対策の一つとして、復興住宅に隣接する形でサロンを開設し、誰でも集える交流の場作りを行なっている。

新しい地域への適応

- ▶被災前には、地域の中で保護されていた方が、震災をきっかけに、住み慣れた地域を離れ周りの理解が得られず孤立してしまいました。
- ▶話し相手がいなくなりました。

居住環境の変化による戸惑い

- ▶一軒家から集合住宅になったことで、生活音など配慮が必要になった。
- ▶人の目や噂が気になってしまう。
- ▶なんとなく息苦しく感じる。

見えてきた課題へのアプローチ

- ▶過去の災害からの復興を見ても、コミュニティの分断が被災者の孤立を招き、大きな問題とされている。
- ▶更に高齢化が進みコミュニティの維持や再生についての取組には、最大限の配慮が必要とされる。
- ▶被災者の安心な暮らしの第一歩として高齢者や地域コミュニティに配慮した見守りが今後必要になる。

・ 柏崎市におけるコミュニティセンターを核としたコミュニティづくりについて

柏崎市では中越沖地震時に、以前から活発に活動していたコミュニティセンターを核としたコミュニテ

ィづくりが功を奏し、地域の助け合いが機能した。地域の防災においては平時からのコミュニティづくりが大切であることについて取りまとめ、資料を作成した。今後、来館者対応、語り部プロジェクト、自主防災講座に活用する。

柏崎のコミュニティセンター

中越沖地震メモリアル施設まちから

はじめに

- 柏崎市のコミュニティは、昭和46年、旧自治省（現総務省）のモデル・コミュニティ事業を中越沖地区に導入。
⇒元は中越沖村であり、明治の大合併によってできた村
⇒自治を積み重ね越前川改修等、村を挙げて取り組んできた歴史がある
- 昭和47年度に市内で初めて地区コミュニティ協議会が発足。
- 昭和48年3月にはコミュニティセンターが竣工して以来、生涯教育活動（学習）と、コミュニティ活動（交流）を通じて地域課題に取り組むコミュニティとして、主体的な運営を地域が担う。
- 市民参加の仕組みづくりや市民と行政による「協働」を実現する新しいコミュニティ施設への転換を経て、地域住民を主体とする地域づくりの活動拠点として、平成29年で45年を迎える。

柏崎市コミュニティ40周年記念誌 「地域の特性を生かしたコミュニティづくり」より

背景

- 昭和44年に国が設置する国民生活審議会が、「コミュニティ生活の場における人間性の回復」という報告書を作成。
- 近年における日本経済の急速な成長は、産業構造変化および地域構造変化を通じて生活の場に対しても重要な影響を与え、これを激しく変化しつつある。
- その端的な現れとして都市化の波は全国を襲い、農村からは人がいなくなり、神輿の担ぎ手がいないなど、地域の伝統行事を継承できない状況が生まれた。
- そのことにより、多くの人がどうやって一つの地域を作っていくのか、そういったことが課題としてクローズアップされた時代であった。
- 新しいコミュニティの形成は、急激な都市化と生活圏の拡大、地域共同体の崩壊をその出発点としている。

国民生活審議会 「コミュニティ生活の場における人間性の回復」より

コミュニティとは

- 生活の場において、市民としての自主性と責任を自覚した個人および家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目標をもった、開放的かつ構成員相互に信頼感のある集団を、コミュニティと呼ぶ。
- 人々の間に新しいつながりが必要であるとしても、それは人々の自主性を侵害するものであってはならない。また、かつての地域共同体にみたような拘束性をそのまま持込むものであってはならない。
- 現在、市民社会は拘束からの自由と同時に参加する自由も保証するものである。人々はある時には孤独を愛し、他の時には集団的帰属を求めているのであるから、このような要求に対する開放性が必要である。

昭和44年 国が設置する国民生活審議会調査部「生活の場における人間性の回復」より

公民館連絡協議会

【第1回コミュニティづくり研究会】（1973～1997）

- 1973年（昭和48年）公民館連絡協議会主催で第1回開催
- 1974年（昭和49年）柏崎市長期発展計画を作成。その計画の中に、市内全地区にコミュニティセンター兼公民館を設置という目標が明記されている。
⇒先見の明があり、全国的に見ても素晴らしい見方である。
- 以降1997年（平成9年）まで毎年開催
- コミュニティというのは、公民館が積み上げてきたものを更に発展させる器であり、意識的に研究会を積み上げた。

岐阜大学地域科学部 准教授 山崎仁朗 「コミュニティづくりのこれまでとこれから」より抜粋

コミュニティセンター45年の軌跡①	
1971（昭和46年）	中越沖地区、モデル・コミュニティ地区に指定
1972（昭和47年）	中越沖地区コミュニティ振興協議会発足
1973（昭和48年）	中越沖コミュニティセンター（コミセン）兼公民館竣工 「生涯学習とコミュニティプラン」が市政の重点施策となる 第1回コミュニティづくり研究会開催（公民館連絡協議会主催）
1974（昭和49年）	柏崎市長期発展計画を策定（昭和60年までに市内24地区にコミセン兼公民館設置を目指す） 第3回公民館研究会「コミュニティ柏崎方式を探る」開催
1977（昭和52年）	「柏崎市コミュニティ連絡協議会」発足 ⇒平成15年に「柏崎市コミュニティ推進協議会」に名称を改める 第1回コミュニティまつり開催
1978（昭和53年）	全公民館に地区指導員1人を配置
1982（昭和57年）	公民館、コミュニティ振興懇談会開催
1984（昭和59年）	柏崎市新長期発展計画策定
1986（昭和61年）	第37回新潟県公民館大会「公民館とコミュニティづくりの関係を考える」開催
1994（平成6年）	柏崎市第三次長期発展計画を策定
1998（平成10年）	第25回コミュニティづくり研究会「公民館とコミュニティの連携」を提唱 コミュニティ研究会発足
2001（平成13年）	「柏崎における新しいコミュニティの理念と提言」報告

柏崎市の整備方針

【公民館活動とコミュニティセンターの連携】

- 活動の拠点となるコミュニティセンターが公民館機能も兼ね備えて順次整備され、学びの場としての公民館とその学習機能を生かしてコミュニティ活動に結び付ける柏崎独自のスタイルは「柏崎方式」と呼ばれ、全国的にも注目される取組活動。
- また、コミュニティセンターの整備は、各地区で各地域で連帯意識の醸成や、地域づくりの輪を広げる契機となり、地域住民の親睦的な交流を通して住民の自主的活動の展開が期待されるようになった。

生涯学習活動

+

地域活動（交流）

=

柏崎方式

柏崎市コミュニティ40周年記念誌 「地域の特性を生かしたコミュニティづくり」より

柏崎コミュニティセンターの特徴①

【コミュニティセンターと公民館の同居理由】

- 「公民館はコミュニティづくりにおける社会教育活動の中核であること」
- 「公民館はコミュニティづくりにおける公と民を結びバリエーションであること」
- 公民館で学び、その学習成果を生かして、コミュニティ活動に結びつけ、地域住民と一体的に推進することが効果的である。
- 人的な部分についての財源的なサポートを自治体がかかりと面倒をみる。
- 各地区がコミュニティ計画を策定し、その計画に沿って事業を行っている。
- 柏崎市市民活動支援課コミュニティ係が、あるのも当たり前ではなく、全国的には少数派である。

柏崎市コミュニティ40周年記念誌 「地域の特性を生かしたコミュニティづくり」
岐阜大学地域科学部 准教授 山崎仁朗 「コミュニティづくりのこれまでとこれから」より

柏崎コミュニティセンターの特徴②

【柏崎方式】

- コミュニティセンターに公民館を同居させたところが他には見られない柏崎独自のスタイルであり、住民の自主的な学習活動や地域活動の推進に大きな役割を果たしている。
- コミュニティセンター兼公民館が建設される時の基本原則
 - ①地域（範囲）は、「小学校区または、中学校区の第一次生活圏」
＝公民館事業の対象地域
 - ②施設は、「公設民営」＝市が建設し管理運営は地域が行う
 - ③活動は、「住民主体の活動」＝住民自らが考え行動する
- この基本原則が、「柏崎方式」と呼ばれるようになった由縁

柏崎市コミュニティ40周年記念誌 「地域の特性を生かしたコミュニティづくり」より

まとめ

- 市内には、おおむね小学校区単位に組織された31の地域のコミュニティ（協議会）がある。
- 地域コミュニティの活動拠点である各地域のコミュニティセンターでは、地域がかかえる様々な課題の解決を図るため、地域の目標や課題を実現するための計画（地域コミュニティ計画）を策定し、平成17年度（一部は18年度）からその計画に基づいた活動を実施している。
- 地域コミュニティは自分たちでできること、市と一緒に出来ること、お互いに出来ることなどについて役割分担しながら、市民参加のまちづくりに向けて住民と行政を結び役割を担っている。
- モデル・コミュニティ事業の指定を受けて建設以来、集会所及び講堂を備えた施設として、市内に順次設置されてきた。センターの管理運営は、指定管理制度を活用し、それぞれの地域コミュニティが行っている。

柏崎市・柏崎市コミュニティ推進協議会
柏崎市のコミュニティより

防災功労者内閣総理大臣表彰とは

災害時における人命救助や被害の拡大防止などの防災活動の実施、平時における防災思想の普及や防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体や個人を対象に表彰するものです。『「防災の日」および「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣僚了解）に基づいています。



訓練での被害状況の記入



訓練での被害状況の記入

柏崎市ホームページより

北鯖石コミュニティ振興協議会が「消防庁長官賞」を受賞

- 平成22年第15回防災まちづくり大賞（主催：財団法人消防科学総合センター、財団法人日本防火・危機管理促進協会、後援：総務省消防庁）において、防災に関する優れた取り組みなどを行っているとして、北鯖石コミュニティ振興協議会が「消防庁長官賞」を受賞しました。

【事例名】

- 顔の見える活動で災害に強い地域づくり「地域の輪づくり」を防災力につなげる。

柏崎市ホームページより

平時から顔の見える関係づくりを

- 災害対応の原点は、平時時の活動にあります。まつりなど各種行事の開催や災害に強いまちづくりと題した冊子の作成、町内たよりの発行、企業と協働で行う活動など、日々のまちづくりの取り組みが、災害時の活動に役立ちました。



町内ボランティア（資源物収集活動）



町内会で作成した「災害に強いまちづくり—中越沖地震の教訓から」

柏崎市ホームページより

まとめ

【目指すべき地域コミュニティ】

- 平成29年5月1日に北条地域において、小学校、中学校と地域が連携した合同防災学習が実施。（地域からも各自主防災会長と地域防災本部役員が出席）

【課題】

- 今の課題、これからの課題に向き合いながら長期的な視野に立ち、これまで実践してきたコミュニティをもう一度見つめ直す機会として考えていかなければならない。
- そして、地域の特性を生かした魅力ある持続可能なコミュニティづくりを目指し、更なる一歩を踏み出しましょう。

中越沖地震を機に改正された被災者生活再建支援法について

中越沖地震を機に被災者生活再建支援法が改正された。この改正によってより被災者の生活再建に寄与する制度となった。この改正について取りまとめ、資料を作成した。今後は、来館者対応、語り部プログラムに活用するとともに、被災経験のない地域の説明資料としても活用する。

被災者生活再建支援法

被災者生活再建支援法とは…

- 自然災害により生活基盤に著しい被害を受け、経済的理由等によって自立して生活を再建することが困難なものに対し、都道府県が相互扶助の観点から拠出した基金を活用して、被災者生活再建支援金を支給する。
- 支援内容は住宅が全壊または半壊の場合などに最高300万円を限度に生活費や住宅の解体費用などが支給される。



被災者生活再建支援法の制定

- 1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに制定された法律。
- 被災地では、住宅を失った被災者が公的補償の実施を望む声があったが、私有財産に公費を投じる施策に抵抗があり、当時の村山富市首相は「自然災害により個人が被害を受けた場合には、自助努力による回復が原則」であると発言している（1995年2月24日衆議院本会議参照）。
- 1996年9月、神戸市にある「コープこうべ」が、積極的な被災者支援策を政府に対して要求、全国の生協とともに「地震災害等に対する国民的保障制度を求める署名推進運動」を開始。
- 本法律は、阪神・淡路大震災被災者には適用されていないが、阪神・淡路大震災復興基金がほぼ同条件で支援金を支給している。また、1999年9月30日に起きた東海村JCO臨界事故は、自然災害に当たらず本法律は適用されなかった。

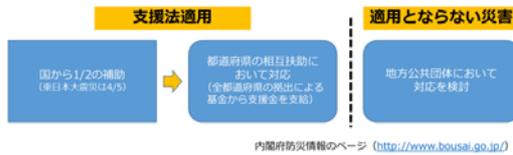
津久井道「Q&A被災者生活再建支援法」商事法務、2011年参照

「被災者生活再建支援法」成立前の動向と成立後の改正

年	災害	改正内容
1991年	雲仙・普賢岳噴火災害	・義援金による個人住宅再建支援
1995年	阪神・淡路大震災	・現物支給に加えて、現金支給の強い要望があり復興基金から最高100万円（1世帯）の支給を行った。
1999年4月1日	被災者生活再建支援法の成立	・年齢と所得要件を課したうえで、生活必需品に対して最高100万円まで支給。 ・都道府県の増立（600億円）を設け、支給時には国が定額額の2分の1を補助することになった。
2000年10月6日	鳥取西原地震	・自治体等は「鳥取西原地震被災者向け住宅再建補助金制度」を設け、私財制度で必要住宅再建費用を公金で支援。
2004年4月1日改正	被災者生活再建支援法	・生活防衛経費支援（100万円）上乗に加えて、居住防衛経費支援（200万円）が認められた。ただし居住防衛経費は、住宅解体、除去・整地、住宅ローン利子などに限る。 ・支給における年齢、所得要件の廃止。
2007年12月4日改正	被災者生活再建支援法	・居住防衛費として住宅再建に利用できるよう支度目的の改正を行った。 ・住宅防衛費、生活防衛経費の増額と併用。これらでの滞り申請手続きが大幅に改善され、住宅被害程度と再建方法に応じた定額渡し切り方式となった。
2011年7月15日	被災者生活再建支援法	・豪日本大震災（震り）、国の補助率を50%から60%に引き上げる特別措置を設ける。また、都道府県交付分（20%）は、特別交付税で全額負担。 ・全壊・大規模半壊戸数を20万と想定し、国交付分3520億円、地方交付分342億円（交付税交付）を予算化。 ・被災者生活再建支援金の多額支給額は基礎支援金1496億円、加算支援金1233億円、合計2729億円となっている。（2013年6月30日現在）

被災者生活再建支援法の目的

自然災害により、その生活基盤に著しい被害を受けた者に対し、都道府県が相互扶助の観点から拠出した基金を活用して被災者生活再建支援金を支給することにより、その生活の再建を支援し、住民の生活の安定と被災地の速やかな復興に資することを目的とする。



被災者生活再建支援法における「自然災害」の定義

- ・支援法第2条第1号で「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害をいう」と定めており、「戦争、火災、大規模事故、人為的な爆発事故などによる被害は含まれない」が「原子力発電所の放射能漏れ事故の原因が、地震、津波の影響によるものであれば、支援法の対象」としている。

津久井准『Q&A被災者生活再建支援法』商事法務、2011年参照

被災者生活再建支援法の改正

区 分	改正前	改正後
対象世帯	全壊世帯(みなし全壊世帯を含む)大規模半壊世帯	同 左
支給方法	使途を限定した上で必要額を積み上げる方式による支給	住宅の再建形態に応じての定額(渡し切り)方式による支給
支給限度額	【全壊世帯】 生活関係経費 100万円 居住関係経費 200万円 【大規模半壊世帯】 居住関係経費 100万円	【基礎支援金】 全壊 100万円、大規模 50万円 【加算支援金】 建設・購入 200万円 補修 100万円 賃貸住宅入居 50万円
対象経費(使途)	(生活)家財の購入費、引越し費等(居住)住宅の解体撤去、聖地費等	使途の限定なし
支給区分	年収500万円以下の場合 45歳以上で年収700万円以下の場合 60歳以上で年収800万円以下の場合 年収500万円超の場合	年齢要件を撤廃 年収要件を撤廃

中越沖地震などの被災者へ波及

- ・このことから、平成19年12月に法律が改正された。それまで認められなかった住宅本体への直接的支援が初めて認められ、住宅の再建形態に応じての定額渡し切り方式による支給、年齢要件・収入要件(世帯年収500万円)の撤廃、申請手続きの簡素化、中越沖地震の被災者への波及適用などが実現した。
- ・これにより、支給される支援金額も最大300万円まで増えたことで被災者の生活再建に大きな弾みとなった。
- ・平成19年は、中越沖地震、能登半島地震、台風11号、12号に適用された。

被災者生活再建支援法についての課題

- ・被災者生活再建支援制度は、住居が生活再建の第一歩として、住宅の損壊の程度に着目したものであるが、住宅被害のない被災重傷者、失業者などには適用されず、生活支援のオールマイティな法律ではない。家屋の損傷程度より、生活の壊れ具合(失職、生業の廃止、負債など)に着目して支援するのが実情に合っているとされる。
- ・同制度は、住宅支援に特化し、長期避難、生業支援、震災障害などに対しては別制度を構築するべきという意見もある。

津久井准『16 被災認定と支援策の展開』『復興法』編
山中樹『支援法運用に多様化・分権化の兆し』『被災者支援に関する都道府県・政令市意向調査結果に関する報告』

被災者生活再建支援法の対象災害と対象世帯

【対象災害】

- ・市町村において、10世帯以上の住宅全壊被害が発生した場合
- ・都道府県において、100世帯以上の住宅全壊被害が発生した場合
- ・その適用される災害の範囲は、災害救助法とは異なる

【対象世帯】 自然災害により、住宅がいずれかの被害となった世帯を対象

- 1 全壊
- 2 半壊、又は住宅の敷地に被害が生じ、その住宅をやむを得ず解体
- 3 災害による危険な状態が継続し、住宅に居住不能な状態が長期間継続(東日本大震災の原発避難者は対象外)
- 4 半壊し、大規模補修を行わなければ居住困難

津久井准『Q&A被災者生活再建支援法』商事法務、2011年参照

被災者生活再建支援法の改正

- ・阪神・淡路大震災までは、住宅を失った被災者の生活再建費用は、全国からの義援金などで支えられていた。しかし、義援金に頼るだけでは再建できない世帯も多く、公的な支援を求める声が上がった。
- ・その後、議員立法で被災者生活再建支援法が成立し、1999年から施行されている。
- ・住宅全壊世帯に対し、生活関係経費として、100万円を上限に支給。
- ・被災者生活再建支援法の成立時は、住宅の建設や補修費は対象外であった。また、年齢、収入による制限などもあり制度の改正を求める声が高まった。

中越沖地震被災者が国会陳情

- ・中越沖地震の被災者は、国会を訪れ、地元選出議員や衆参の災害対策特別委員に、被災者生活再建支援法について陳情を行った。
- ・柏崎市の被災者を中心に大型バスでやってきた三十三人の陳情団は、共産党、自民党、民主党の各議員に陳情書を手渡した。

【陳情書】

- (1) 支援対策に半壊や一部損壊の住宅も加えた被災者生活再建支援法を、今臨時国会で改正、成立させ、中越沖地震にも波及適用すること。
- (2) 宅地、地盤復旧に対する従来の枠を超えた公的支援をすること。
- (3) 応急修理制度(第11)の適用対象の拡大と、期限延長することを要求している。

※1 応急修理制度とは、災害救助法に基づき、住まいが半壊以上の被害を受けた世帯に最大52万円が支給される。マンションでは、居室などの「専有部分」や、外壁や廊下などの「共有部分」に使える。
国が9割、都道府県が1割を負担する。 2012-06-02 朝日新聞朝刊 3社会

日本共産党 2007年10月18日(木)「しんぶん赤旗」より抜粋

東日本大震災

- ・福島県・宮城県・岩手県・青森県の太平洋側沿岸の各自治体では津波により甚大な被害を受けた家屋が多数存在することから、平成23年4月13日、政府は本法律に基づく支援金の支払い手続きを簡素化することを決定した。
- ・市町村職員が家屋の損壊度合いを調べ、全壊・半壊の認定をした罹災証明書の発行が前提となっていたものを、航空写真や衛星写真で家屋の流失が確認され、道路や水道などのインフラも破壊された地域の世帯に対しては、一律「全壊」扱いとして調査手続きを省いて罹災証明書を不要にした。
- ・それ以外の津波被災地でも、サンプル調査で1階天井まで浸水したことが一見して明らか場合には、市町村の判断でその地域の家屋すべてを全壊扱いにできるようにするものである。

平時からの取組

- ・平時からの体制づくりの一つとして、被害認定調査の調査員育成があげられる。
- ・内閣府において、毎年、都道府県を対象とした講習会を実施している。
- ・各都道府県においては市区町村職員を対象とした研修の実施が望まれる。
- ・新潟県、静岡県などでは、定期的に市町村職員を対象とした講習会を実施している。

製作元 中越沖地震メモリアルまちから
製作日 平成23年8月21日

・中越沖地震を機に活発化した柏崎市内の市民活動について

中越沖地震を機に柏崎市内では、市民活動の機運が高まり、活発化した。またその動きが現在のかしわざき市民活動センターまちから、中越沖地震メモリアルまちからの設置につながった。中越沖地震を機にどのように市民活動が活発化し、その動きは現在ではどのように変化したのかについて取りまとめ、資料を作成した。

今後は、来館者対応、語り部プログラムに活用するとともに、被災経験のない地域の説明資料としても活用する。

中越沖地震をきっかけとした市民活動のうねり

中間支援組織と「まちから」の取り組み

日本における公的なコミュニティの規定では、「生活の場において、市民としての自主性と責任を自覚した個人および家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目標をもった、開放的でも構成員相互に信頼感のある集団を、われわれはコミュニティと呼ぶことにしよう」と定義している。

・地縁型コミュニティ
町内会や地域コミュニティ振興協議会など、特定の地域に住む住民が主体的に自治をするための組織。行政の末端機能をはたしている。

・テーマ型コミュニティ
特定のテーマや目的をもって、構成するメンバーが主体的に社会に貢献する団体。NPOやボランティア団体等がこれにあたる。

地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティ

柏崎市の市民活動の変遷

- ・柏崎市では、昭和46年度から小学校区程度の範囲で住民主体のまちづくりの拠点となるコミュニティセンターを整備してきた。各センターでは地域の緑化や清掃、福祉、防災、歴史、文化などに關わるまちづくりの活動が活発に行われている。
- ・こうした地縁型コミュニティによる市民活動が推進されている中で、平成に入りNPOや市民活動団体等のテーマ型コミュニティによる市民活動が生まれはじめた。

平成 15年 3月

柏崎市市民参加のまちづくり基本条例

市民参加についての基本的な概念の共有と市民参加の促進

平成 16年 3月

NPOとの協働推進指針

NPOとの協働の推進、協働の重要性や市民活動センターの必要性

平成 19年 3月

柏崎市第四次総合計画

まちづくり活動の活性化、市民活動支援の充実や市民活動センターの設置検討

中越沖地震による市民活動の活性化

- ・新潟県中越沖地震によって甚大な被害を受けたことを契機に、中越沖地震からの復興の過程で市民自治力が様々な場面で発揮された。
- ・地縁型・テーマ型コミュニティが立ち上がり、避難所の運営や疲弊した地域を元気づけるようなイベントの開催等に多様な手法で関わりはじめた。
- ・さらに、災害という共通する体験を経たことで「横のつながり」や「ネットワークづくり」が加速していった。
- ・2008年3月に制定した柏崎市震災復興計画においても、市民参加と協働による復興の実現、柏崎の魅力再生する地域コミュニティの活性化等が掲げられている。
- ・2008年5月には、復興まちづくりをサポートする中間支援組織「中越沖復興支援ネットワーク」が立ち上がり、活動を支える環境整備も進んでいった。

活発になったテーマ型コミュニティ創世記

- ・地震後の混沌とした状況下で、まちを元気づけたい、困っている人々を助けたい、自分たちの得意なことでもちに貢献したい、といった動機から仲間を集め、活動をはじめた人達が一気に増加した。
- ・老舗市民活動団体のメンバーは「地震前は、こういう活動をしていると変わり者のように目で見られていたけど、地震後は団体が増えたことで周りの目も変わってきた。」と語っている。

中越沖復興支援ネットワークの支援実績
テーマ型コミュニティの活動経費の補助事業（2008～09年）

2年間で **27**件 約 **1,800**万円

テーマ型コミュニティ台頭の要因

- ・自然災害という大きなインパクトが地域を襲ったことで、『動きたい市民』のまちに関わる方法が多様になった。

時代にあったつながり方の自由度

共通のテーマで集うことでの一体感や方向性の絞りやすさ

参加の深さ・頻度・スタンスが多様なこと

復旧・復興の過程で立ち上げが加速

市民活動団体を支える中間支援組織

- ・地震から5年後の2012年には、沖ネットを母体とした民間の中間支援組織として「特定非営利活動法人柏崎まちづくりネットあいさ」が発足。復興のフェーズから平時のまちづくりを支援するフェーズへの移行を促した。
- ・行政と連携しながら地域の地縁型・テーマ型コミュニティの活動をサポートする環境更に強化していった。

復興まちづくり

復興を旗印とした任意団体を解散
中間支援組織としてNPO法人化

平時のまちづくり

特定非営利活動法人
柏崎まちづくりネットあいさ

NPO法人柏崎まちづくりネットあいさの概要

団体名	特定非営利活動法人柏崎まちづくりネットあいさ
団体設立	2012年10月14日
法人登記	2013年1月23日
役員数	10名（理事9名、監事1名／理事長：山田明彦）
事務局員数	6名（事務局長：水戸部智）
事務所	新潟県柏崎市東本町二丁目7番42号

NPO法人柏崎まちづくりネットあいさの概要

- ・計画策定、ワークショップの企画運営
→組織の立ち上げや立て直し、新規事業等の計画策定支援
→ワークショップの企画、設計、運営、報告書作成
- ・ファンドレイジング
→組織の資金調達支援（補助金、助成金の紹介や申請補助、融資機関への仲介）
- ・地域人材育成コーディネート
→都市部の若者を地方へインターンする事業等
- ・地域価値デザイン
→広告媒体、団体紹介パンフレット、webページ等の製作
- ・講師、ファシリテーター等派遣

震災を契機とした市民活動のうねり

07.16. H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27

07.16. H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27

07.16. H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27

官民連携の支援拠点「まちから」の開設

- ・市民活動のうねりと並行して、その活動を総合的に支える支援拠点の議論も活発になり、2013年7月に「協働のまちづくり推進会議」を設置し、官民協働で拠点整備の方針等を検討した。
- ・2015年11月5日にオープンした「かしわざき市民活動センターまちから」はそれらの議論をもとに開設された、市民自治活動の支援センター機能と、活動のうねりとなった中越沖地震のメモリアル機能を複合した施設である。



まちからビジョンの概要

- ・『まちからは、みんなと楽しめるまちを目指して、あなたとやりたいことをカタチにします』という目的を掲げ、

- ①<応援する> 地域課題の解決を目指す個人・団体を応援する
- ②<繋がる> 地域に主体的に関わる人材のネットワークをつくる
- ③<伝える> 一人ひとりにまちからの支援事例や機能・役割を伝える

という3つの事業の柱をもとに事業を展開している。



応援する



元気なまちづくり事業補助金

市民活動アドバイザー派遣

プロモーションBOX

つながる



まちから交流会

若者交流会

語り部プログラム

つたえる



協働のまちづくり職員研修

まちからのPR、HPの管理

SNSによる情報発信

全体共通



まちからチャレンジデー

相談支援

防災教育プログラム

◆その他

- ・ 柏崎市立北条小学校における防災教育の取り組みでの小学生の感想文の展示活用

柏崎市立北条小学校における防災教育の取り組みでの小学生の感想文を地下の展示スペースに展示し、来館者対応等に活用した。

街は復興していても、人の心はまだ
傷ついたままの人もいると思います。
だからそんな人を、いやしてあげるためにも
柏崎をもっとにぎやかな街にしていきたいです。

市民生活部長 村上 隆太郎

「災害なんて起きない」
「備えなんてしなくてもいい」
今年の春までは僕はこのよきな考えでした。
災害について学習したことで、
「備えは近づくにある」
「備えをしておいたほうが良い」
ということが分かりました。

市民生活部長 村上 隆太郎

みんなの力があつたから、「復興、復旧」できた。
やっぱり協力は大事だとおもいます。
子供から大人、おじいちゃん、おばあちゃん、
みんな助け合っって暮らせる町は
スズキだと思います。

防災学習を通じて、みんなの力を結ぶことができると
思っています。「助けあひたい」
そのために、「助けあひたい」
さらに、「人の役に立ちたい」と思っています。

市民生活部長 村上 隆太郎

いろいろな人から、地域のことを聞いて
たくさん学びました。
災害がおきたらたくさん協力して積極的に動き、
今まで学んできたことを行事などで発表するなどして
学んだことを今後の活動につなげていきたいです。

市民生活部長 村上 隆太郎



② 広報活動

・ FM ピッカラの番組表に広告掲載

FM ピッカラが発行する番組表にまちからの広告を掲載し、市内住民への周知をはかった。

(FM ピッカラ掲載表面)

パーソナリティ募集しています!!

- 人とお話しすることが好きな方
- 柏崎が好きな方
- ラジオが好きな方 etc.

ひとりででも来てくださる方も大歓迎!
経験のない方も大丈夫!
番組の生放送を担当し、取材したり、司会をしたり、いろいろ体験できます。

詳しくは
ハローワーク柏崎で
ご確認ください

東日本大震災で避難してきた方へ
被災者情報をお送りしています。
被災者相談窓口のご案内や
福島民報(福島県)ニュース等をご紹介します。

月～金 ●12:05、16:55

番組表広告募集

発行回数 年2回(4月・10月)発行
発行部数 2,000部
配布方法 協賛店内設置
サイズ 1枠 4cm×横4.5cm
広告料金 1枠 6,480円(税込)

※複数枠申込みいただいても結構です。
詳しくはお問い合わせください。

放送料金表

スポット料金(税込)			
20秒スポット	1本につき	3,240円	
40秒スポット	1本につき	6,480円	
60秒スポット	1本につき	9,720円	
※スポット回数割引(税込) 1本当たりの単価です			
	月10本	月15本	月20本
20秒	2,808円	2,484円	2,268円
40秒	5,616円	4,968円	4,536円
60秒	8,424円	7,452円	6,804円
	月30本以上		
20秒	2,008円	2,268円	2,160円
40秒	4,016円	4,536円	4,320円
60秒	6,024円	6,804円	6,480円
タイム料金(番組提供料)(税込)			
5分番組	1本につき	12,960円	
15分番組	1本につき	27,000円	
30分番組	1本につき	43,200円	
60分番組	1本につき	86,400円	
※別途制作費がかかります。			
CM制作料(税込)			
1本につき	10,800円		

サポートクラブのご案内

お得なサポートクラブ会員になりませんか?

- 会費 1口 5,400円/月
- 特典 入会口数に応じて広告放送を行います。

例 1口(5,400円) 20秒スポットCM 2本/週
2口(10,800円) 20秒スポットCM 4本/週

※原則として年間契約となります。
詳しくはお問い合わせください。

株柏崎コミュニティ放送

〒945-0051 柏崎市東本町1-12-25
TEL 0257-21-3911
FAX 0257-21-3181
E-MAIL pikkara@kisnet.or.jp
HP http://www.kisnet.or.jp/pikkara/



(FM ピッカラ掲載裏面)

16	K-TRAX / 野村介石 16:15 メディエーターラジオショッピン! 20 柏崎市からお知らせ(提供/柏崎市) 40 朝日イグアルヒックス!(提供/アルヒックス新潟) 45 リーダーの心(協力/柏崎リーダ 藤澤富雄協会) 50 柏崎市を信じて! (提供/藤澤富雄協会) 55 踏みし!(出演/新潟産業大学芸術文化部 花音紅香さん) 60 リーダ(BC)リーグWリーグ情報 (提供/新潟アルビレックスBB-新潟アルビレックスBB RABBIT)	50 柏崎日曜ニュース 18:00 日一音元美女子なあれ? BSアンターコミュニケーション(提供/柏崎芸術協会) 55 藤澤富雄の時間 15 朝日イグアルヒックス!(提供/ラビカPVK) 20 松本浩二(バリエイ)出演(松本浩二さん) 25 ハイパースポーツ!(ヒーチャッカー情報/藤本晴久さん) 30 日中トリムミュージックワーク(出演/サンセットライダース) 35 朝日ケータイBOX(出演/アジップ柏崎) 40 エンタテインメント出演/かめめめ(かめめめさん) 45 NAMARA 江戸口の言いたい放題(NAMARA代表) 50 明日の暮らし 55 明日の暮らし 59 柏崎日曜ニュース	【東本町のスタジオから生放送】 16:00-19:00	SATURDAY SUPER LEGEND	フォークスクランブル	16
17	55 藤澤富雄 17:30 新潟日曜ニュース 18 天来寺様 東葉稲穂市場ニュース 19 柏崎市からのお知らせ(提供/柏崎市) 25 TEPCOヒックス(提供/東京電力HD株) 45 新潟県労働組合連合会からのお知らせ(提供/柏崎労働工業協会) 50 社員が変わる・会社が変わる 55 アフタールンフォーメーション	50 朝日イグアルヒックス!(提供/ラビカPVK) 20 松本浩二(バリエイ)出演(松本浩二さん) 25 ハイパースポーツ!(ヒーチャッカー情報/藤本晴久さん) 30 日中トリムミュージックワーク(出演/サンセットライダース) 35 朝日ケータイBOX(出演/アジップ柏崎) 40 エンタテインメント出演/かめめめ(かめめめさん) 45 NAMARA 江戸口の言いたい放題(NAMARA代表) 50 明日の暮らし 55 明日の暮らし 59 柏崎日曜ニュース		ガレッジセール の ガレッジパーティー		17
18	55 藤澤富雄 17:30 新潟日曜ニュース 18 天来寺様 東葉稲穂市場ニュース 19 柏崎市からのお知らせ(提供/柏崎市) 25 TEPCOヒックス(提供/東京電力HD株) 45 新潟県労働組合連合会からのお知らせ(提供/柏崎労働工業協会) 50 社員が変わる・会社が変わる 55 アフタールンフォーメーション	50 朝日イグアルヒックス!(提供/ラビカPVK) 20 松本浩二(バリエイ)出演(松本浩二さん) 25 ハイパースポーツ!(ヒーチャッカー情報/藤本晴久さん) 30 日中トリムミュージックワーク(出演/サンセットライダース) 35 朝日ケータイBOX(出演/アジップ柏崎) 40 エンタテインメント出演/かめめめ(かめめめさん) 45 NAMARA 江戸口の言いたい放題(NAMARA代表) 50 明日の暮らし 55 明日の暮らし 59 柏崎日曜ニュース		第1-3回 お歳です柏崎 第2回 私のレコードアルバム 第4回 藤澤富雄 like life	Premium GIFT ~MUSIC GIFT~	18
19	EVERY BODY HIGH!!! 伊藤聡子と新潟の経営者 SPACE SHOWER RADIO SPACESHOWER RADIO	50 朝日イグアルヒックス!(提供/ラビカPVK) 20 松本浩二(バリエイ)出演(松本浩二さん) 25 ハイパースポーツ!(ヒーチャッカー情報/藤本晴久さん) 30 日中トリムミュージックワーク(出演/サンセットライダース) 35 朝日ケータイBOX(出演/アジップ柏崎) 40 エンタテインメント出演/かめめめ(かめめめさん) 45 NAMARA 江戸口の言いたい放題(NAMARA代表) 50 明日の暮らし 55 明日の暮らし 59 柏崎日曜ニュース	White Board(提供/制作新潟産大) Dragage Now! - 船運屋主人のたわぶ	霞崎響女の Natural Woman Sound of Oasis	香森カフェ♪ ラジオ2951	19
20	谷村有美それなり+	50 朝日イグアルヒックス!(提供/ラビカPVK) 20 松本浩二(バリエイ)出演(松本浩二さん) 25 ハイパースポーツ!(ヒーチャッカー情報/藤本晴久さん) 30 日中トリムミュージックワーク(出演/サンセットライダース) 35 朝日ケータイBOX(出演/アジップ柏崎) 40 エンタテインメント出演/かめめめ(かめめめさん) 45 NAMARA 江戸口の言いたい放題(NAMARA代表) 50 明日の暮らし 55 明日の暮らし 59 柏崎日曜ニュース	サテライトボイス In お台場 ODAIBA RAINBOW STATION		20	
21				エナジータイム	リリースのキャパ シティをテスト	21
22				TABARU Love Emotion	アトリFM~あなたの 夢工房ラジオ	22
23				RADIO BOHEMIA	Yell ~青春の応援歌~	23
0				BEST ISHIDA presents カイロスの機軸	ユメのモノリザラウジ	0
1				Rill.のドリームエンタメラゴ	美加のNice'n Easy Time	1
2					たりらーり	2
3-4					J-POPチャッフル	3-4

リクエスト・メッセージ、皆様からの情報発信お待ちしております! 〒945-0051 柏崎市東本町1-12-25 TEL21-3911 FAX21-3181 E-MAIL pikkara@kisnet.or.jp HP http://www.kisnet.or.jp/pikkara/

しわざき市民活動センター
まじから
中越沖地震メモリアル
加災教育の問い合わせ
子ども向けイベントなど
加災講座に関するご相談
お待ちしております。

TEL 0257-22-2003

株会社 植木組
LIFEKI
入居・転居・賃貸募集
TEL 0257-22-2003

Always Security OK
ALSO
新潟総合整備保証株式会社
柏崎支社/柏崎市松波4-5-45
TEL 0257-24-2531
FAX 0257-24-5783
http://www.rngtalsok.co.jp/

免許取得は
柏崎で!
柏崎自動車学校
柏崎市茨目1-9-10
TEL 0800-800-4859
http://www.kashiwazaki-ds.com

味の横綱
水餃子・水餃子の白・黒・生・子 ¥10
TEL 0257-22-2003

内科・心療内科・アレルギー科・リハビリ科
駅前クリニック 前畑医院
TEL 332-1700
http://maehataclinic.wix.com/maehata
駅前健康スタジオ
http://maehataclinic.wix.com/studio

ビジネスの宿
備ハイマートグリーン
TEL 47-2419

田中角榮記念館
TEL 949-4195 柏崎市西山町坂田717番地4
TEL 0257-48-2130
FAX 0257-48-2170
開館時間 午前10時～午後4時
休 日 毎月毎月日及び冬期間

愛企画
イベント企画・音響
歌手 夕清愛
TEL 0257-24-2531
FAX 0257-24-5783
TEL/FAX 0256-53-1857

ホテル サンシャイン
柏崎市駅前T日本橋ビル TEL 0257-23-1211
http://www.hotel-sunshine.com

私たちがだからできること
「より、そう、ちから。」
いつも、みなさまに安心して
電気をお使いいただけるように
これからも私たちは全力で
電力の安定供給に取り組みます。
東北電力 柏崎営業所
http://www.tepco.co.jp

- ・ 柏崎市青少年健全育成市民会議の会報 87 号にて防災教育の取り組みを紹介

柏崎市青少年健全育成市民会議から依頼があり、まちからの防災教育の取り組みについて、会報 87 号に寄稿し、防災教育の周知をはかった。加えてこの会報を展示し、来館者対応等に活用した。



防災教育を通して地域を知ろう

中越沖地震メモリアル まちからマネージャー つくばただすけ 筑波 匡介



第27回トライウォーク&子どもフェスタが開催されました。副題は「～ながら防災しよう～」でした。「まちから」もチェックポイントとして津波避難に関する問題が用意され、家族で楽しめるイベントに、防災を合わせた「楽しみながらできる防災学習」の機会となりました。

従来の防災への取組は、脅しの要素が強かったように思います。「危険だ！危険だ！」と繰り返せば、どうでしょうか。災害が多いとされる地域では、子どもたちが危険を察し、別の場所へ移り住んでいくことにつながるかもしれません。確かに命を守るために安全な場所に移り住むことは大切な考え方です。ですが脅すだけでは、移り住む人が増えてしまって、地域が衰退していくことも考えられます。

長い歴史の中で、災害は繰り返し起こっています。災害のある期間を除けばそのほとんどの時間を、自然の豊かさ、恵みを受けてこの土地に暮らしてきています。地域のことを知り、学びながら、いざという時にその土地にあった備えをすることが大切です。地域への愛着を育み、その地域

で安心して暮らすために備えることが、防災教育の考え方のひとつでもあります。

子どもたちは、学校にいる時間は年間を通じると2割でしかありません。学校の避難訓練にまかせっきりでは、子どもの『生きる力』を育むことができるでしょうか？多くの時間を過ごす、地域と家庭での取り組みがあつてこそ、子どもたちの命を守ることにもつながります。

今回のトライウォークは、地域を知ることにもつながり、愛着を育む一歩目となります。主体的な姿勢で防災を進めるためにも、無理のない「ながら防災」に取り組むのは、とても良いアイデアだと思います。「まちから」では、『命と地域を大切に想う気持ちを育む』ことを目標に掲げて、地域と学校が連携した防災教育を進められる

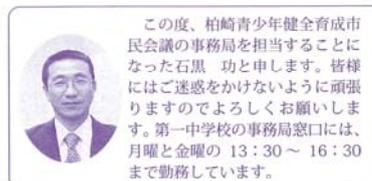


ようにお手伝いをしています。防災教育を使った地域イベントなど検討の際にはご相談ください。

～市民会議事務担当窓口移設のお知らせ～

平成29年11月より、青少年育成センターより柏崎市立第一中学校内に事務担当窓口を移設することになりました。ともなつて事務局長を石黒功(鯨波地区)が担当することになりました。これを機会に皆様の信頼にお応えできるよう倍の努力をいたします。今後ともよろしくお願いたします。

会長 須田 貴子
事務局長 石黒 功
住所 〒945-0065 柏崎市学校町5-27
柏崎市立第一中学校内
TEL・FAX 0257(41)6344
Mail: shiminkaigi@asahinet.jp



発行 〒945-0065 柏崎市学校町 5-27 柏崎市立第一中学校内
(責任者) 柏崎市青少年健全育成市民会議 会長 須田貴子

③その他

- ・ 中越メモリアル回廊と連携したスタンプラリーを開催

中越沖地震 10 年、そなえ館リニューアルオープンの機会として、中越沖地震メモリアルまちからと中越メモリアル回廊が連携したスタンプラリーを開催した。各施設では防災クイズに挑戦し5施設すべて回った

方は112組であった。まちからは、特製防災ふくふく袋を景品にした。市外や県外からの参加があり、中越沖地震メモリアルまちからの周知につながった。

実施期間：平成29年7月1日（土）～平成29年11月5日（日）

スタンプラリーチラシ・問題用紙

中越メモリアル回廊
The CHUETSU Earthquake Memorial Corridor

中越沖地震10周年
おぢや震災ミュージアム
&
そやえ館リニューアルオープン記念
スタンプラリー

実施期間：平成29年7月1日（土）▶11月5日（日）

新近期中越沖地震発生から今年で10年。中越沖地震メモリアル施設「まちから」とリニューアルオープンした「おぢや震災ミュージアム そやえ館」を含む中越メモリアル回廊を結ぶスタンプラリーを開催します！

中越沖地震メモリアル施設「まちから」と中越メモリアル回廊の4施設計5施設をめぐるクイズに挑戦してください。正解したらスタンプがもらえます。スタンプ5つ集めた方には、もちろん「特製防災ふくふく袋」をプレゼント！

速攻のクイズでスタンプGET！
スピードくじでクイズに挑戦！

スタンプ5つ集めると...
ガチャガチャでクイズに挑戦！

特製防災ふくふく袋をプレゼント！

まちからチャレンジデー
中越沖地震10周年
特別企画

スタンプラリークイズ

問題
中越沖地震の震度は？
震度 ○○

正解でスタンプゲット！

中越メモリアル回廊推進協議会（長岡市・小千谷市・公益社団法人中越防災安全推進機構）
（事務局）長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2階 きおくらいり
TEL：0258-38-5525 FAX：0258-39-5526 中越メモリアル回廊

スタンプラリー達成者



- ・ NPO 法人ふるさと未来創造堂が主催する小学生等による防災壁新聞コンクール作品の特別展示の実施

中越沖地震メモリアルまちからの更なる防災教育の推進と柏崎市内の学校に対する防災教育の普及・啓発を目的に、NPO 法人ふるさと未来創造堂が主催する小学生等による防災壁新聞コンクール作品の特別展示を実施した。

展示期間：平成30年2月～3月（情報ルームにて展示）

特別展示の様子



・ VR 体験会の開催

中越沖地震メモリアルまちからの展示強化（体験プログラム強化）及び出前講座に役立てるために VR 機器を活用した防災体験プログラム導入を検討している。VR 機器の導入によってどのような効果があるか、VR 機器の有効性について検証するため VR 体験会を開催し、VR 体験をしていただいた方々より以下のような意見を頂戴した。この意見等を踏まえ、今後導入について検討していく。

実施日：平成 29 年 12 月 9 日（土） 体験者数：82 人

VR 体験会の様子



<VR 体験者の声>

- ・ このプログラムは有効。閉鎖恐怖症の人には難しいのではないかと。他の災害からの避難についても体験させたい。（一般）
- ・ イベントブースで有効に活用できそう。常設というよりは、イベントなどで実力を発揮しそう。（消防署員）
- ・ VRの器具をつけて体験している方が怖くなかった。映し出される映像の方が恐怖心を持った。（市職員）
- ・ 小さい子には大きな音もあるので、どうかと思うがゲーム性は子どもの興味を引くのに有効だと思う。（消防署員）
- ・ 子どもが恐怖心を持ってしまうのも配慮しなければいけない。子どもたちの防災教育には有効だと考える。これを通じて、命を守ることを考えてほしい。（学校教員）

・先進地視察の開催

中越沖地震メモリアルまちからの展示及びプログラム強化と VR 機器導入検討を目的に先進地（横浜市民防災センター、防災体験学習施設そなエリア）をスタッフ及び関係者で実施した。各館では展示視察を行うとともに各館スタッフとの意見交換を行った。意見交換の主な発言は後述のとおり。なお、そなエリアにおいて、VR 機器メーカーの職員をお招きして、現在既にプログラムとして運用されている地震体験プログラムと火災消火プログラムをまちからスタッフ及び柏崎市関係者が体験した。その際の意見交換のなかで、プログラム自体はリアルで、おもしろみがあるが、防災教育に活用する際は、VR 体験をする前の説明、VR 体験をしてからの感想の共有、そして、実際に災害や火災にあった場合はどんな準備が必要なのかといった一連のプログラムを整備しなければならないといった議論があった。今後、この先進地視察を踏まえたうえで、中越沖地震メモリアルまちからの展示及びプログラム強化と VR 機器導入検討を進めて行く。

◆実施日：平成 30 年 3 月 15 日（木）

◆視察者（8 名）

柏崎市市民生活部 市民活動支援課 活動推進係

課長 小菅敬三

係長 竹内和男

主査 中村宗太

特定非営利活動法人 柏崎まちづくりネットあいさ

事務局長 水戸部智

特定非営利活動法人 地域活動サポートセンター柏崎

まちからコーディネーター 渡邊浩二

公益社団法人 中越防災安全推進機構

業務執行理事 稲垣文彦

まちからマネージャー 筑波匡介

株式会社野村防災

野村卓也

◆行程

日程	時間	場所 / 内容
15 日 (木)	6:00 ~10:30	【移動】 まちから ⇒ 横浜市民防災センター (約 300km)
	11:00 ~12:00	【見学】 施設見学・体験プログラム
	12:05 ~13:30	【移動・昼食】 横浜 ~ 東京臨海広域防災公園内 防災体験学習施設そなエリア東京 途中昼食
	13:30 ~16:00	【見学】 体験プログラム (60 分程度) 施設運営について意見交換 VR 体験 (アイディアクラウド)
	16:00 ~21:00	【移動】 そなエリア ⇒ まちから

先進地視察の様子



(横浜市民防災センターの説明の様子)

(横浜市民防災センター煙体験の様子)



(横浜市民防災センター掲示物)

(横浜市民防災センター掲示物)



(防災体験学習施設そなエリア入口)

(防災体験学習施設そなエリア入口)



(防災体験学習施設そなエリアの展示)



(防災体験学習施設そなエリアの展示)

<先進地見学での意見交換>

- ・ 未災地と災害を経験した地域では伝えられるメッセージの重さが違うと感じた。施設の大小ではなく、小さい施設でも負けない部分があることがわかった。(まちからスタッフ)
- ・ 学校へ営業をかけているが、熱心な学校とそうでない学校がある。子どもたちへ伝えるべきことを数値化して評価することは難しい。今後もお互いのために、意見交換や人的な交流ができると良い(そなエリア担当国交省職員)
- ・ 消防署が運営していることもあって、市民活動までは展開できていない。防災を市民に伝えるためにも、市民とのかかわりを増やすことが課題。(横浜市消防署員)

2. 語り部事業

(1) 実績 件数：16件 人数：619人

平成29年度後期、語り部プログラム実施詳細は以下の通りである（表2）。

表2

受付	月	日	団体	人数	内容	講師	備考	担当
1	9	9	上所校区コミュニティ協議会	40	コミュニティ活動と避難所運営	関矢	講話	筑波
2	9	9	上所校区コミュニティ協議会	40	同上	増田	講話	筑波
3	9	17	松波自主防災会	90	外傷への応急手当方法	渡邊	講話	渡邊
4	10	14	糸魚川大火復興関係者	50	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	講話	水戸部
5	10	15	糸魚川大火復興関係者	10	中越沖地震及びえんま通りの復興	水戸部	まちあるき	水戸部
6	11	16	鏡が沖中学校	120	やさしい日本語と中学生が避難所でできること	清水	WS、講話	筑波
7	11	27	南砺市福野北部自治会連合会	17	災害に強い地域づくり	関矢	講話	筑波
8	12	6	新発田市外ヶ輪地区自治会連合会	24	災害に強い地域づくり	関矢	WS、講話	筑波
9	12	14	半田小学校	54	災害食	会田	WS、講話	筑波
10	2	5	穂波町内会自主防災会	24	原子力災害	渡邊	講話	渡邊
11	2	10	地域防災リーダー研修講座	46	やさしい日本語	清水	WS、講話	筑波
12	2	28	北条小学校	17	多言語支援について	清水	講話	筑波
13	2	28	北条小学校	17	避難者支援について	渡邊	講話	筑波
14	3	10	防災士フォローアップ研修	50	片付け・収納について	山岸	講話	渡邊
15	3	24	熊本支援者視察	10	仮設、公営住宅	白川	講話	筑波
16	3	24	熊本支援者視察	10	えんま通りについて	水戸部	講話	筑波

(2) 主な活動（抜粋）

- ・糸魚川駅北大火からの復興関係者に対するプログラム実施

糸魚川駅北大火からの復興に取り組む関係者（糸魚川市役所、糸魚川青年会議所、被災商店主、弁護士等）50名に対して中越沖地震からのえんま通り商店街の復興についての語り部プログラムを実施した。語り部は、震災当時、えんま通り商店街の復興支援に携わったNPO法人柏崎まちづくりネットあいさの事務局長の水戸部智氏に依頼した。糸魚川の関係者からは、住民で作成した復興ビジョン作成過程や現在のえんま通り商店街の様子についての質問や意見交換が活発に行われた。また、プログラムの一環としてえんま通り商店街を実際に訪ね、えんま通りの商店主等との意見交換も行った。

実施日：平成29年10月14日

語り部プログラム及び現地視察の様子



- ・柏崎市立鏡が沖中学校1年生を対象としたプログラム実施

柏崎市立鏡が沖中学校1年生120人を対象にやさしい日本語についてと災害時において中学生ができることについての語り部プログラムを実施した。語り部は、震災当時、

柏崎地域国際化協会のスタッフとして外国人支援に携わった清水由美子氏に依頼をした。清水氏からは、外国人は災害を体験したことが少なく（特に地震）、災害時にはパニックに陥りやすい。また日本語をうまく話せない人もいる。その際は、英語等ができなくても、外国人に合わせたやさしい日本語で丁寧に伝えることにより、パニックがおさまリ、心を落ち着かせることができる。これは、中学生でもできること、是非、災害時には、積極的に外国人にやさしい日本語で話しかけてほしいという旨の話があった。それを受け、中学生がワークショップ形式でやさしい日本語について話し合った。

実施日：平成 29 年 11 月 16 日

語り部プログラムの様子



・穂波町内会自主防災会を対象としたプログラムの実施

穂波町内会自主防災会 24 人を対象とした東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故による広域避難の実態についての語り部プログラムを実施した。語り部は、事故当時、双葉町民で現在は中越沖地震メモリアルまちからスタッフの渡邊が実施した。渡邊からは、原発事故がおき、避難することなんて想定していなかったこと、事故当時、家族と合流するまでにかなりの時間がかかったこと、見ず知らずの土地に避難することの苦労等についての話があった。参加者からは、柏崎市も原発があり他人事ではないこと、広域避難の実態が良く分かったこと、このような話を柏崎市の全市民が知ったほうが良いこと等の感想があった。

実施日：平成 30 年 2 月 5 日

語り部プログラムの様子



・柏崎市防災士フォローアップ研修にてプログラムの実施

柏崎市内に住む防災士資格取得者 50 人を対象に地域での防災活動に役立てるため 日頃からの備えの重要性について語り部プログラムを実施した。語り部は、中越沖地震当時、柏崎市内在住、3 人の子どもを

持つ母親として震災及びその前の水害を経験し、現在は、日頃からの備えの重要性の気付きから家の整理整頓のプロとして活躍されている山岸道子氏に依頼した。山岸氏からは、母親としての災害時の不安や大変さを経験談を交えて話していただくとともに、日頃からの備えのとして、まずは、自宅の整理整頓の重要性についての話があった。これを受け、防災士の皆さまからは、災害時の対応において女性の目線が必要であるといったことや防災というととかく面倒に考えてしまうが、家の片づけからはじめるという提案はハードルが低いのではといった意見交換がされていた。

実施日：平成 30 年 3 月 10 日

語り部プログラムの様子



3. 防災教育事業

(1) 実績 件数：20件 人数：1,742人

平成29年度後期、防災教育プログラム実施詳細は以下の通りである（表3）。

表3

平成29年 防災教育プログラム一覧							
受付	実施月	実施日	団体	対象人数	内容	備考	担当
1	9	1	鯨波小学校	30	避難訓練と日頃からできること	実施	渡邊
2	9	12	柏崎小学校	591	避難訓練と保護者向け防災講話（津波）	実施	筑波
3	9	13	北条小学校	20	山古志巡検	実施	筑波
4	9	14	ドナルドキーンセンター	40	子どもたちを育む地域について（講話）	実施	筑波
5	9	23	トライウォーク	195	ハザードマップの紹介	実施	筑波
6	10	4	西山中学校	130	災害食とクロスロード	実施	筑波
7	10	5	はまなす特別支援学校	22	館内見学	実施	渡邊
8	10	6	はまなす特別支援学校	10	館内見学	実施	渡邊
9	10	31	鏡が沖中学校区教育懇談会	50	「みんなで地域防災について考えよう」	実施	筑波
10	11	8	北条小学校6年	17	やさしい日本語について	実施	筑波
11	11	5	NPO法人希楽々	18	クロスロード	実施	筑波
12	11	16	鏡が沖中学校	120	避難所運営ゲーム	実施	筑波
13	11	17	はまなす特別支援学校	10	館内見学	実施	筑波
14	11	20	産業大学留学生	10	館内見学	実施	三井田
15	11	22	鏡が沖中学校	343	クロスロード	実施	筑波
16	11	30	教育センター	33	クロスロード	実施	渡邊
17	12	1	はまなす特別支援学校	15	施設見学	実施	筑波
18	12	14	半田小学校	54	災害食	実施	筑波
19	2	19	北条小学校	17	復興とキャリア教育	実施	筑波
20	2	28	北条小学校	17	語り部講話とキャリア教育	実施	筑波
			受講人数合計	1742			

(2) 主な活動（抜粋）

①学校対応

・柏崎市立柏崎小学校

柏崎市立柏崎小学校の避難訓練に合わせて学校側から防災講座を実施したい旨の依頼を受け、避難訓練に関するコーディネートを行い、先生が防災教育プログラムを活用した全学年を対象とした津波に対する避難訓練を行った。同時に保護者への引き渡し訓練を実施した。ここでは、単に引き渡し訓練をするだけでなく、保護者向けの防災講座も実施した。

実施日：平成29年9月12日

当日の様子



・ 柏崎市立北条小学校

柏崎市立北条小学校にて一年間を通じた防災教育プログラムの実施サポートをまちからで行った。児童が一年通じて総合学習で防災について理解を深めた。防災教育プログラムの一年間のまとめにあたり、語り部（渡邊浩二、清水由美子氏：ともに前出）を派遣し、当たり前の日頃の生活の大切さ、災害時誰かのためにできること等といった課題提供をしたうえで、幸せとは何かを考える授業を実施した。

実施日：平成 29 年 11 月 8 日、平成 30 年 2 月 28 日（語り部実施）

当日の様子

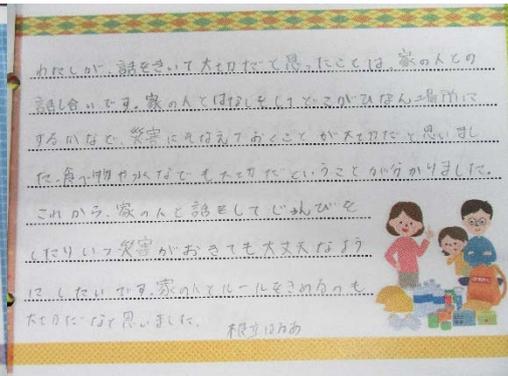
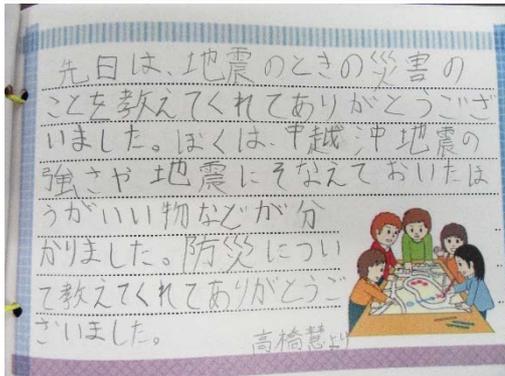
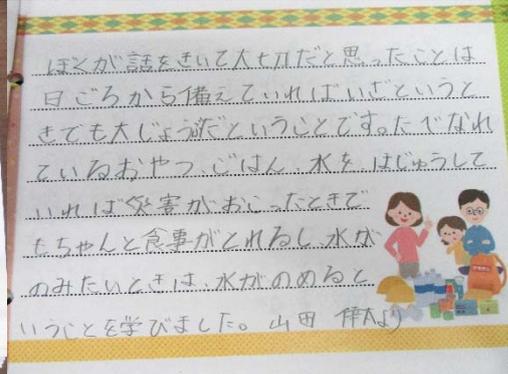


・ 柏崎市立半田小学校 5年生

柏崎市立半田小学校では総合学習において稲作体験を実施している。この総合学習防災のエッセンスを入れ防災教育プログラムを組み立てる提案を行った。当日は、稲作体験のほかに、柏崎市防災・原子力課からアルファ米を提供していただき、災害時における食について学び、実際にご飯を作ることを体験し、試食した。なお、この実施については、半田地区在住の防災士よりサポートをしていただいた。

実施日：平成 29 年 12 月 14 日

当日の様子・感想

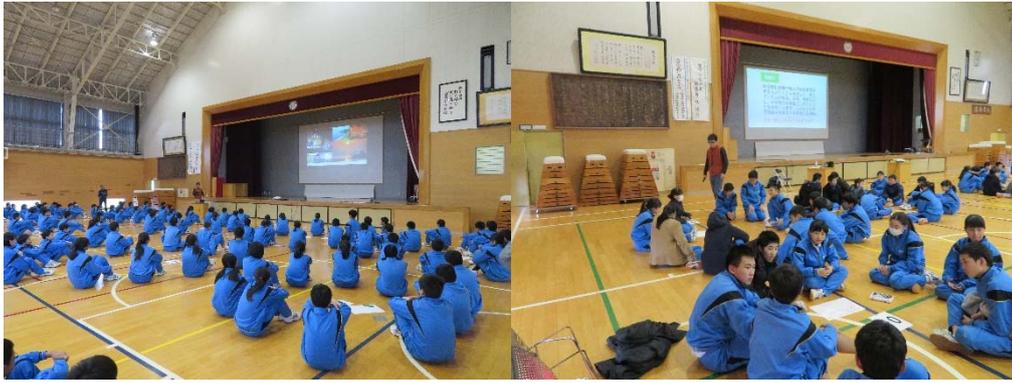


・ 柏崎市立鏡が沖中学校 全校生徒

柏崎市立鏡が沖中学校から依頼を受け防災教育プログラムを実施した。ここではワークショップを通じて、災害時にどんなことに困るのかを学んだ。また、中越地震の際に子どもたちが避難生活を送りながらも活躍した様子の話をすることによって率先して手伝いすることの重要性について理解を深めた。加えて、避難所で何ができるかを考えてもらうため、本年度整備した避難所ゲーム HUG を活用した実践的なワークショップを実施した。

実施日：平成 29 年 11 月 22 日

当日の様子



<利用者の声>

- ・ 子どもたちが積極的に意見交換を行うことができた。
- ・ 学校での避難訓練につなげることができると思う。
- ・ 災害時誰かのためにできることに気が付いてくれたのではないかと。(中学校教員)

②イベント出展による防災教育の普及

- ・ ワーク&ライフセミナーin かしわざきへの出展

防災のことを身近に感じてもらうため「まちの BOUSAI マスター」(カードゲーム) というプログラムを活用し、子どもからお年寄りまで幅広い年代が参加しやすいワークショップ(防災講座、防災工作等)を実施した。

当日の様子



③小中学校への働きかけ

柏崎市内の全小・中学校を対象に防災教育についての認識や取り組みの現状及びまちからに対する要望等について全校を訪問し、直接関係者の方々より話を伺った。その中では、

- ・ 防災教育の重要性は理解しているが、その時間を確保することが難しい
- ・ 防災教育の準備をする時間がない
- ・ 地域との連携をはかっていきたいがどのようにすれば良いかわからない
- ・ まちからでどんな防災教育プログラムを実施しているのかわからない

・まちからからどんなサポートが受けられるのかがわからない
 といった意見を頂戴した。これをもとに次年度のメモリアルビジョン 2017 の策定を行い、わかりやすいプログラムの提示といった面からまちから「マモル」プログラムを作成し 1,000 枚印刷を行った。次年度から、このビジョンをもとに防災教育事業を推進していくとともに、「マモル」プログラムを学校等に周知し、防災教育においてまちからの利用促進を進めていく。

メモリアルビジョン 2017

メモリアルビジョン 2017

2017 ▶▶▶ 2022 MEMORIAL VISION ver.0.7/1/8.0.1.1

基本理念

- ①中越沖地震を契機に柏崎の歴史と文化を学び、誇りをもつ
- ②中越沖地震で発揮した「市民力」を確認し、連携・協働の輪を広げる
- ③中越沖地震の教訓を防災・減災社会の実現に向けて継承していく

目標

- ・学童期における防災教育プログラムの定着（柏崎地域の小中学校で課外授業対応のメニュー化）
- ・中越沖地震メモリアルまちからの年間利用者 1.2 万人の達成と持続（平成 34 年度の達成を目指す）

目的達成のロードマップ



事業の3本の柱

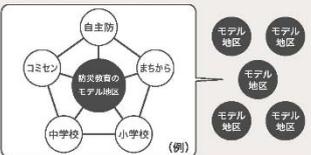


平成30年度事業概要

事業名	予算額	内容
防災教育推進事業	350,000	①モデル地区事業：3地区コーディネータープログラム型事業：18校で実施
自主防災研修事業	32,000	自主防災組織への研修会の開催（モデル地区の自主防災を重点的に実施）
語り部事業	50,000	防災教育推進事業、自主防災研修事業アーカイブ事業にて語り部の実施（10回）
アーカイブ事業	2,420,000	VRシステムの導入機材、見学履歴の確保 中越沖地震 11 周年記念事業、企画展の開催
防災教育コーディネーター養成事業	160,000	防災教育コーディネーター養成型の受講 各種研修会・講座への参加

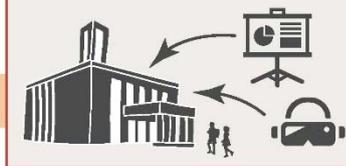
①モデル地区事業：柏崎の防災教育を推進する

地区のコミセンや自主防災組織、小中学校の協働による防災教育を推進し、モデルとなる地区をつくることで、柏崎らしい防災教育の構築を目指します。



②プログラム型事業：市内全域へ防災教育を広げる

中越沖地震メモリアルまちからの VR・映像・各種アーカイブを活用し、分かりやすい防災教育プログラムを柏崎地域の小中学校に提供していきます。



まちから「マモル」プログラム

★みんなで「マモル」を学ぼう★

まちから「マモル」プログラム

「マモル」の「前」「時」「後」のイメージをふくらませて、大切なヒト・モノを「マモル」ためのチカラをつける「学習プログラム」が登場！

コース	特徴
じぶんコース	まがはじぶんを「マモル」
あいてコース	つぎをあいてを「マモル」
ちいきコース	そしてもちきを「マモル」

小学校低学年（1年生、2年生向け）

- 自分の命は自分で守る
- 避難の行動を習得し、実践できる
- 先生や周りの大人の言うことを聞く

小学校中学年（3年生、4年生向け）

- 災害をイメージし、危険を理解する
- 家族での日頃の備えを考える
- 周りを守るための知識を得る

小学校高学年（5年生、6年生向け）

- 地域の危険・安全場所の把握
- 避難経路とリーダーシップの習得
- 周りの人への配慮と先を見通す力

中学校 1年生、2年生、3年生向け

- 災害の継続にあわせた身の守り方
- 適切な避難と行動ができる訓練
- 年下の子の手本となり表率する
- 他者を思いやり、手助けできる
- 避難所運営の練習になる

♪かわさき市民活動センター / 中越沖メモリアル♪

まちからとスタッフの紹介

まちからは、まちづくり・防災教育・地方創生など、地域のことを学び・実践するためのセンターです。様々な交流イベント、研修会、講座等の受け入れなど、地域のまちづくりを推進する事業を実施しています。まちからは、歴史や文化財に指定されている「善徳田（きょうたけえんじょう）」をリノベーションした施設でもあり、地域の歴史や文化がキャッチアップした場所です。

専門のコーディネーターが常駐

ヒトとヒトが出会う場所

三井田 隆	野村 卓也	渡邊 浩二	小林 りか	水戸部 智
島田 正寛	宮 沙織	斎藤 悠未	滝澤 葉月	

かわさき市民活動センター 中越沖メモリアル

〒950-0090 新潟県柏崎市西町二丁目4番7号

TEL 025-253-0001 FAX 025-253-0002

URL http://www.machikara.or.jp

④地域連携

・新潟県子ども会連合会

新潟県子ども会連合会として、危険予知トレーニングは実施しているが、防災教育に関する取り組みは未着手のため、防災教育講座の依頼を受けた。防災教育に取り組む姿勢を伝えるとともに、子どもたちに実践できるワークショップを学んでいただいた。隣県の長野県子ども会連合会からの参加もあった。

当日の様子



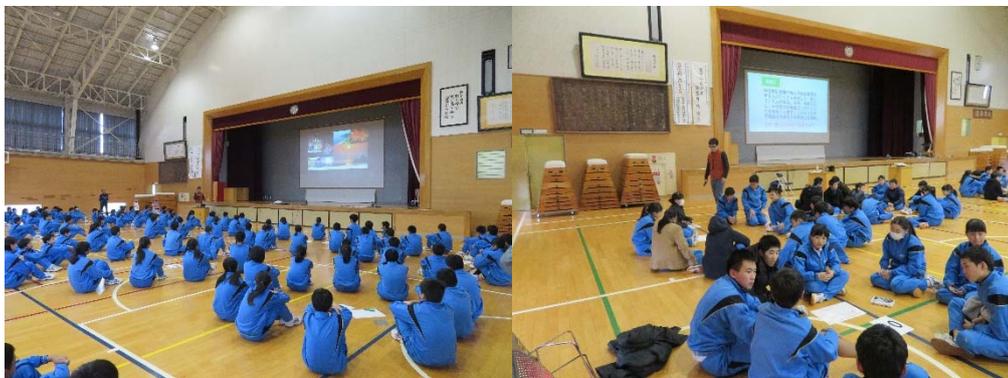
<利用者の声>

- ・ 防災教育を利用した教育活動に効果があることが分かった。
- ・ 防災はテクニックではなく取り組む姿勢だと理解することができた。
- ・ 話だけでなく効果的なワークが入ることで理解がました。今まで受けた講習の中で一番わかりやすかった。(子ども会育成連合会 講座参加者)

⑤避難所運営ゲーム (HUG) の導入

防災教育プログラム、自主防災講座等に活用するため避難所運営ゲーム (HUG) を導入し、柏崎市立鏡が沖中学校等の防災教育プログラム等で活用した。利用者からは、避難所のイメージがしやすい、カードゲーム形式なのでかまえずに行える等の意見を頂戴した。

避難所運営ゲーム (HUG) の様子



【避難所運営ゲーム HUG】

避難所運営ゲームHUGは、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

避難所運営ゲーム HUG



4. 自主防災会組織等育成事業（地域活動サポートセンター柏崎との協働実施）

（1）実績 件数：19件 人数：494人

平成29年度後期、自主防災組織等育成事業の実施詳細は以下の通りである（表3）。

表3

受付	月	日	団体	受講人数	内容	講師	備考	担当
10	9	14	南部地区自主防災会	15	誰にでもできる日頃からの防災対策	押見	1回	渡邊
11	9	17	松波自主防災会	90	外傷への応急手当法	渡邊	5回	渡邊
12	9	19	新橋2区町内会	15	災害発生時の対応	押見	5回	渡邊
13	10	7	枇杷島コミュニティ振興協議会	18	AED講習/心肺蘇生法	西牧	4回	渡邊
14	10	22	米山台自主防災会	19	外傷への応急手当法	渡邊	6回	渡邊
15	10	27	新道町内会	40	日頃からの防災対策	渡邊	3回	渡邊
16	10	29	上軽井川自主防災会	42	AED講習/心肺蘇生法	小林	1回	渡邊
17	11	4	新橋2区町内会	23	日頃からの防災対策	渡邊	6回	渡邊
18	11	9	駅仲通町内会	18	パッククッキング	押見	1回	渡邊
19	11	12	さくらニュータウン町内会	19	クロスロードゲーム	渡邊	6回	渡邊
20	11	18	枇杷島コミュニティ振興協議会	18	非常時にも強い地域作り	渡邊	5回	渡邊
21	11	19	長嶺町内会	50	災害発生時の対応	押見	2回	渡邊
22	11	19	港町1・2丁目町内会	35	災害発生時の対応	渡邊	2回	渡邊
23	11	25	黒滝町内会	16	日頃からの防災対策	渡邊	2回	渡邊
24	12	9	宮川自主防災会	18	AED講習/心肺蘇生法	西牧	1回	渡邊
25	12	10	新保自主防災会	9	防災マップ作り	渡邊	1回	渡邊
26	2	4	穂波町自主防災会	24	AED/応急手当(骨折・捻挫)	西牧	4回	渡邊
27	2	7	被災者サポートセンター	11	パッククッキング	押見	1回	渡邊
28	3	14	長峰町内会	14	災害発生時の対応	渡邊	3回	渡邊
			受講人数合計	494				
*			新規受講団体					

（2）主な活動（抜粋）

- ・南部地区自主防災会 15人

実施日：平成29年9月14日

講座テーマ：日頃からの防災対策

講座概要

参加者は、年配の女性が中心で、男性は町内会役員であった。まずは、中越沖地震から10年について、○×を使いながら、皆さんの意識を確認した後、日頃からの備えについての講義を実施した。そのなかで参加者自身に寝室の布団やベッドなどのレイアウト図を書いてもらい、参加者同士で危険がないか確認し合うことを行った。加えて、防災対策の備品について紹介した後、自助力をあげることが地域の防災力向上に役立つことを伝えた。質疑では、備えに関して多くの質問が出ており、総じて参加者の意識が高かったのではないかと感じた。参加していたコミセン担当者からは、このような取り組みを今後も各町内会で実施していくことを促していた。

当日の様子



・新橋二区町内会 15人

実施日：平成29年9月19日

講座テーマ：災害発生時の対応

講座概要

新橋地区は、過去に水害（浸水）に遭ったこともあり、講座では、最近多く発生している台風をはじめとした風水害発生時の対応についての内容を中心に実施した。そのなかでは、特に災害時の心構えと地域の連携の大切さについて強調した。質疑応答では、水の威力に驚いたという意見をいただいた。また、要援護者対策について、参加者は意識が高いが、参加しない方々にどのようにアプローチをしていけば良いかを今後考えていきたいといった意見もあった。

当日の様子



・宮川町内会 18人

実施日：平成29年12月9日

講座テーマ：AED・心肺蘇生法

講座概要

日赤の冊子「救急法の基礎知識」等を使用し、手当の基本を説明した後、実際にAEDのデモ機を使用して、使用の手順を確認した後、参加者が3グループになり、演習を実施した。町内会では、既に6名の防災士がおり、今後は、この防災士が中心となって地域の防災力向上をはかっていく方針である旨、伺った。

当日の様子



・長峰町内会 14人

実施日：平成30年3月14日

講座テーマ：災害発生時の対応

講座概要

地域の基礎データ（世帯数、一人暮らし世帯数、備蓄状況、過去の被害状況、地域のイベントの参加度合い等）を参加者で確認した後、防災は誰のため、わが町を良く知ろう、誰にでもできる防災対策、災害で死ななないために（東日本大震災の教訓から）といった内容の講義を実施した。参加者の感想として、災害伝言ダイヤルを一度体験してみたい、死なない環境をつくるには、災害を想像する力が大切だと気付かされたといった発言があった。

当日の様子



8. 東日本大震災記憶伝承体制整備事業可能性調査（宮城県）

2万人を超える死者、行方不明者を出した東日本大震災から7年、宮城県の被災した沿岸15市町においては、展示施設、震災遺構、メモリアルパーク、モニュメントの整備など様々な記憶伝承関連事業が実施されている。

震災記憶の伝承には、「発生した被害」と「被災後の地域づくり・まちづくり」という二つの側面がある。被災県中、最大の犠牲者を出した宮城県では、現状「発生した被害」の伝承に重点が置かれ、それだけ、無念、自省、哀悼、再発防止への誓いが強いことの反と捉えられる。被災地では、高台移転、地盤さ上げ、巨大防潮堤整備など土木事業が進行する一方で、コミュニティの再生、災害弱者支産業振興、新しい日常の生み出しなど課題は積。多くの被災地で過疎・高齢化が進み、決して明るい未来が描けている状況にはない中



宮城モデルのイメージ（報告書から）

映
か
す
援、
山
し
に

本業務では、中越地震からの経験と知見（上手くいったこと・いかなかったこと）を踏まえ、県全域における持続可能な伝承体制整備へ向けた議論を重ね、宮城県への提案として報告書をまとめた。

●実施体制

氏名	所属
平井 邦彦	(公社)中越防災安全推進機構 顧問 (長岡造形大学名誉教授)
福留 邦洋	岩手大学地域防災研究センター 教授
佐藤 翔輔	東北大学災害科学国際研究所 准教授
中川 政治	(公社)みらいサポート石巻 専務理事
山口 寿道	(公社)中越防災安全推進機構 監事
玉木 賢治	(公社)中越防災安全推進機構 事務局長



地域防災力センター
平成 29 年度事業報告

1. 中越市民防災安全大学の運営（長岡市）	3
【1】 背景・目的	3
【2】 講座内容	4
【3】 実施結果	5
【4】 アンケート調査結果	9
2. ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越大震災復興基金）	10
【1】 目的	10
【2】 事業報告	10
【3】 成果と課題	16
3. 地域防災力向上支援業務（その他）	18
【1】 地域防災まちづくりフォローアップ事業（新潟県からの委託業務）	18
【2】 地域防災力強化支援事業（長岡市からの委託業務）	18
【3】 避難所運営体制連絡会企画運営委託業務（新潟市からの委託業務）	19
【4】 わが家の防災力向上事業（新潟市東区からの委託業務）	20
【5】 南区総合防災訓練及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区からの委託業務）	20
【6】 IoTを活用した地域防災システムに関する実証実験及び検証業務	21

1. 中越市民防災安全大学の運営（長岡市）

【1】背景・目的

中越市民防災安全大学は「安全」や「防災」をテーマに、専門的な知識や災害時に役立つノウハウや実技を学び、被災現場を視察できる連続講座として広く市民の方々にご聴講いただくことで、防災に関わる人材の裾野を広げ、地域の防災活動や災害時に活躍できる人材、災害や防災の知識・教訓等を語り継げる人材を育成することを目的としている。

12期目を迎えた今期中越市民防災安全大学では、昨年と同様に開講期間を参加しやすく設定し、短期集中型でありながら充実したカリキュラム構成とした。今期の卒業生43名を含めて、これまでに584名の卒業生（中越市民防災安全士）が誕生し、それぞれの地域の防災活動に活躍されている。

中越市民防災安全大学 これまでの開校実績

	開講期間	受講者数	修了者数	安全士会員	会場
第1期生	H18.7.22～11.25	60名	57名	53名	ながおか市民センター
第2期生	H19.7.7～11.17	45名	44名	33名	長岡商工会議所
第3期生	H20.7.5～11.15	58名	55名	31名	長岡商工会議所
第4期生	H21.7.4～11.14	49名	45名	23名	長岡商工会議所
第5期生	H22.7.3～11.13	40名	34名	21名	長岡商工会議所 ながおか市民防災センター
第6期生	H23.7.9～11.12	52名	48名	21名	長岡商工会議所 まちなかキャンパス 長岡震災アーカイブセンター
第7期生	H24.7.7～11.10	53名	52名	41名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第8期生	H25.6.29～11.2	52名	51名	25名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第9期生	H26.7.5～11.22	47名	47名	27名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第10期生	H27.7.4～11.21	63名	61名	18名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第11期生	H28.8.20～9.4	48名	47名	17名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第12期生	H29.8.26～9.10	47名	43名	16名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部

【2】講座内容

日程・会場			テーマ・講師	
第1日 8.26 (土)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	オリエンテーション・講話	中越防災安全推進機構 長岡市・中越市民防災安全士会
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	災害時の情報発信	東京大学大学院 情報学環・総合防災情報研究センター 関谷 直也
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域の防災	青葉台3丁目自主防災会 神田 英一朗
	14:50-16:20	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災の最前線	防災ジャーナリスト 吉村 秀寛
第2日 8.27 (日)	9:00-10:30	ながおか市民防災センター2階	地震災害への対策	山梨大学 地域防災・マネジメント研究センター 秦 康範
	10:40-12:10	ながおか市民防災センター2階	災害時の避難行動	群馬大学大学院 理工学府 広域首都圏防災研究センター 金井 昌信
	13:10-14:40	ながおか市民防災センター2階	防災ワークショップ	中越防災安全推進機構 河内 毅
	14:50-16:20	ながおか市民防災センター2階	中越大震災を知る①	長岡造形大学名誉教授 平井 邦彦
第3日 9.2 (土)	9:00-11:30	長岡市消防本部	普通救命講習	長岡市消防本部
	11:30-13:00	ながおか市民防災センター	災害食実演	中越市民防災安全士会 石黒 みち子
	13:00-18:00	中越メモリアル回廊	中越大震災を知る②	中越防災フロンティア
第4日 9.9 (土)	9:00-10:30	ながおか市民防災センター2階	災害後の対応①	人と防災未来センター 本塚 智貴
	10:40-12:10	ながおか市民防災センター2階	避難所運営ワークショップ①	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 天野 和彦
	13:10-14:40	ながおか市民防災センター2階	避難所運営ワークショップ②	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 天野 和彦
	14:50-16:20	ながおか市民防災センター2階	水害への対策	エコロジーサイエンス 樋口 勲
第5日 9.10 (日)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	土砂災害への対策	新潟大学 新潟大学災害・復興科学研究所 ト部 厚志
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	災害後の対応②	野村防災 野村 卓也
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	長岡市の防災	長岡市 危機管理防災本部
	14:50-15:45	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	講話・卒業式	長岡市 危機管理防災本部 中越市民防災安全士会
	16:00-17:00	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災士試験（申込希望者のみ）	日本防災士機構

【3】実施結果



講座 1 オリエンテーション・講話



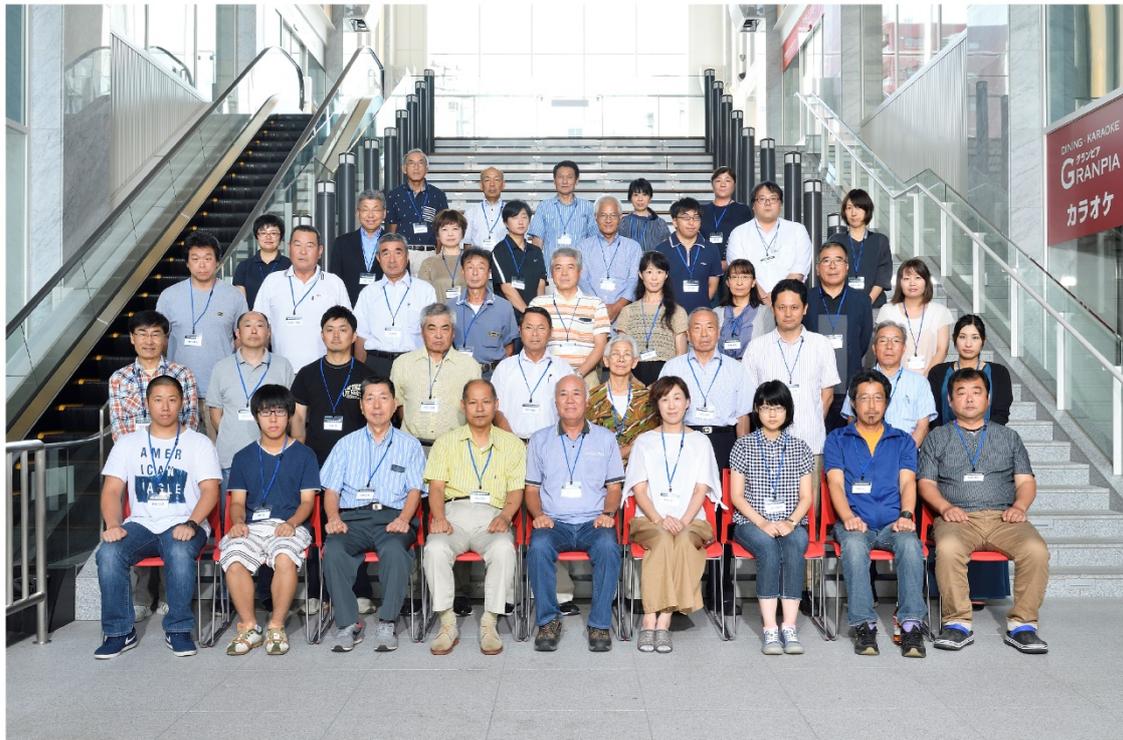
講座 2 災害時の情報発信



講座 3 地域の防災



講座 4 防災の最前線



平成29年度 中越市民防災安全大学 平成29年8月26日



講座5 地震災害への対策



講座6 災害時の避難行動



講座7 防災ワークショップ



講座8 中越大震災を知る①



講座9 普通救命講習



講座10 災害食実演



講座11 中越大震災を知る②



講座12 中越大震災を知る②



講座 13 災害後の対応①



講座 14 避難所運営ワークショップ



講座 15 避難所運営ワークショップ



講座 15 避難所運営ワークショップ



講座 16 水害への対策



講座 17 土砂災害への対策



講座 18 災害後の対応②



講座 19 長岡市の防災



講座 20 講話・卒業式

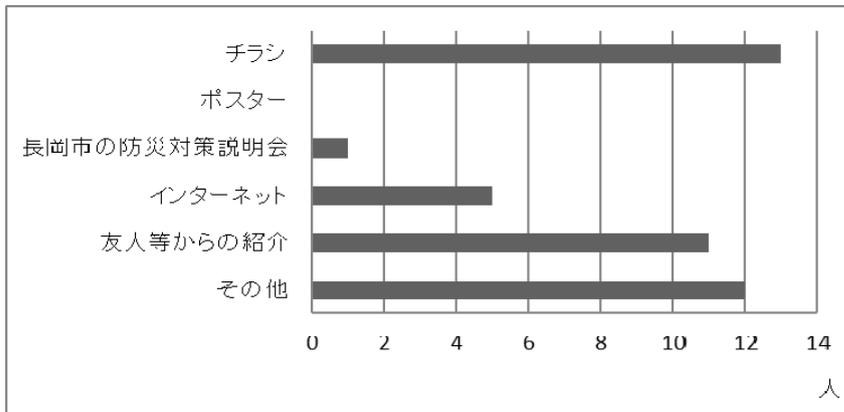


受講生集合写真

(中越大震災被災地視察・木籠メモリアルパーク)

【4】アンケート調査結果

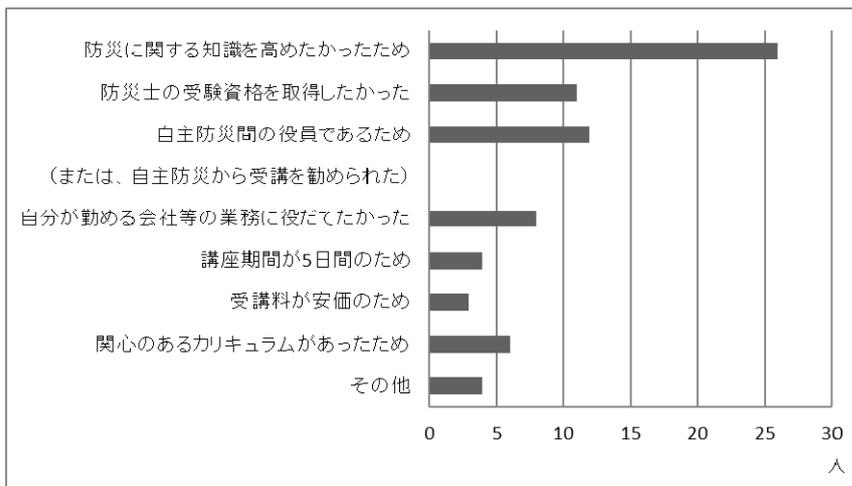
1. 今期の開講についてどこで知ったか教えてください。



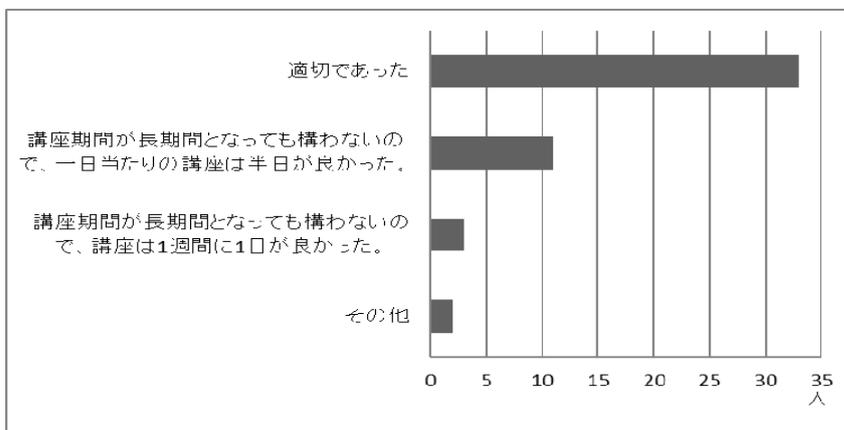
その他の内容

地区役員より依頼、町内会自主防災会からすすめ、長岡消防、職場、回覧板

2. 受講を決めた動機を教えてください（複数回答）



3. 今期の講座期間はどうでしたか



2. ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越大震災復興基金）

【1】目的

児童生徒の災害から生き抜く力を育むため、新潟県内の全小中学校に配布した「新潟県防災教育プログラム制作事業」（自然災害編：平成26年2月、原子力災害編：平成28年2月完成・配布済）の成果品の活用を促すとともに、各学校で防災教育を進める担当教員等が防災教育の重要性を理解し、実践的で継続的な取組を実施できるよう、防災に関する専門的・技術的な支援を行う。

【2】事業報告

①学校に対する働きかけ

「平成28年度防災教育の推進に関する取組状況調査」（以下、H28状況調査）の結果において、「自校化できていない学校」及び「事業申請していない学校」の両方に該当する学校（H29.5時点で104校）を優先対象（以下、優先対象校）と定め、学校サポートのニーズを把握するためのアンケート調査（「防災教育に係るサポートに関する意向調査」）を実施した。

その結果に基づき、当機構によるサポートを必要としている学校をリストアップし、以下に示すように、個別にコンタクトを取り、現状と課題を把握した上で、依頼や相談に応じた（助言、事例紹介、資料提供、情報提供、学校実践事業の紹介など）。

<学校訪問>

- 県立柏崎特別支援学校
- 県立柏崎翔洋中等教育学校
- 新潟県立新潟聾学校
- 十日町市立田沢小学校
- 阿賀町立三川小学校

<電話ヒアリング>

- 県立東新潟特別支援学校
- 県立駒林特別支援学校
- 県立高田特別支援学校
- 新発田市立猿橋中学校
- 新発田市立東中学校
- 新発田市立川東中学校
- 新発田市立佐々木中学校
- 加茂市立須田小学校
- 加茂市立石川小学校
- 十日町市立上野小学校
- 十日町市立中条中学校
- 十日町市立中里中学校
- 村上市立神納小学校
- 村上市立村上第一中学校
- 燕市立燕南小学校
- 燕市立小中川小学校
- 燕市立燕中学校
- 糸魚川市立田沢小学校
- 糸魚川市立浦本小学校
- 糸魚川市立糸魚川中学校
- 妙高市立にしき特別支援学校
- 五泉市立五泉南小学校
- 五泉市立村松小学校
- 五泉市立五泉中学校
- 上越市立針小学校
- 上越市立雄志中学校
- 上越市立中郷中学校
- 上越市立板倉中学校
- 阿賀野市立京ヶ瀬中学校
- 佐渡市立内海府小学校
- 佐渡市立高千小学校
- 佐渡市立赤泊小学校

- 佐渡市立前浜中学校
- 佐渡市立金井中学校
- 佐渡市立真野中学校
- 佐渡市立南佐渡中学校
- 魚沼市立湯之谷小学校
- 魚沼市立湯之谷中学校
- 南魚沼市立三用小学校
- 南魚沼市立城内小学校
- 胎内市立きのと小学校
- 胎内市立築地中学校
- 聖籠町立亀代小学校
- 津南町立芦ヶ崎小学校
- 津南町立津南中学校

また、市町村・学校等の依頼に応じて、防災教育に関する教職員研修を実施するとともに、防災教育の自校化及び事業申請に資する情報提供を行った。(表 1)

表1 市町村・学校等主催の教職員研修に関する実績

研修概要	内 容
防災教育研修会 主催：上越市教育員会 日時：5月12日 14:00-16:45 対象：上越市立全小中学校 教職員 74名 場所：上越教育プラザ事務所棟	<ul style="list-style-type: none"> • 避難所運営ゲームを通して、災害時の学校の状況を疑似体験し、イメージをつかむ。 • 自校化の工夫の例とポイントを説明。 • 学校実践事業及び学校サポート事業の資料を配布し、事業の内容を説明。
防災キャンプ事前研修会 主催：新発田市教育委員会 日時：5月15日・16日 対象：新発田市内小学校教職員 26名 場所：青少年宿泊施設あかたにの家	<ul style="list-style-type: none"> • 防災キャンプ（防災教育）を実施する意義を説明。 • 実践事例紹介及び体験活動から防災キャンプの活動プランを検討・作成する。 • 各校が作成・提出する活動プランを説明。
環境教育講座 主催：新潟県立教育センター 日時：6月15日 13:00-16:00 対象：県内の教員（高校含む） 7名 場所：新潟県立教育センター	<ul style="list-style-type: none"> • 県教育庁保健体育課より防災教育の基本的考え方と義援金事業で進めている防災教育関連事業について説明。 • 県防災教育プログラムを活用した学習指導案作成のワークを実施。
防災教育研修会研修会 主催：燕市教育委員会 日時：6月16日 15:40-16:40 対象：防災教育担当者 20名 市教委 3名 市 4名 場所：燕市中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> • 防災教育の基本的考え方を説明。 • 既存の学校行事や教科、地域行事と関連させた防災教育の実践事例を紹介。 • 学校実践事業を説明。補助金の活用例（購入可能な教材など）を紹介した。 <p style="text-align: right;">※ふるさと未来創造堂にて対応</p>
防災教育授業研修会 主催：三条市教育委員会 日時：6月23日 15:00-16:00 対象：三条市内小中学校教員、市職員 50名 場所：三条市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> • 防災教育の基本的考え方を説明。 • 新潟県防災教育プログラム原子力災害編の特徴と児童生徒に教える際の留意点、授業を設計する際のポイントを説明。 • 学校実践事業の紹介と活用を勧める。
防災講座防災講座 主催：新潟市南区 日時：6月23日 14:00-16:00 対象：新潟市南区地域教育コーディネーター 場所：白根地区公民館	<ul style="list-style-type: none"> • 防災教育の基本的考え方を説明。 • 既存の学校行事や教科、地域行事と関連させた体験型の防災学習を体験。 • 今後学校の防災教育で生かせる内容をグループで話し合った。 <p style="text-align: right;">※ふるさと未来創造堂にて対応</p>
研修会「活用できる防災教育～水害・放射線～」 主催：長岡市教育委員会 日時：8月8日 13:15-13:45 対象：長岡市内の教員 場所：長岡市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> • 学校実践事業を活用して長岡市が制作・配布した防災玉手箱を紹介。 • 模擬授業形式（水害・放射線を中心に）で防災玉手箱の活用方法を紹介。 • 県防災教育プログラムとの関連を説明。 <p style="text-align: right;">※ふるさと未来創造堂にて対応</p>

<p>燕市防災教育研修会 主催：燕市防災課・燕市教育委員会 日時：8月9日 14:30-16:30 対象：燕市内小中学校のICT担当教職員20名 場所：燕市立燕中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育の基本的な考え方、ICとTの接点を紹介。 ICTを活用した防災教育の模擬授業を実施。 ふるさと新潟防災教育推進事業学校実践補助金について説明。
<p>家庭・学校・地域との連携・協働研修大会 主催：柏崎市小中学校PTA連合会 柏崎市教育委員会・刈羽村教育委員会 日時：8月26日 9:15-11:45 対象：柏崎市内の保護者・教職員・一般600名 場所：柏崎文化市民会館アルフォーレ 大ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと新潟防災教育推進事業についての説明。メモリアル回廊で実施している防災教育支援メニューの紹介。 防災教育における保護者・教職員の役割をクロスロードゲームの体験を通して説明。
<p>燕市防災教育研修会 主催：燕市教育委員会 日時：10月6日 13:30-16:30 対象：燕市内の地域連携担当教職員・地域コーディネーター 場所：燕市吉田産業会館</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災教育の進め方をテーマに防災教育の実践例を紹介。 地域人材や既存の行事等から、無理なくできる地域と連携した活動プランを検討するワークショップを実施。 「ふるさと新潟防災教育推進事業」を説明。
<p>柏崎市立鏡が沖中学校区 教育懇談会 主催：柏崎市立鏡が沖中学校区 (鏡が沖中学校、半田小学校、枇杷島小学校) 日時：10月31日 15:00-16:45 対象：柏崎市立鏡が沖中学校区 教員・PTA 場所：柏崎市立鏡が沖中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育に求められる姿勢と地域と連携した防災教育について説明。 クロスロードゲームを用いた防災学習の研修を実施。
<p>柏崎市立教育センター 主催：柏崎市教育委員会 日時：11月30日 14:00-16:00 対象：柏崎市内の教職員 場所：まちから</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちからの施設を活用して見学と防災講座を実施。 地元防災士に講師を依頼し、クロスロードゲームを実施。
<p>防災キャンプ振り返り研修会 主催：新発田市教育委員会 日時：12月1日 16:00-17:30 対象：新発田市内小学校教職員 場所：和食堂大松</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各校より実施した防災キャンプ(防災教育)の実施内容を報告。 次年度以降の継続に向けた不安や要望を共有し、新発田市教育委員会に提案。 ※ふるさと未来創造堂にて対応

②市町村・学校等への防災教育実践サポート

新潟県防災教育に関する総合窓口を中越防災安全推進機構の地域防災力センター内に設置し、小中学校や市町村等からの個別の相談や要望に応えるとともに、各学校・教職員による防災教育の実践活動を適宜サポートした。

当機構の活動実績は **別紙1** のとおりであり、ふるさと未来創造堂の実績は **別紙2** のとおりである。

【実績件数】

- 実践サポート件数：依頼件数 204 件 / 延べ総数 305 件
 - 中越防災安全推進機構：依頼件数 171 件 / 延べ総数 248 件
(うち学校からのサポート依頼件数は 105 件 74 校)
 - ふるさと未来創造堂：依頼件数 33 件 / 延べ総数 57 件
(うち学校からのサポート依頼件数は 21 件 19 校)

③防災教育研修会（教職員研修会）の開催

教職員及び市町村・教育委員会の担当職員等を対象に、防災教育の自校化に資する研修会を以下のとおり開催した。

- 日 時 平成30年2月6日（火）14:00～16:45
- 場 所 新潟県自治会館 講堂
- 出席者 70名（教職員、行政職員、防災士、コーディネーター 等）
- 内 容 新潟県内で防災教育を実践してきた3名の先生から、それぞれの取組を通して実感された防災教育の多様な効果について報告していただくとともに、学識者を交えてパネルディスカッションを行い、「防災教育の様々な効果と可能性」について議論を深めた。後半はグループワークを実施し、参加者それぞれの気づきを共有した後、今後の活動にどのように活かしていくかを話し合った。
- 成 果 当日は大雪にも関わらず、県内各地から71名（教職員24名、防災士・住民30名、コーディネーター17名）が出席し、過去2回の研修会と比較して、最も参加人数の多い研修会となった。防災教育の実践によって、「生徒の学力（NR T）が向上した」「不登校・いじめの減少が見られた」「学校と地域が関わる機会が増え、学校に対する地域の信頼感が増した」「児童生徒が自己肯定感、自己有用感を感じる機会が増えた」など、様々な効果が児童生徒、教員、学校、保護者、地域において表れているという実態を知ってもらうことができた。

④ホームページ「防災教育スイッチ」のリニューアル

平成28年度より開設していたホームページ「防災教育スイッチ」を抜本的に見直し、防災教育に取り組む学校・教職員を実用的かつ多面的にサポートする重要ツールとして、大規模なリニューアルを行った。



⑤防災教育の効果を明らかにする研究会の運営

平成 28 年度に設置した「防災教育の効果を明らかにする研究会」を継承し、同じ委員構成で合計 5 回の研究会を開催した。

<委員構成>

群馬大学大学院理工学府 環境創生部門 准教授 金井昌信氏
 東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 助教 定池祐季氏
 長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 准教授 松田曜子氏
 新潟県魚沼市立湯之谷中学校 校長 五十嵐一浩氏
 新潟大学教育学部附属長岡小学校 副校長 松井謙太氏
 新潟県上越市立黒田小学校 校長 宮川高広氏

<開催状況>

日時・会場	主な内容
第 1 回 H29.8.21 14:00～16:00 会場：きおくみらい	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の活動内容と主な成果を確認した。 ・新潟県防災教育に関する現状を説明した。(防災教育の自校化の達成状況、学校実践事業への申請状況など) ・平成 29 年度の活動に関する意見交換を行った。目的の確認、自校化のイメージの共有、検討テーマの設定等。
第 2 回 H29.9.8 9:00～12:00 会場：きおくみらい	<ul style="list-style-type: none"> ・五十嵐委員、松井委員、宮川委員より、これまでの防災教育の経験、実践のポイント、実感されている効果について、お話ししていただき、質疑応答を行った。 ・防災教育の意義、効果の把握方法、学校現場への効果の伝え方について意見交換を行った。
第 3 回 H29.11.2 15:15～17:30 会場：まちなかキャンパス 502 号室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度ふるさと新潟防災教育推進事業(学校サポート)の中間報告について説明した。 ・当研究会の方針変更の提案をし、委員より了承していただいた。当初 3 年計画であったものを 2 年間(本年度で終了)とし、教職員研修会にて成果を還元することとした。
第 4 回 H29.12.5 15:00～17:00 会場：きおくみらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育研修会(2月6日開催)の具体的内容と進行方法について討議を行った。 ・五十嵐委員、松井委員、宮川委員からの実践報告、それを受けた当研究会委員によるパネルディスカッション、出席者によるグループワークという構成に決定した。
第 5 回 H30.3.7 16:00～18:00 会場：きおくみらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育研修会のアンケート結果をもとに、研修会の成果と防災教育を推進するための課題について検討した。 ・当機構による次年度以降の防災教育の事業展開案を紹介し、意見交換を行った。 ・今後は各委員から適宜協力をいただきながら、各学校における防災教育を引き続きサポートしていくことを確認した。

⑥ 先行事例調査・ヒアリング

防災教育に関する県内外の先進事例を調査・視察・受講し、得られた知見を当機構職員及び協力者の間で共有するなどして、新潟県における防災教育の実践促進及び質の向上に反映させている。これまでにを行った先進事例調査・情報収集は、以下のとおり。

表3 先進事例調査・情報収集の実績

調査事例	概要
防災ゲーム Day 2017 in そなエリア東京	日時：7月2日 10:00-16:00 場所：東京臨海広域防災公園そなエリア東京 主催：東京臨海広域防災公園管理センター 一般社団法人防災教育普及協会
みらいずカレッジ 2017 キックオフイベント【探究のはじまり編】	日時：6月17日 13:00-16:30 場所：万代市民会館 多目的ホール 主催：NPO 法人みらいず works 後援：新潟県教育委員会 新潟市教育委員会
青少年赤十字 防災教育スキルアップセミナー	日時：9月28日 14:00-16:00 場所：聖籠町公民館 主催：日本赤十字社新潟県支部 後援：新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 聖籠町教育委員会
極端気象体験ツアー ～豪雨について考える編～	日時：10月10日 13:00-17:30 場所：防災科学技術研究所 つくば本所 主催：気象災害軽減コンソーシアム
防災教育ファシリテーター養成講座上級編 防災まち歩き・逃げ地図作り	日時：11月11日 10:00-16:00 場所：神奈川県鎌倉市材木座町内 材木座公会堂 主催：NPO 法人かながわ311 ネットワーク
防災教育ファシリテーター養成講座上級編 HUG 指導法	日時：11月25日 10:00-14:00 場所：かながわ県民センター 主催：NPO 法人かながわ311 ネットワーク
防災教育指導者育成セミナー地震対応編	日時：2月18日 10:00-16:00 場所：東京大学地震研究所 主催：一般社団法人防災教育普及協会

【3】成果と課題

本年度は、「新潟県内のすべての小中学校において防災教育の自校化（各学校における防災教育の自立的・継続的な実践の確立）が実現されている状態」（以下、「自校化 100%」）を最終的な目標として明確に意識し、事業の設計及び展開を行った。主な成果と課題について以下に整理する。

■学校の実態把握と働きかけについて

（主な成果）

- ・ 学校実践事業の新規申請については、ふるさと未来創造堂の活動と併せて、柏崎市より5校、新発田市より17校の実績があった。

（課題）

- ・ 防災教育の自校化に際しては、学校それぞれの事情があり、こちらから学校に直接働きかけたとしても、その効果には限界がある。
- ・ 新潟県防災教育プログラム完成版が学校に配布されてから4年、学校実践事業が開始されてから3年が経過しており、ふるさと新潟防災教育推進事業の周知・定着も進む中、既に実施できる学校・市町村教育委員会は各々の実情にあったやり方で取組を始めている。したがって、現時点において防災教育に取り組めていない学校に対しては、学校や教育委員会とは異なる切り口からアプローチしていく必要がある。
- ・ 防災教育は学校単体の取組として完結するものではなく、学校と地域・家庭との連携が極めて重要であり、地域一体となった地域づくりとして展開していくべきものである。これまでの4年間に渡る学校サポート事業は、学校側に対するアプローチであったが、これ以上の顕著な成果は難しい状況と思われる。今後は地域側からの多様なアプローチ及び事業展開を検討・試行する必要がある。

■防災教育の効果について

（主な成果）

- ・ 平成28年度に設置した「防災教育の効果を明らかにする研究会」を本年度で完了とし、これまでの成果として学校教育現場に伝えたいことを精査し、新潟県防災教育研修会の場で発信・共有することができた。
- ・ 上記研究会においては、防災教育の効果として特に学力の向上に着目し、三条市立D中学校の事例から、防災教育の実施に伴う学力（NRT）の変化を分析して、学力向上の可能性を定量的に示すとともに、2つの中学校の比較分析（教員へのアンケート調査）をもとに学力向上に影響を及ぼすと考えらえる要因について明らかにすることができた。

（課題）

- ・ 防災教育の効果を明らかにする研究会は、新潟県防災教育プログラムを活用した防災教育の実践を普及させていくため、防災教育の効果を定量的に把握し、学校教育現場に伝えていくことを目的としていた。

- ・ しかし専門家の研究分野においても、防災教育の効果検証は容易ではない。本事業において、新潟県内でケーススタディや事例調査等を実施して効果の定量化を試みるようになった場合、限られた期間で実施できるのか、さらにその分析手法や分析結果をある程度オーソライズすることができるのかを検討したところ、極めて難しいという結論に至った。
- ・ 例えば、ケーススタディで定量化を試みた場合、「顕著な効果は見られなかった」という結果も当然ありうる。また、仮に効果を定量的に把握する手法を検証し、学校に提示したとして、それは各学校で活用されるのか、防災教育の実践の普及に寄与するのかは疑わしい。
- ・ 以上のことから、今後は効果の定量化にはこだわらず、学校サポート事業を実施する中で見聞きした各学校における効果を随時ホームページで紹介する。

■防災教育の自校化について

(主な成果)

- ・ 平成28年度防災教育の推進に関する取組状況調査の結果では、自校化率は85% (学校実践事業に申請した学校を除く) であり、「自校化できていない学校」及び「事業申請していない学校」の両方に該当する学校は104校であった。
- ・ この104校に集中的に働きかけたことにより、平成29年度同調査の結果では、104校のうち46校で自校化することができ、さらに5校が新たに学校実践に申請するに至った。これらを踏まえて算出すると自校化率は93%になり、当初目標とした90%以上を達成したことになる。
- ・ 平成28年度より開設していたホームページ「防災教育スイッチ」を「自校化100%」という視点から全面改訂し、大規模なリニューアルを行った。これによって防災教育を実践する教職員をサポートする情報ツールを整備することができた。学校実践事業の申請にも活用されている (H29.10.1~H30.3.31の訪問ユーザー2,670件、うち新規ユーザー2,575件)。

(課題)

※「学校の実態把握と働きかけについて」と同様。

3. 地域防災力向上支援業務（その他）

【1】地域防災まちづくりフォローアップ事業（新潟県からの委託業務）

本業務は、市町村が自主防災組織活動等の支援を行うにあたり、抱えている課題の解決や事業のフォローアップ等を行うことにより、市町村の取組を支援し、地域防災力の向上を図ることを目的に実施した。

具体的には、自主防災組織を支援するにあたっての課題の詳細を把握するため、新潟県内の市町村を対象にアンケート調査を実施した。また、自主防災組織の育成・支援に意欲のある3市町村を選定し、当機構職員を派遣して企画立案から運営支援まで総合的にサポートを行った。さらに、県内市町村の防災担当者による意見交換の場として、地域防災交流会議を開催するとともに、自主防災活動の必要性や支援施策等を学ぶための行政職員研修会を企画・運営した。市町村が防災に関する講師等を探す際に参考となる人材リスト（データベース）についても完成させることができた。



地域防災交流会議

【2】地域防災力強化支援事業（長岡市からの委託業務）

本業務は、自主防災組織の意識啓発・育成を目的とし、自主防災活動の活発化と災害対応力の向上のため、自主防災活動アドバイザー派遣、自主防災組織の研修会、地域防災講座インストラクター養成を行った。

自主防災活動アドバイザー派遣では、自主防災活動に疑問や悩みを持つ自主防災会や町内会として、長岡市内の5地域を選定し、当機構職員を派遣して（各地域に複数回）、地域の課題や活動のレベルに合わせた助言を行ったり、住民主体のワークショップ等を行い、地域防災上の課題解決に一定の成果を上げた。

自主防災組織の研修会は、自主防災活動事例を紹介・発表する場を設け、それぞれの活動に活かしてもらうため、平成24年度より長岡市及び中越市民防災安全士会と共催で開催しているものであり、以下のとおり、秋・春の2回開催し、多数の参加者を得て、有意義な意見交換が行われた。

○第9回防災活動事例発表会（自主防災会長初任者研修会）

平成29年10月29日 参加者約160名 長岡市消防本部にて

○第10回防災活動事例発表会

平成30年3月3日 参加者約330名 リリックホールにて

地域防災講座インストラクター養成は、中越市民防災安全大学卒業生（中越市民防災安全士）など防災に関して一定の知識を有する者を対象とした専門的な研修を実施することで、地域や学校において指導者の役割を担える「地域防災講座インストラクター」を養成するものであり、平成29年度は防災ゲーム「クロスロード」ができる講師として、16名のインストラクターが誕生した。



第9回防災活動事例発表会（自主防災会長初任者研修会）

【3】避難所運営体制連絡会企画運営委託業務（新潟市からの委託業務）

災害時の避難所運営を円滑に行うためには、地域住民（自主防災組織、コミュニティ協議会等）、施設管理者、行政職員の三者の協力が不可欠であり、事前に運営方法について三者で共通認識を持つこと、顔の見える協力体制を築いておくことが重要となる。

本業務は、三者が顔を合わせる検討会を開催し、地域住民主体の避難所運営体制を築くとともに、避難所で起こりうる問題を解決する能力を向上させ、運営体制を強化することを目的に実施した。対象避難所は、新潟市内の中央区、西区を除く6区的全避難所（269避難所）であり、区ごとにワークショップ形式の検討会を開催し、参加者が避難所運営の基本的考え方を確認するとともに、これまで作成してきた避難所のレイアウトを再点検するための模擬訓練を実施した。



新潟市避難所運営体制連絡会（東区）

【4】わが家の防災力向上事業（新潟市東区からの委託業務）

本業務は、災害から自分や家族の命を守るために、地域の防災力の向上及び防災活動の持続性を高めていくことを目的に、住民満足度の高い防災講座を実施した。

受講対象者は、新潟市東区内の自主防災組織等の団体の構成員であり、開催地域の要望に応じて「地震編」「水害編」「避難所運営編」の3つのメニューを用意し、当機構職員が講師をつとめ、合計12回、開催した。

【5】南区総合防災訓練及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区からの委託業務）

本業務は、災害に強いまちづくりを目指し、災害時に自助・共助による安心安全なまちづくりを進めるため、地域防災の担い手として白根高校の高校生を防災ボランティアとして育成するとともに、総合防災訓練を通して地域全体の防災意識の向上を図ることを目的に実施した。

南区総合防災訓練（平成29年7月9日及び10月1日）において、計5地区の自主防災訓練に当機構職員を派遣し、地域防災に関する講演及び防災グッズ作成等の指導を行った。また、白根高校において高校生の各学年を対象に、防災学習（防災ボランティア講座）を実施するとともに、防災訓練当日における避難所開設、避難所設営、避難者受入補助、段ボールベット作成などの指導を行った。



新潟市南区総合防災訓練での講演

【6】IoT を活用した地域防災システムに関する実証実験及び検証業務

(国立研究開発法人防災科学技術研究所からの委託業務)

本業務は、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研という）が遂行している「「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ」の構築に向けて、モデル地域において IoT を活用した地域防災システムを開発・検証するための実証実験等を行うものであり、社会実装に向けた課題及び可能性を見極めるとともに、モデル地域に対して、気象ハブの機能を自立的かつ継続的に発揮するためのあり方を検討した。

具体的には、「①消雪パイプの稼働のために設置されている降雪センサーに通信機能を付加し、センサーの情報をクラウド上に一括集約するシステム構築の実証実験」、「②民間気象会社と連携して路面温度予測を道路管理者等に提供する実証実験」、「③市街地を流れる河川の水位を検知し、住民に周知するまでの一連のシステムを構築するとともに、地域住民、専門家、技術者が協働で課題解決を導き出す実証実験」の3つの実証実験について、コーディネート（企画・調整・マネジメント）を行った。



水害被災地域におけるワークショップ

ムラビト・デザインセンター

平成 29 年度事業報告

1. 地域復興人材育成事業報告書人材育成事業（基金事業）

【0】総括

【1】首都圏プラットフォーム事業

- (1) 日本全国地域仕掛け人市の実施
- (2) 大学生と実施する都内の「青空市ヤッチャバ」での出店
- (3) にいがたイナカレッジ web リニューアル

【2-1】インターンシッププログラム 長期プログラム

【2-2】インターンシッププログラム 新たなインターンシッププログラムの開発

- (1) チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト・ギャザリングへの参加
- (2) 他地域での取り組みへの視察研修

【2-3】インターンシッププログラム 新たなインターンシッププログラムの試行的実施

- (1) 事務局インターンの試行的実施
- (2) 短期通い型インターンの試行的実施（インターン実施先：井口製材所インターン）

【2-4】インターンシッププログラム ネクストイナカレッジ検討委員会の開催

【3】にいがたイナカレッジ地域づくり研修会の実施

【4】新人研修について

2. 地域づくり活動支援業務（その他）

【1】移住者受入トップランナー支援事業（新潟県新潟暮らし推進課）

【2】移住相談員設置業務（新潟県新潟暮らし推進課）

【3】にいがたライフスタイルカフェ（新潟県新潟暮らし推進課）

【4】地域の魅力発信セミナー（新潟県新潟暮らし推進課）

【5】地域おこし協力隊コーディネーター業務（新発田市）

【6】「(仮称)片品村交流連携拠点」開業支援業務（群馬県片品村）

【7】新潟県地域おこし協力隊初任者研修業務（新潟県地域政策課）

【8】新潟県地域おこし協力隊定住サポート研修業務（新潟県地域政策課）

【9】糸魚川市駅北復興まちづくり中間支援業務（糸魚川市）

【10】中山間地域直接支払交付金 小千谷市広域集落協定事務局業務（小千谷市）

【11】柏崎市移住促進セミナー実施支援業務（柏崎市）

【12】学生インターンシップ事業（独自事業）

1. 地域復興人材育成事業報告書人材育成事業（基金事業）

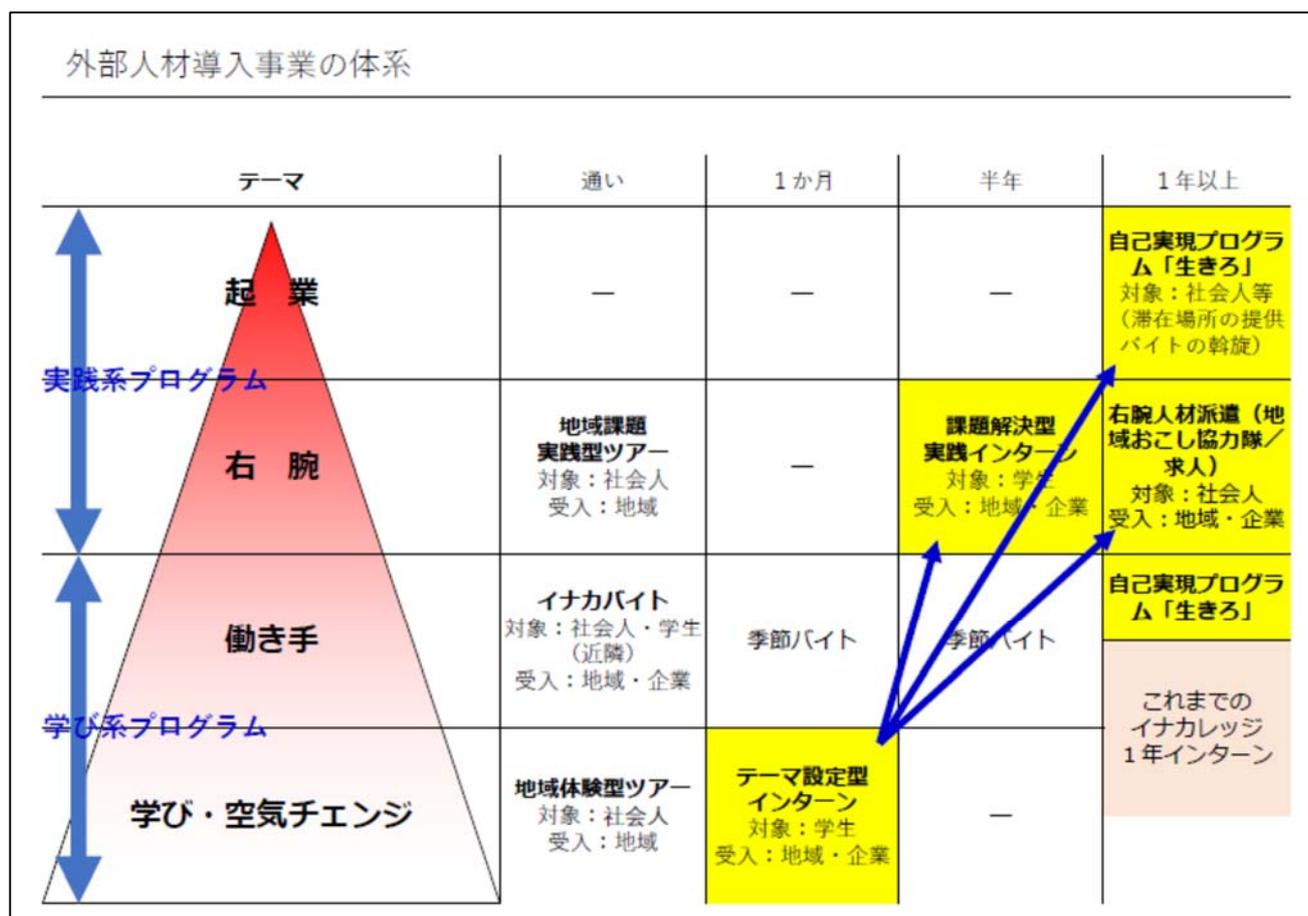
【0】総括

本年度の事業では、中核的な取り組みであった「にいがたイナカレッジ」のインターンシップ事業のこれまでの成果と課題を踏まえて、同事業終了後のイナカレッジの方向性を作り、準備することが重要な柱であった。

今後の方向性として、年度当初のことを構想していた。それは、「地域の暮らしを学ぶインターン」から、「地域で働き、仕事を受け継ぐ」ということをコンセプトに置くことであった。それは、これまで培ってきたよそ者が地域に溶けこむためのコーディネートのノウハウを生かすことであり、地域のより深刻化人手不足の状況、都市部からの多様なプログラムの需要がある。

そのことを踏まえて、本年度の7月～9月にかけ「ネクストイナカレッジ検討委員会」を開催し外部有識者からも一緒に知恵を絞っていただいた、その委員会のまとめを踏まえて再度内部で検討する中で次年度以降の構想を練り上げた。

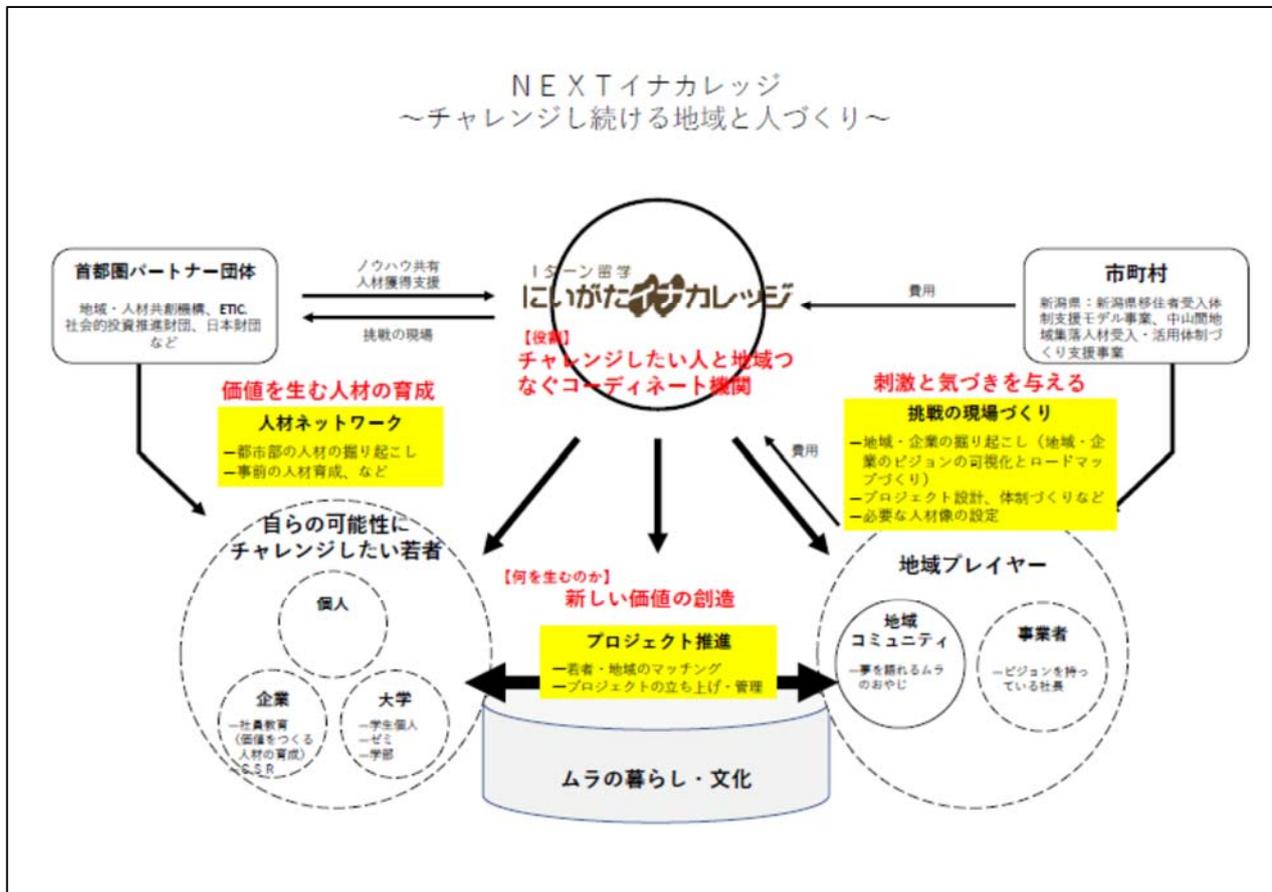
下の資料は、検討委員会で整理した「外部人材導入事業の体系」である。委員会で特に重要視されたのが、図左のテーマの三角形の図の上部「実践系プログラム（企業、右腕）」である。



これまでの「学び」をコンセプトとしてやってきた「インターン」、年度当初構想していた「人材不足を補う」ことをコンセプトとして考えた「働き手（バイト、人材派遣）」だけでは、地域は持

たないということである。さらに言えば、実務系プログラムで「新しい価値」提供ができる、事業を地域の中で生み出さないと、「インターン」としても魅力的なプログラム提供ができないし、「働き手」としても、仕事がなくなって来ることが指摘された。

そのことから、イナカレッジとしてこれからの地域の中でどのような役割を担うかを考えた際に整理したのが下図である。



イナカレッジの役割として「チャレンジしたい人と地域をつなぐコーディネート機関」と位置付けた。つまり「新しい価値」づくりをしていこうという事業体や地域コミュニティと、「自らの可能性にチャレンジしたい若者」をつなぎ、地域の中で具体的な「新しい価値創造」の「プロジェクト」をつくることである。

そのことから、次年度以降の事業として、ハードルの低い「短期のテーマ設定型インターン」は残しながら、地域で新しい取り組みをはじめめる事業体や地域コミュニティの「右腕人材」となる人材を派遣する「右腕人材派遣プログラム」や、自ら価値を生む起業を目指す「自己実現プログラム」を核としていくことを定めた。

この考え方と連動する形で「2-2. インターンシッププログラム 新たなインターンシッププログラムの開発」では、中小企業の新しいプロジェクトを支援するインターンシップの取り組みを全国でもいち早く始め、現在年間30社以上でインターンシップを行っているNPO法人G-netへ2泊3日の視察研修を行い、「3. にいがたイナカレッジ地域づくり研修会の実施」では、今後2年間ネクストイナカレッジ構想の実現をサポートしていただくことになった石川県七尾市の株式会社御祓川の森山奈美さんに小千谷でご講演をいただく場を作った。

また、新しい取り組みをする事業体と次年度実施するプロジェクトを開発するために「2-3. インターンシッププログラム 新たなインターンシッププログラムの試行的実施」では、「事務局インターンの試行的実施」としてそのプロジェクトづくり自体を自らの可能性にチャレンジしたい若者に参加の場を開き、共にプロジェクトづくりを行ってもらったり、「短期通い型インターンの試行的実施」として、試行的に短期で日本一の古材屋である「井口製材所」のプロジェクト、通い型で実施するという試行を行った。

これらの検討と実践を本年度中にいくつも実施できたことによって、30年度イナカレッジの新しい取り組みに伴走支援していただくプログラムに採択をしていただくなど、ネクストイナカレッジ構想へ大きく前進することができた。

【1】首都圏プラットフォーム事業

(1) 日本全国地域仕掛け人市の実施

首都圏に向けた情報発信は、一団体がいくら発信しても限界があり、同じような課題認識を持つ全国の地域団体が連携することでより発信力が高まる。地域をPRし人材をマッチングする場として、NPO法人etic.が主催する「地域仕掛け人市」の開催に協力し、にいがたイナカレッジとしてのブース出展も行った。

当日は地域でのインターンに興味がある学生や社会人、同じように地域での担い手育成に取り組む事業者たちが300人以上集まった。ブースではにいがたイナカレッジに興味を持った方への活動の説明や意見交換などを行った。なお、ブースには30名以上の訪問者がおり、その後新潟訪問につながった学生とも出会うことができた。

日時：9月30日（土）13:00-19:00

場所：EBiS303（恵比寿）





(2) 大学生と実施する都内の「青空市ヤッチャバ」での出店

首都圏の若者・大学生と地域のより深い関わりのきっかけを作っていくには、インターンシップ等以外にも様々な関わり方の選択肢を作っていくことが重要である。その試行のひとつとして、地域の農産物などを販売し活動を発信する都内でのマルシェ「青空市ヤッチャバ」への出店を実施した。都内の大学生と企画し、当日の販売も一緒にすることで、都内にいながら主体的に地域に関わるきっかけづくりとなるよう設計した。イナカレッジとして関わる地域の方に販売したいものを募り、季節に合った野菜や加工品を地域名のPRと共に販売する形をとった。

<実施記録>

- 4月21日（金）第一回企画会議（学生5名参加）
- 5月14日（日）第二回企画会議（学生2名参加）
- 6月17日（土）第一回ヤッチャバ出店（学生2名参加）
- 7月22日（土）第二回ヤッチャバ出店（学生2名参加）

<販売した物>

- 長岡市：ミズナ、いとうり、いちごジャム、神楽南蛮みそ・甘辛煮
- 小千谷市：米、漬物、もち、米粉菓子、切り干し大根、よもぎ菓子



(3) <地域案内ツアー>

「地域のシゴトを知りたい」「地域の人に会ってみたい」などの要望に応じ、年間を通じて1日単位で首都圏の方に向けた案内・ツアーを行った。要望によってはテーマを決め、それに合った案内先を見繕い、人や場所、取り組みの紹介も行った。

・ 第一回

【日時】 6月2～3日

【参加者名】 松木太（東京農業大学3年）

【案内先】 長岡市木沢集落・宮内地域など

・ 第二回

【日時】 7月17日

【参加者名】 石井直記、石井あゆみ（岐阜在住）

【案内先】 井口製材所（長岡市越路地域）

・ 第三回

【日時】 9月24日～25日

【参加者名】 黛悠太（会社員、東京在住）

【案内先】 井口製材所（越路地域）、長岡駅周辺

・ 第四回

【日時】 10月2日～3日

【参加者名】 田中輝美（島根在住、編集者）、安部晃司（東京大学2年）、大脇正人（会社員、東京在住）

【案内先】 十日町市（千年の市じろばた、ギルドハウスなど）、長岡駅周辺（コモンリビング、震災アーカイブセンターきおくみらい）

・ 第五回

【日時】 11月25日

【参加者名】 児嶋由香（神田外語大学4年）、畑中真美子（大学生、千葉在住）

【案内先】 井口製材所（長岡市越路町）、小千谷市岩沢地域（農家レストラン「山紫」、農家民宿「へんどん」）、長岡市川口地域（よらん会）

・ 第六回

【日時】 11月19日～25日

【参加者名】 児嶋由香（神田外語大学4年）

【案内先】 十日町市、長岡市小国地域、川口地域、栃尾地域（テーマに「人生を考えるライティング」を掲げる）

・ 第七回

【日時】 3月24～25日

【参加者名】 森瑞絵（保育士、横浜在住）

【案内先】 小千谷市、津南町、十日町市



(4) にいがたイナカレッジ web リニューアル

にいがたイナカレッジはインターンシッププログラムやイベントの参加者の募集の手段として主にウェブサイトを活用している。実際のインターンシッププログラムの参加者もウェブサイトを見て来た者が半数以上である。今回、2013年に作成したウェブサイト、5年間のあいだに変わった様々な状況に合わせて、リニューアルすることとした。企画・制作・デザイン新潟市にある株式会社クーネルワークにお願いし、より若者にしっかりと届くサイトとなるよう工夫した。

<旧サイト>



<新サイト>

※プロジェクト・イベント募集が開始していないので参考の画像となっている。



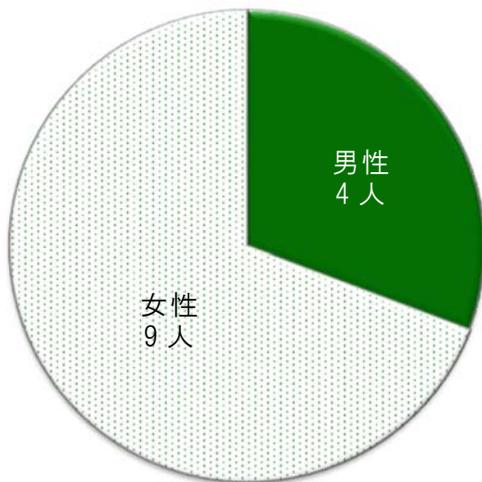
【2-1】インターンシッププログラム 長期プログラム

(1) 平成 29 年度長期インターンへの参加申込状況

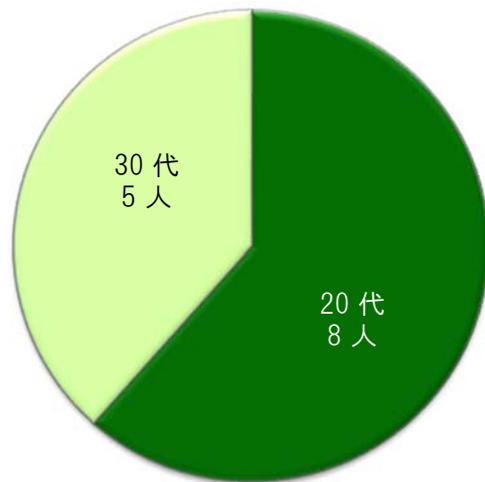
平成 29 年度の 1 年間の長期プログラムは 8 名の定員に対し、13 人からの参加申込が見られた。申込者の属性は以下のとおりである。

(平成 29 年度長期プログラム申込者の属性)

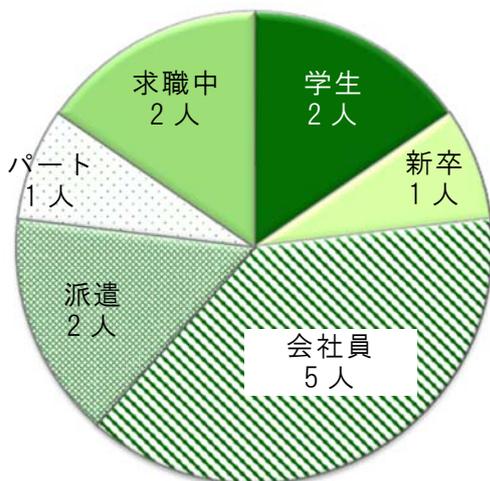
性別



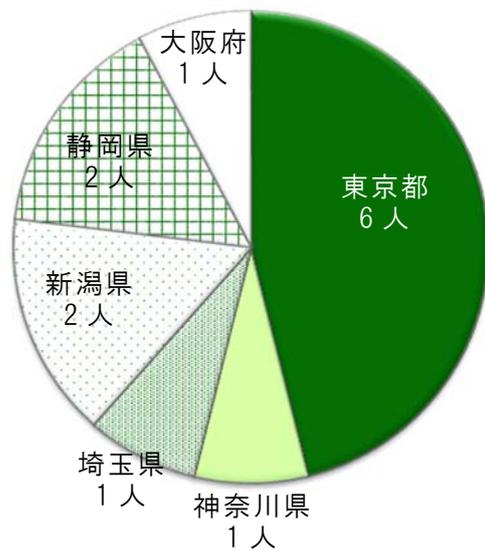
年齢



職業



住まい



(2) 平成 29 年度長期インターンシップの概要

13 名の参加申込の中から書類選考やマッチングを経て、最終的には 6 名の参加者が決定し、6 地域で長期インターンを実施した。

【長期プログラム 6 地域】

受入地域	研修先	研修内容
柏崎市 (高柳町)	荻ノ島地域協議会	村仕事の手伝い（田・畑など）、大学生などの外部人材の受入コーディネート、茅葺の吹き替え作業、その他各種地域づくり活動のサポート、など。
十日町市 (川西)	千年の市じろばた	じろばた（直売所・加工所・食堂）のお手伝い、出荷農家のお手伝い、各種行事・イベント等のお手伝い、山間地集落での米づくり、など
十日町市 (松代)	茶もっこ	商店街イベントの企画・運営、空き家を活用した期間限定の店舗運営、オーストラリアとの交流事業、手すき和紙の手伝い・商品企画、など
十日町市 (松代)	茶もっこ／café「澁い」	古民家カフェの運営サポート、各地域のイベントでの出張カフェ、商店街イベントの企画・運営、など
十日町市	雪の日舎	稲刈り、直売所・道の駅等への出荷・販売、商品パッケージ等のデザイン開発、雪の日舎を P R するキャラクター開発、など
小千谷市	Mt. ファームわかとち	米づくり、米の P R 冊子づくり、農産加工品の販促ツールの作成、地域に蔵のリノベーション（Bar づくり）、など



(3) 集合研修の実施

イナカレッジ事務局では、6名のインターン生に対して、定期的に一堂に介しインターンのプログラムや定住に向けた研修、お互いのインターン実施地域同士の交流などを目的に、集合研修を下記のとおり開催した。

日時	開催地域	概要
6月13・14日	十日町市川西 (千年の市じろばた)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン生同士の自己紹介 ・千年の市じろばたの紹介 ・講義「地域に溶け込むコツ」など
8月22・23日	小千谷市若栃 (Mt. ファームわかとち)	<ul style="list-style-type: none"> ・若栃集落案内 ・若栃プロジェクトの紹介 ・各プログラムの状況報告 ・蔵のリノベーション手伝い、など
10月31日 11月1日	十日町市松代 (茶もっこ)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域のインターンプログラムの状況報告 ・遊歩道整備の手伝い、など
2月1・2日	柏崎市高柳町 (荻ノ島地域協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の活動の振り返り（モチベーション曲線づくりを通じた振り返り） ・講義「定住後の暮らしと仕事」 ・将来のありたい姿（将来像）とそれに向けて残りのインターン期間中にやるべきことの整理、など



(4) インターン生生活動報告会の開催

インターン生としての1年の活動を対外的に発表する場として、下記のとおり活動報告会を開催した。また平成29年度は中越大震災復興基金の節目の年であることから、これまでイナカレッジのインターンに参加したOB・OG、受入先および関係者の方々にも声をかけ、これまでのイナカレッジの活動を振り返る会として実施した。

日 時：2018年3月25日(日)14:00～17:00

場 所：長岡震災アーカイブセンター『きおくみらい』

参加者：57名

プログラム：インターン生生活動報告会『NEXT STAGE』

【第一部】2017年度インターン生生活動報告

【第二部】イナカレッジのNEXT STAGE

- ・イナカレッジの6年間は地域や若者にどのような影響を与え、どのような役割を果たしたのか。
- ・それを踏まえて、今後のイナカレッジの進む道。



(5) 長期プログラム修了後の参加者の動向

平成 29 年度長期プログラム（1 年）には 6 名の参加者が見られ、研修修了後は下表のとおりである。

	年齢	性別	住まい	職業	修了後
1	20 代	男	大阪府	新卒	定住) イナカフリーランス
2	20 代	女	東京都	派遣	東京に戻って求職
3	30 代	女	東京都	会社員	定住) イナカフリーランス
4	20 代	女	東京都	会社員	定住) イナカフリーランス
5	30 代	女	東京都	会社員	定住) イナカフリーランス
6	20 代	男	東京都	学生	東京に戻って復学

(6) 平成 29 年度の長期インターンシッププログラムのまとめ

平成 29 年度の長期インターンシッププログラムとしては、8 名を定員に募集を行った結果、13 名の申込が見られた。しかし、書類選考やマッチング等を経た結果、6 名の参加決定にとどまった。

インターン修了後は、インターン生 6 名のうち 4 名がお世話になった地域に定住し、いずれも 1 年間活動するなかで築いた関係性のなか仕事を見つけ、このような地域にある仕事を組み合わせて生計を立てるイナカフリーランスとして地域で暮らすこととなった。将来的にはカフェを開業したい、ものづくりで生計を立てたいなどの夢を抱いているため、正規で雇用されるのではなく、最低限暮らしていくための収入を得つつ、夢を実現するために自分に投資する時間を確保するためにイナカフリーランスという選択を行っている。

残りの 2 名は東京に戻り求職、大学に休学したが、いずれも今後も何からの形でお世話になった地域との関係性を持ち続けたいと言う。

これまでのイナカレッジインターンシップの参加状況

	参加者	定住者
平成 24 年度	4 人	
平成 25 年度	4 人	
平成 26 年度	8 人	7 人
平成 27 年度	8 人	6 人
平成 28 年度	5 人	5 人
平成 29 年度	6 人	4 人
合計	35 人	22 人

(7)「集落住民向け工藤京平君インターンシップ報告会」

インターン生工藤京平君が、主に生活面や農業、集落行事、農家民宿「おっこの木」でお世話になった集落のお母さん方、お父さん方向けに、インターン生自身も改装を手伝った集落内の蔵で報告会を行った。

【日時】2018年3月14日18:00~20:00

【場所】民宿「おっこの木」隣の蔵

【参加人数】13名



・「社内・活動関係者向け工藤京平君インターンシップ報告会」

インターン生工藤京平君の受け入れ先であった株式会社「Mt.ファームわかとち」社員の方、社長、プロジェクトに関わった役所の方等に向けた報告会を行った。作成した冊子などの成果物のお披露目に加え、工藤君自身が学んだこと・得たものなどを発表した。

【日時】2018年3月15日15:00~18:00

【場所】おぢや震災ミュージアム「そなえ館」内会議室

【参加人数】17名





【2-2】インターンシッププログラム

新たなインターンシッププログラムの開発

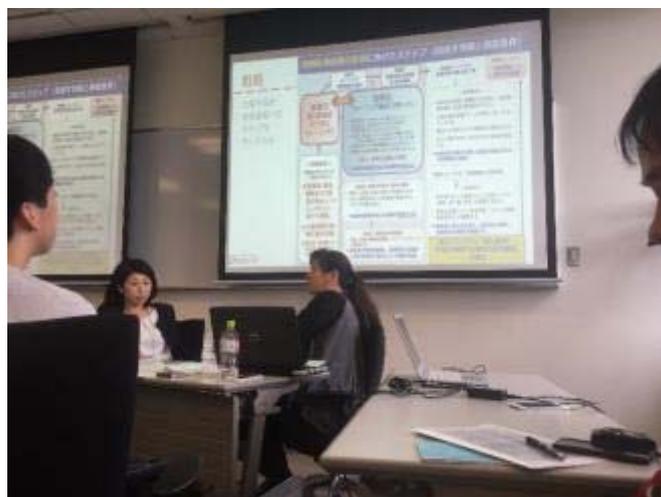
(1) チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト・ギャザリングへの参加

次世代の担い手づくりや仕事づくりを全国の地域で仕掛けている人たちをつなぐチャレンジ・コミュニティ・プロジェクトの半年に一度の合同研修へ参加した。当日はグループに分かれてお互いの活動を発表したり意見交換をしたり、先進的なインターンシップの取り組みを成功させた事例の話の話を聞いたり、ロールプレイング形式でヒアリングを行ったりした。全国で同じような取り組みを行う仲間とつながることで、様々な情報を共有することができた。

日時：5月13日（土）10:30-18:00

5月14日（日）10:00-12:00

場所：レンタルスペース EBiS303 (恵比寿)



(2) 他地域での取り組みへの視察研修

全国でもいち早くインターンシップの取り組みを始め、現在年間 30 社以上でインターンシップを行っている NPO 法人 G-net へ 2 泊 3 日の視察研修に参加した。なお、この研修は NPO 法人 etic.が企画・運営しているもの (BRIDGE ローカルリーダープログラム) で、研修の学びをしっかりと自団体に活かせるよう、都内での事前研修と事後研修も含まれたものである。

現地視察では、G-net の事務所にて講義を聞いたり、インターンシップを行っている地域の地場産業を守る会社を訪れインターンシップの成果を話していただいたり、インターン生が作ったものなどを見たりした。

【事前研修】

日時：10月31日(火) 13:00-18:00

場所：NPO 法人 etic.事務所(渋谷)

【視察研修】

日時：11月23日(木) -25日(土)

場所：NPO 法人 G-net 事務所ほか (岐阜県岐阜市)

【事後研修】

日時：2月25日(日) 10:00-17:00

場所：Nagatacho GRID (永田町)



【2-3】インターンシッププログラム

新たなインターンシッププログラムの試行的実施

(1) 事務局インターンの試行的実施

イナカレッジが作成した地域・地域の団体でのインターンシッププログラムへ参加する形ではなく、地域や企業の人と関係を作り、現状を聞き、インターンシッププログラムを作る段階と一緒にやってもらうのがこの事務局インターンである。0からプログラムを作ったりイナカレッジスタッフと一緒に動いたりすることが、学生にとっては大きな学びとなり、インターン生を受け入れたことがない地域の人にとっては学生とコミュニケーションをとるイメージが湧いたりといった効果を狙い、学生の春休み期間を使って実施した。

約2か月間、これからインターン生の受け入れを考えている地域の事業者や団体にヒアリングに行き、団体の現状をつかむべくアンケート調査をしたり、団体の現状や今後を紙に整理し、プロジェクトを作ってみたりといったことを行った。

期間：2018年2月1日～3月31日

参加者：岡本恵佳（長岡造形大学2年）/仲島光希（新潟大学2年）



(2) 短期通い型インターンの試行的実施（インターン実施先：井口製材所インターン）

過去6年間のイナカレッジのプログラムの多くは集落などの地域で行ってきたが、今後より手厚くしっかりと地域を支えていくには企業・事業者にとモノ・若者を入れ共に課題を解決していくことが大切になっていくことが考えられる。そのトライアルとして、長岡市越路町にある古材屋「井口製材所」で、地元の大学生が通いながらプロジェクトを行ってもらう企画を実施した。

1か月間、社長や古材を利用している店舗にインタビューに行き、解体現場や倉庫も見学しながら、古材の魅力を大学生を中心とした若い人に知ってもらえるような簡単なフライヤーを作成した。

期間：2018年3月1日～31日（1か月間）

参加者：荒梅智美（長岡造形大学1年）/石野華（長岡造形大学2年）

【1か月の大まかなスケジュール】

- 1 週目：専務ヒアリング、蔵見学、社長インタビュー、アイデア出し
- 2 週目：発信物作成会議、古材利用の店見学
- 3 週目：解体現場見学、社長インタビューまとめ、発信物たたき作成
- 4 週目：発信物のブラッシュアップ、レイアウトデザイン作成

○井口製材所について

創業 80 年以上の材木屋。10 年以上前から、古民家を解体した時に出る梁や柱、古道具を販売する古材事業を始める。日本一の在庫量を誇る井口製材所は、近年様々なメディアで紹介され、東京から飲食店オーナーなども古材を購入しにやってくるようになっている。

新潟県内の貴重な古材を処分される前に救い出し、その魅力を発信している企業として今後も続いていくために必要なことをインターンプロジェクト等を通じて試みる必要がある。



【2-4】インターンシッププログラム

ネクストイナカレッジ検討委員会の開催

(0) 検討委員会の人選、進め方について

イナカレッジのインターンシップ事業についてこれまで伴走し、様々なアドバイスをいただいていた明治大学農学部の小田切徳美教授より検討委員会の進め方等についてアドバイスいただいた。その結果が、(1) 委員会の全体概要。

○日時 6月12日 ○場所 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

(1) 委員会全体概要

■目的

イナカレッジの維持・存続のために地域（民間）ができることを考える。

■内容

○全体のゴール

- ①地方（中山間地域）の担い手となる人材の誘致・活用事業のモデルを構築すること。

②具体的な市町村における次年度以降の事業のモデルを構築すること。

○第1回 7月11日

イナカレッジの現状、地域のニーズ、都市部の若者の意向など、今後の事業展開に関する内部環境・外部環境の情報をすべてテーブルに載せて共有します。またその中から、今後の事業展開に関するポイントを整理したいと思います。

○第2回 8月4日

事業モデル、各市町村における事業継続のモデルのたたき台を示し、各委員会からの意見を頂戴し、ブラッシュアップをする。

○第3回 9月5日

第2回意向ブラッシュアップしたモデルを発表、検討する。

■委員一覧

地域	春日 俊雄	柏崎市 荻ノ島地域協議会 会長
	山本 浩史	十日町市 NPO 法人地域おこし 代表理事
	細金 剛	小千谷市 わかとち未来会議 代表
	山口 壽道	長岡市 公益財団法人山の暮らし再生機構 理事長
学識 (新潟)	上村 靖司	長岡技術科学大学 教授
	高野 裕	株式会社パートナーズプロジェクト 代表取締役
学識 (東京)	関司 直也	法政大学 現代福祉学部 教授
	伊藤 淳司	NPO 法人 ETIC. マネージャーイノベーション事業部マネージャー
	瀬沼 希望	NPO 法人 ETIC.
	青柳 光昌	一般財団法人社会的投資推進財団 代表理事

(2) 委員会実施概要

○第1回委員会 7月11日(火) 15:00~17:00

(1) 検討委員会の趣旨説明・自己紹介【10分】

(2) イナカレッジの現状説明【30分】

(3) 意見交換：地域の人材ニーズと若者の働き方の意向【80分】

→地域委員の皆さんから、地域の状況、これからの地域の持続に向けての人材活用の意向についてお話いただいた。

→有識者委員の皆さん（特に東京側）からは、これからの地方への人材誘導・活用に関して、各団体の取り組みや、そこから見えてくる現在の若者の状況（働き方、生き方の意向）、他地域の事例等情報提供いただいた。

(4) まとめ【15分】

○第2回委員会 8月4日（金）15:00～17:00

(1) 本日の委員会の流れ説明 【5分】

(2) 自己紹介 【5分】

(3) 第1回委員会のまとめとイナカレッジの今後の方向性説明 【10分】

→事務局から、イナカレッジが誰にどんな価値を提供するのか、前回の委員会の意見を踏まえて報告した。

(4) 都市部人材のニーズ・動向について【60分】

→地方に活躍の場を求める人材や都市部企業、大学がいま地域に何を求めているのかについてETIC.伊藤さんよりお話いただき、意見交換した。

(5) 地域での議論の状況報告【30分】

→各地域委員等と、地域でどのようなプログラムを作ることができるのか検討した状況について、報告・意見交換をした。

(6) 次回に向けてのまとめ【10分】

○第3回委員会 9月5日（火）15:00～17:00

(1) 本日の委員会の流れ説明

(2) これまでの検討委員会での議論まとめ

- ・イナカレッジの事業の考え方・誰にどんな価値を（第1回）
- ・各ターゲットに対する事業モデルの整理（第2回）
- ・事業案の提示（第2回の宿題）

(3) 意見交換

- ・事業案の提示に対して、各委員のみなさんからご意見、どの部分で一緒にできるかなど意見交換した。

(3) 委員会の議論まとめ

○イナカレッジの現状整理

5年間実施してきたイナカレッジインターンシップ事業のポイント、現在感じているインターン参加側（都市部）のニーズ、新潟県内自治体のニーズ、地域のニーズを整理。それらを元に現時点での、今後のイナカレッジの方向性について示した。それは「教える×学ぶ」というイナカレッジが基本としてきた地域住民とインターン生の関係をより深化し、地域の仕事の担い手をつくることをより意識した方向性である。

インターン留学
にいがたイナカレッジ

～ムラに学ぶ、人に学ぶ、自分らしいライフスタイルを実現する～

地域の暮らし・仕事を学ぶ
インターン

“教える”×“学ぶ”の関係性

- ◆インターン生が主体的に地域の暮らしや仕事を学び、自分らしい暮らしを実現するファーストステップ。
- ◆地域で前向きに暮らし・働くインターン生の姿に地域が引っ張られる。
- ◆その結果地域とインターン生の共感による人間関係が生まれ、定住者や地域に関わる人たちが増えた。

都市部の
ニーズ

◆ここ最近、今までのやり方では、イナカレッジの1年インターンに人が集まらなくなってきた。

→1年の長期プログラムだけでなく、週末プログラムとか、地域と多様な関わりができるプログラムがほしい。

→地域団体や集落の受入だけでなく、事業者の受け入れやプロジェクト型など、プログラムとしてのバリエーションがほしい。

新潟県の ニーズ

- ◆県内の市町村にイナカレッジの外部人材受入のノウハウを広めてほしい。

【課題認識】

- ・十日町市など、外部人材の受入に積極的に取り組む自治体が増えてきているものの、全く進んでいない空白地帯を何とかしたい！
 - ・それには、イナカレッジのノウハウが必要。
- ただし基金のように、県が直接イナカレッジを補助するスキームは出来ない。
- 県の委託業務（H29年度：5本／約1,250万円）。
- 市町村と連携してやってほしい。そのための市町村に対するイナカレッジのPR等のサポートをする。

地域の 状況

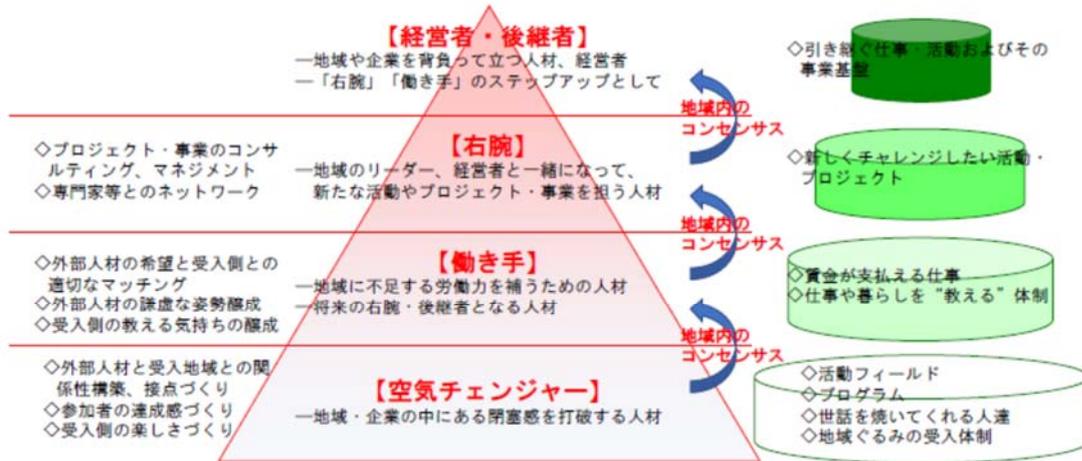
- ◆担い手がなくて、いよいよ地域の中で仕事が溢れてきた。

- NEXTイナカレッジミーティングでは、具体的なイナカ仕事をピックアップ。
- 担い手と言っても、求めるタイプがいくつかある。
- ex) 23名の女性が運営する直売所・食堂・加工施設では、「経営に疲れた。お婆達を雇って店を運営してくれる人が欲しい」
- このほか、酒蔵の経営者、製材所の後継ぎなどの相談も。

地域で求められる人材像

《コーディネートのポイント》 《地域・事業者が求める人材像》

《受入にあたって必要な条件》



1ターン留学
にいがたイナカレッジ

これからの地域を担う人材の育成
 “ネクスト”イナカレッジ構想

暮らしを学ぶ土台の上に

地域で働き
 仕事を受け継ぐ

地域の暮らしを学ぶ
 インターン

「教える」×「学ぶ」の関係性

- ◆インターン生が主体的に地域の暮らしを学び、自分らしい暮らしを実現するファーストステップ。
- ◆地域で前向きに暮らし、働くインターン生の姿に地域が引っ張られる。
- ◆その結果地域とインターン生の共感による人間関係が生まれる

ネクストへの動機

- <地域に対し>
 - ◆後継者を作っていきたいという地域の想い
 - ◆地域の仕事への本格的な担い手不足
 - ◆地域から仕事は色々出せるという声も
- <都市部に対し>
 - ◆多様なプログラムの提供(期間・種類など)
- <事業運営全般>
 - ◆事業を継続していくための資金をどうするか

『“教える”×“学ぶ”の関係性』の進化

→地域の仕事を多様な担い手で共有し、次の担い手を作る。

- ◆地域の資金を支払うことができる仕事をピックアップし、インターシップのプログラムに組み込む。
- ◆インターン生としては、プログラムの中で地域で暮らしていくための経験や技術をより習得しやすくする。
- ◆地域としては、地域を支える仕事を担える人材を育成することができ、場合によっては後継者を作ることができる。

イナカレッジの自己分析（内部環境）

強み

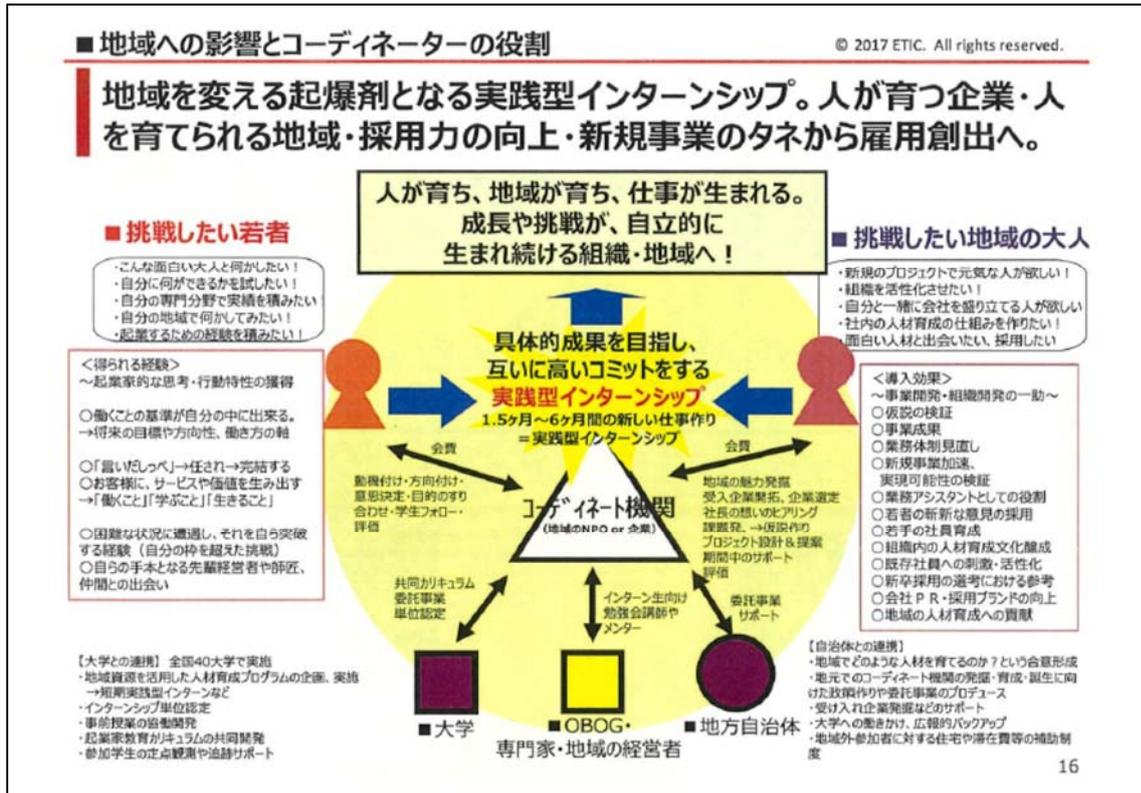
- ◆地域・集落（主に中山間地域）との信頼関係が築けている。
- ◆「空気チェンジャー」「働き手」定着のノウハウがある。
（定着率・満足度の高さ）
- ◆いなか求人の情報が入ってきやすい。
- ◆新潟県、一部市町村など行政とのつながりが強い。
（それなりの評価をいただいている）

弱み

- ◆地元企業とのつながりが薄い。
- ◆人材導入+ α （コンサル、販路拡大等）のノウハウがない。→企業に対してのストロングポイント、どこを突けばお金になるのか分からない。
- ◆「右腕」「後継者・経営者」導入の経験・ノウハウがない。（後継者になった実績はあるが、あくまでも結果論で成り立っている）
- ◆これまでは運動的な側面（活動）が強く、ビジネス（事業）としての視点（どこからどうお金を取るか等）が脆弱。

○各委員会の情報提供（抜粋）

（伊藤委員）ETIC. が運営するチャレンジコミュニティプロジェクトに参加している全国の団体がインターンシップ事業など、挑戦したい若者と、挑戦したい地域の大人をどのようにマッチングさせて地域に新しい価値創造を行っているのか、その内容と事業モデルについて紹介していただいた。



地域で新たな「仕事」を創出する「右腕」型人材の発掘・育成
・活用の仕組みを実現する「まちの人事部」とは。



①短期実践型インターンシップ

大学生が地域企業の社長と二人三脚で1か月、地域に住み込みでプロジェクトに参画。自治体または地域負担モデルが主流。ベテラン地域は出展料25万円、新人地域はコーディネーター養成研修も兼ねて180万円から。

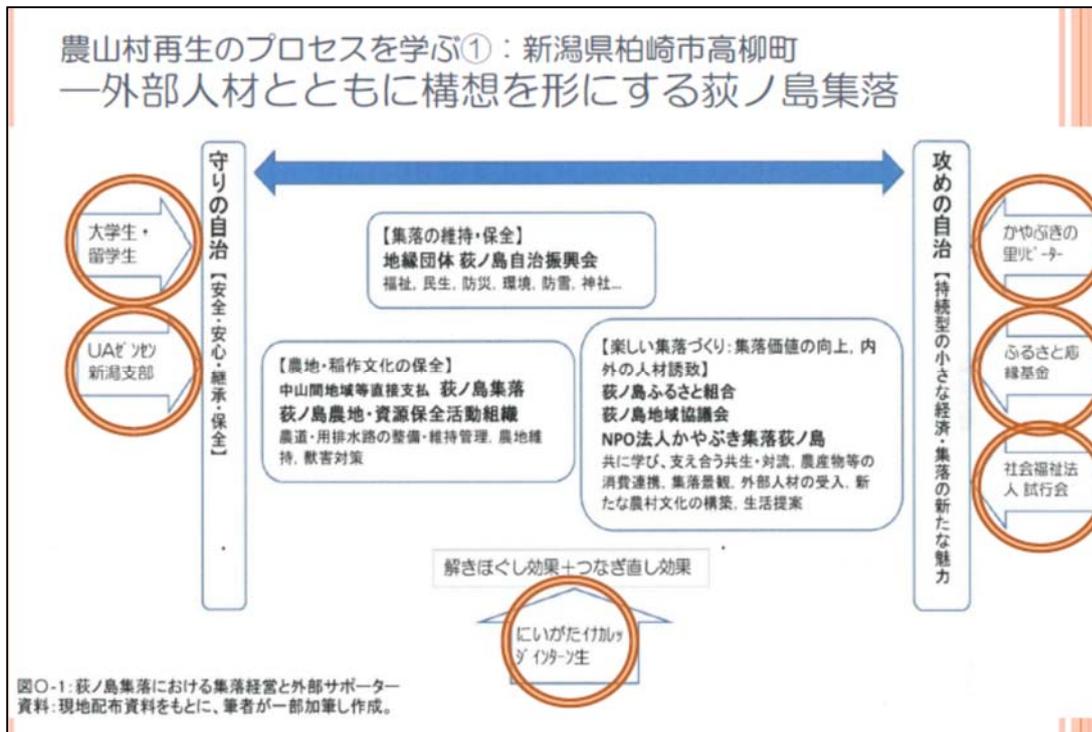
②長期実践型インターンシップ

大学生が、半年以上、地域企業の経営革新プロジェクトを社長と実施。全国30地域以上で実施。受け入れ企業がコーディネート機関に半年40-60万円を支払うモデル。

③右腕プログラム

若手社会人が地域企業の社長の「右腕」として1-2年間、参画する「YOSOMON」プログラム。年収の35%程度を手数料で払う人材紹介モデル、地域YOSOMONモデル。

(図司委員) 柏崎市荻ノ島集落を事例に、農山村と若者がどのように影響し合い、地域づくりが進んできたのかを分析したポイントをご紹介いただいた。



農山村再生のプロセスを学ぶ① 荻ノ島集落が再び活発になった要因

■「じよんのび構想」の行き詰まり

←過疎化の進行・市町村合併

←実は、「訪れてよし」と「住んでよし」が住民レベルでは一体のものと実感されなかった？

「訪れてよし」を優先→一部の人たちの担う取り組み

来訪者のもてなしに無理が生じる



■地域味・外部人材のもたらす「解きほぐし・つなぎ直し効果」

→地域に漂うあきらめ感を和らげ、故郷に対する自信を取り戻していく手当てに。

→地域を開き直していく住民の姿勢

→密度の濃い交流を集落に呼び込む好循環に。

農山村再生のプロセスを学ぶ①

荻ノ島集落が再び活発になった要因

■地域経済の循環の取り戻しへ：「共感の経済」

〈米の産直，ふるさと納税返礼品〉

- *新潟県北加産地にあつて、**集落レベルのプラットフォーム**づくりへ
- *小ロットを信頼ある仲間に**買い支えてもらう**仕組み

■現在の荻ノ島集落

人口66人，28世帯，高齢化率は高柳町内でも低い方から3番目に。

- ・サポーターや地域サポート人材の中から集落に住み継ぐ者
- ・出身者で、長男が家から仕事に通う世帯／結婚して子連れでUターンする世帯／定年帰農者も。

→ターンのUターンを刺激。各地で「孫ターン」の展開も。

カギになる“他出者”へのまなざし。

→ようやく「住んでよし」と「訪れてよし」を地域住民が実感

9

共感を活かした農山村再生に向けて

■春日俊雄さん談（元高柳町役場職員，現荻ノ島地域協議会会長）

「今までの交流は、「おもてなし」する方が強かったが、時代が変わつた。交流人口が増えた。漠然としていたものが、より具体的な姿に見えるようになった。地域に楽しい雰囲気生まれ、ひとの動きが変わつてきた。そして、攻めの自治と守りの自治が少しずつつながつてきた」

■地域を開いていくプロセス

→**農山漁村と都市の真の“対流”の時代へ**

（伊藤洋志さん）「フルサトとつくる」という発想

フルサト＝実際の故郷よりゆるい故郷

…いざというときに頼れる場所

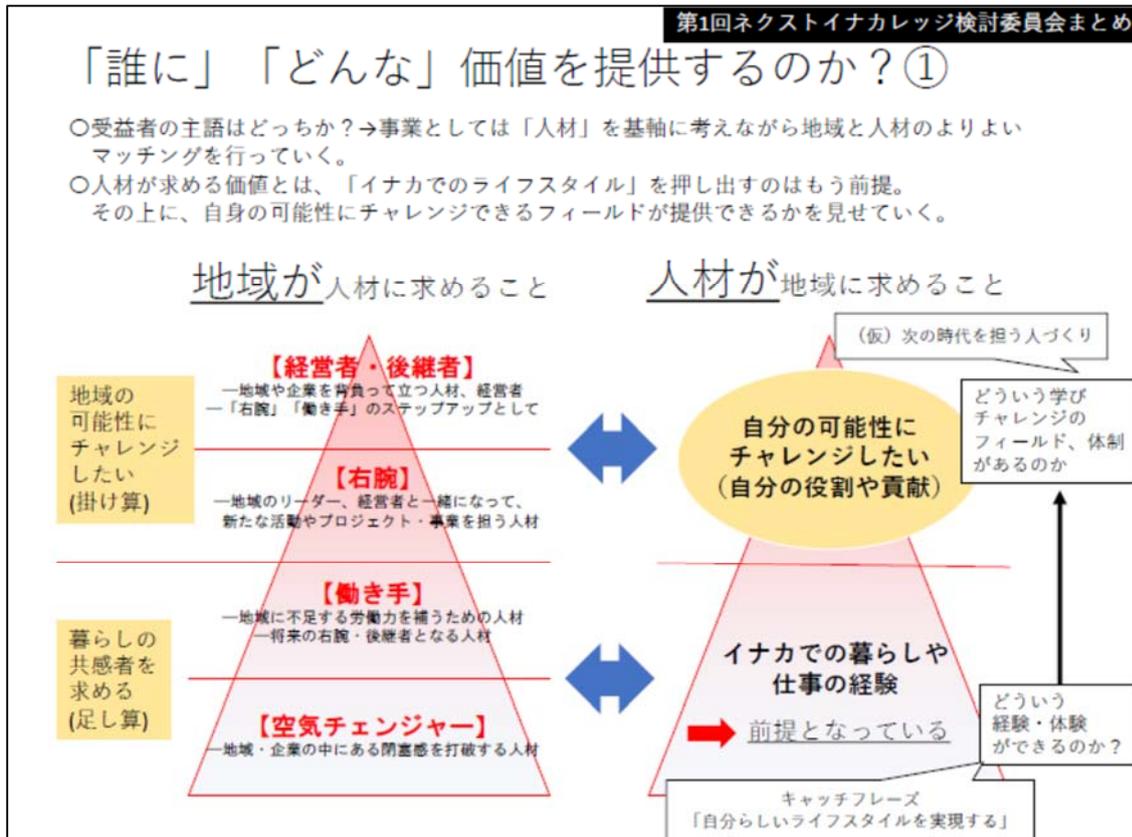
→「関係人口」の厚みを増していく

そこから地域に住み継ぐ主体を着実に増やしていく発想

11

○イナカレッジは「誰に」「どんな価値」を提供するのか？

イナカレッジは「誰」のための事業なのか。ここでは「人材」つまり、これまでで言うインターン生に置いた。その場合に、これまで掲げてきた「田舎でのライフスタイルを見つける」ということは、もはや前提であり、その上でこれからは「そこでどんなチャレンジができるのか」ということまで打ち出していなくちゃいけないのではないかと整理された。

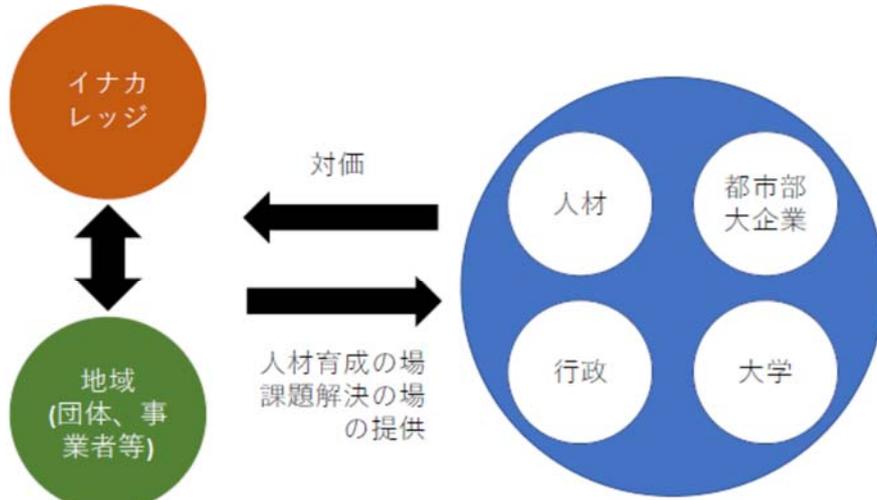


「誰に」「どんな」価値を提供するのか？②

①を踏まえて、事業としては、イナカレッジと地域が連携をして、地方へ活躍の場を求める人材や人材育成の場を求める大企業や大学、地域の課題解決を目指す行政に適切な人材育成・活用のプログラムを提供する。

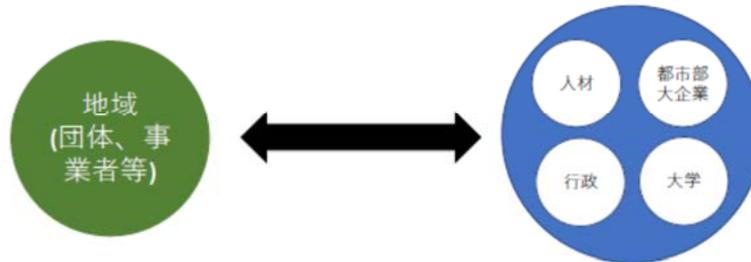
<<価値の提供者>>

<<価値の受益者>>



(これまでの価値の受益者)

どのように価値を提供するのか？ (どんなプログラムをつくるのか？)



両者の「資源」「ニーズ」から
どのようなプログラムを切り出していけるのか

地域委員や市町村行政
からヒアリング、打ち合わせ
で青写真を描く

どのようなニーズや東京側の
プログラムがあるのかを調査
地域へ情報提供

第2回委員会で議論の途中経過、大企業や大学、行政ニーズ等
必要に応じて適切な委員から情報提供してもらう

○イナカレッジのコンセプト再設定

コンセプトは「次の時代を担う人づくり」とした。方針において、特に「②地域と人材の今日体験で、新しい価値をつくる。」という「共同体験」というところにイナカレッジがこれまで培ってきた経験をこだわりがある。また変化した点として「③運動ではなく、仕事をつくる」とした。これまでは、社会の状況として「地方へ」「農村へ」というムーブメント自体を作る必要があったが、それはもう現在においてはできている、そこでネクストステップとして、そこできちんと地域の担い手となれるよう、「仕事」を受け継ぐ、作るというところに主眼をおいていきたい。

イナカレッジのコンセプト（再設定）

背景：なぜ、イナカレッジをやるのか

—地域内の担い手不足は益々深刻化し、“後継者を確保したい・作っていききたい”という地域の需要が高まっている。このような深刻な地域の担い手問題を解消したい。

—利便性を追求した都市の暮らしや、お金のために働くことなどに疑問を持ち、“やりたいことを仕事にしたい”“価値があると思えることを仕事にしたい”“社会のために役立つことを仕事にしたい”などを望む若者が増えている。“何かやりたい”若者に地域というフィールドを提供することで、仕事を含めた新しい生き方を提供したい。

コンセプト：これからイナカレッジがやること

（仮）次の時代を担う人づくり

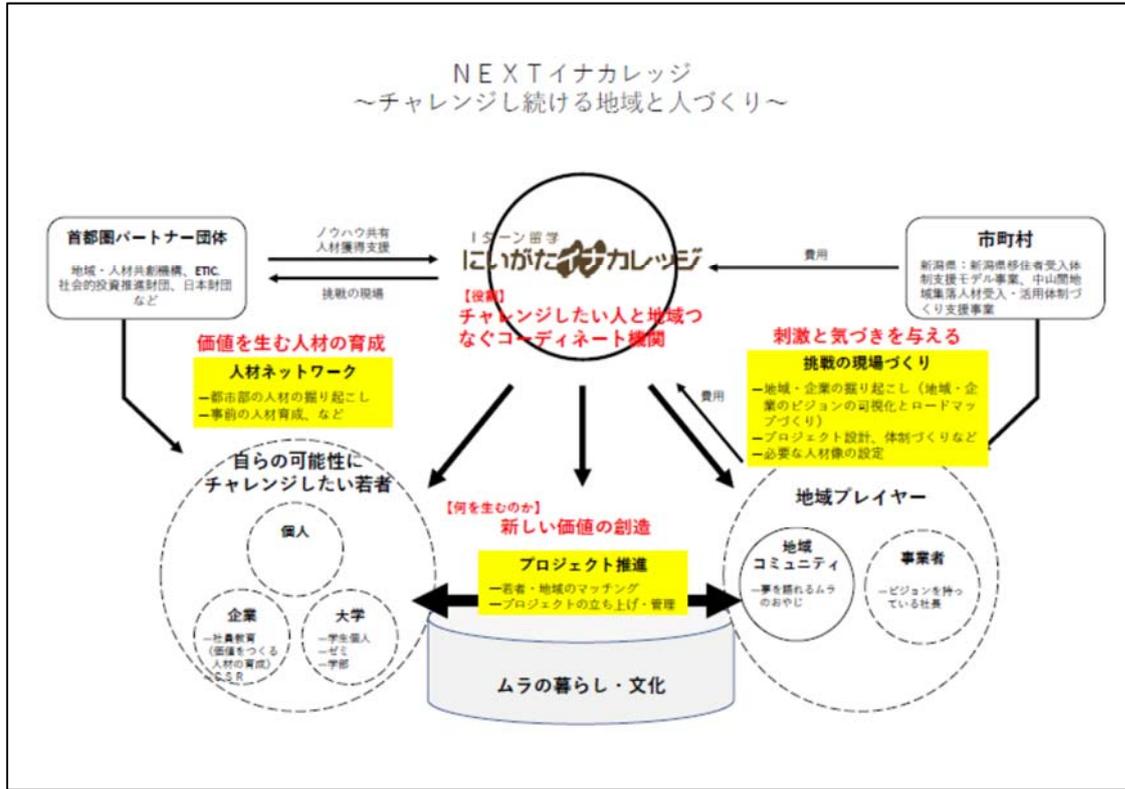
変化し続ける時代のなかで、しなやかに生きていける人材を、
地域というフィールドを舞台に育成する。

方針：これからイナカレッジは…

- ① 自分の可能性にチャレンジしたい人と地域をつなぐ。
- ② 地域と人材の共同体験で、新しい価値をつくる。
- ③ 運動ではなく、仕事をつくる。

○イナカレッジの事業整理

委員会の最終回として、今後の事業案を3点で整理した。それは、「実践型自己実現プログラム『生きる』」、「右腕人材派遣プログラム」、「テーマ設定型1ヶ月インターン」である。



外部人材導入事業の体系

テーマ	通い	1か月	半年	1年以上
起業	—	—	—	自己実現プログラム『生きる』 対象：社会人等 (滞在場所の提供 バイトの斡旋)
右腕	地域課題 実践型ツアー 対象：社会人 受入：地域	—	課題解決型 実践インターン 対象：学生 受入：地域・企業	右腕人材派遣（地域おこし協力隊/求人） 対象：社会人 受入：地域・企業
働き手	イナカバイト 対象：社会人・学生 (近隣) 受入：地域・企業	季節バイト	季節バイト	自己実現プログラム『生きる』
学び・空気チェンジ	地域体験型ツアー 対象：社会人 受入：地域	テーマ設定型 インターン 対象：学生 受入：地域・企業	—	これまでのイナカレッジ 1年インターン

On the left side of the table, a vertical blue double-headed arrow spans the '起業' and '右腕' rows, labeled '実践系プログラム' (Practical program). Another vertical blue double-headed arrow spans the '働き手' and '学び・空気チェンジ' rows, labeled '学び系プログラム' (Learning program).

実践型自己実現プログラム『生きる！』の概要

趣旨

- ◆創りたい仕事、暮らしがある人に、実現のフィールドをつなぎ、サポートする。
- ◆そのような人がいることにより、その地域の価値を高める。

事業概要

- ◆1～3年間の固定費（家賃・水道高熱費・車リース・米代）の保証とバイト先を斡旋（月5万円以上の稼ぎ）。
- ◆その期間で自らの目指す暮らしと生活を手に入れるためのプロジェクトに挑戦。

対象者

創りたい仕事、暮らしがある人（社会人・大学生）

参加条件

- ◆自らの暮らし・仕事をプロジェクトとして発信（ミッションの事前自己申告制・審査あり）
- ◆Campfire等で資金と仲間集めをする

受入地域の条件

- ◆自らの目指すライフスタイルを実践している先駆者がいる。（このような若者への耐性と理解する住民と雰囲気がある）
- ◆月5万円以上を稼ぐことができ、地域の暮らしを学べるアルバイト先を紹介できる。

参加者イメージ



2015期生
山内氏（調理師）



2015期生
レベイエ氏（酒蔵）

受入れイメージ



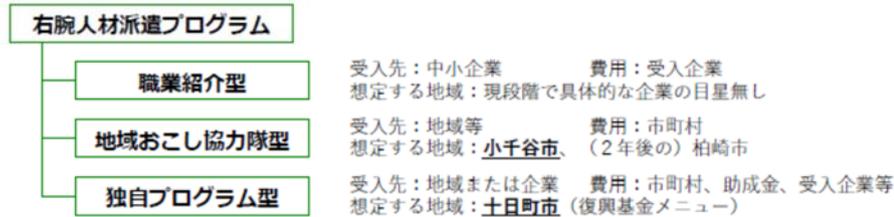
イナカレッジインターン08・09で地域に根を張り生きている実例がある。

右腕人材派遣プログラム

趣旨

- ◆「やりがいのある仕事をしたい」「地方でキャリアアップを図りたい」といった人と、地方の中小企業または地域をマッチングし、新しい事業開発や新プロジェクト等を推進するプログラム。また、期間を限定しプログラム修了後のキャリア（定住OR定住しない）を選択出来る設計にする。

事業のパターン



プログラム概要

- ◆1年～2年程度、新潟の中小企業に就業し新規事業開発や新規プロジェクトを進める。
- ◆定期的な面談と研修を行う。（イナカレッジ）

期間

1～3年

受入の条件

- ◆新しい人材を受けられる土壌がある
- ◆新規事業開発や会社を次のステップに進ませたいと考えている

費用

（職業紹介型）年収の20%？
（地域おこし協力隊型）委託費（年額）
（独自プログラム型）5～10万円/月？（月額）

その他

有料職業紹介の許認可が必要
類似事業として、『YOSOMON!』

テーマ設定型「1か月インターン」の概要

趣旨

- ◆感性を磨き、価値観を深める大切な時期である大学時代に、学びの場であり表現の場である地域というフィールドでリアルな実感を伴った経験を積んでもらう。
- ◆トライアルの機会や肯定感が高まるきっかけを地域に増やし、多様な外の人との関係性を作る。

事業概要

- ◆1か月間、地域で暮らしながらテーマに合わせたミッションに取り組む。学生側の参加費は無料。
- ◆住み込みで活動するのは1か月だが、前後でも通いで活動してもらい、実質1年くらいは関わるプロジェクトとなる
- ◆受け入れ地域(団体)は滞在先・イナカレッジの実働費用を負担

対象者

大学生（特に県内の大学生）

受入地域の条件

- ◆多様な関わり方を受け入れられる地域
- ◆事務局が「おもしろい」と思えるトライアルをしようとしている地域

【3】にいがたイナカレッジ地域づくり研修会の実施

同研修会は、中小企業・事業者へのインターンシップを促進することを目的に開催した。イナカレッジは、中小企業・事業者のインターンシップを通じて、地域内外の若者、地域経済の発展・人材の誘致や育成・地域資源の保全活用の主体である中小企業とパートナーシップを組んで、魅力的な地域づくりを進めて行きたいと考えています。

今回の研修会では、能登半島で「能登留学」や「能登の人事部」など、地域外の若者の誘致や中小企業の人材面・事業面へ多角的なサポートをしている森山奈美さんをお迎えし、能登の取り組みを学びました。

日時：2月27日（火） 15:00～17:00

会場：小千谷市民学習センター 楽集館 ホール（小千谷市上ノ山4丁目4-2）

参加者：17名

内容：

講演：能登留学・能登の人事部から学ぶ若者と地域企業が元気になるインターンシップ

意見交換会：新潟中越での取り組みを考える

講師プロフィール：



森山 奈美 氏(株)御祓川 代表取締役

技術士（建設部門・都市および地方計画）金沢大学非常勤講師

川を中心としたまちづくりに取り組み、その取り組みが日本水大賞国土交通大臣賞、などを受賞。平成21年に、経済産業省「ソーシャルビジネス55選」に選出された。近年は「能登留学」で地域の課題解決に挑戦する若者を能登に誘致している。様々な主体が関わるまちづくりのつなぎ役として、能登の元気を発信し「小さな世界都市・七尾」の実現を目指して日々、挑戦中。



【4】新人研修について

・2017年4月からのムラビト・デザインセンター新入社員井上有紀が、イナカレッジのつながりがある地域を知り、地域の人に自身の紹介をするべく各地域をまわる新人研修を行った。

【日時】2017年4月17日～20日

【場所】柏崎市荻ノ島集落/小千谷市岩沢地域/十日町市池谷集落/長岡市栃尾



2. 地域づくり活動支援業務

【1】移住者受入トップランナー支援事業（新潟県新潟暮らし推進課）

県内各地域における移住者受入態勢づくりを推進するため、移住者の受入活動に熱意のある地域住民等を対象に「移住者受入人材育成研修会」等を開催し、移住者を受け入れるために必要な考え方、知識・ノウハウを習得し、移住者受入の機運づくりと新潟県全体の受入態勢の充実を図ることを目的に実施するものである。

<実施内容>

① 県内自治体等事前ヒアリング

移住者受入に取り組もうとする7地域・自治体等にヒアリングを行い、現状の課題や問題認識などを把握し、これをもとに研修プログラムを企画・構築。

② 講義・ワークショップ

地域	プログラム
刈羽村 10/6	テーマ：地域を維持するために一緒に活動する“人材・人財”を受け入れる ◆講義『集落で活動していくために、人材・人財を受け入れる』 ・渡辺 隆 氏（魚沼市横根集落区長） ◆講義『外部人材が関わる地域づくり活動～結局、地域活性化とは何だったのか』 ・島田 久美子 氏（元魚沼市地域おこし協力隊） ◆質疑・意見交換
南魚沼市 10/26	テーマ：企業と連携する人材獲得とU・Iターン促進～新しい求人のあり方を考える ◆講義『地域と連携した新しい求人のカタチ』 ・藤原 将太 氏（新潟県U・Iターンコンシェルジュ／(株)パソナ） ◆質疑・意見交換
聖籠町 12/12	テーマ：現役世代の移住を考える ◆講義『子育て世代の移住の動向』 ・佐藤 佳奈美（認定NPO法人ふるさと回帰支援センター） ◆体験談『移住夫婦のホンネ』 ・金子 知也・真由美夫妻（東京から長岡市へ移住） ◆質疑・意見交換



地域	プログラム
南魚沼市 1/26	<p>テーマ：企業と連携する人材獲得とU・Iターン促進～新しい求人のあり方を考える</p> <p>◆講義『若者の仕事観と地方企業の人材確保』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中 翼 氏（株式会社 仕事旅行社 代表） <p>◆パネルディスカッション『これからの求人のあり方を考える』</p> <p>（パネラー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯谷 哲夫 氏（よつばワーク社会保険労務士法人） ・水沼 樹 氏（株式会社 諏訪田製作所） ・田中 翼 氏 <p>（コーディネーター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河合 雅樹 氏（一般社団法人 南魚沼市まちづくり推進機構） <p>◆質疑・意見交換</p>
見附市 2/4	<p>テーマ：地域を維持するために“人材・人財”を受け入れる</p> <p>◆講義『地域おこし協力隊とは？』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部 巧（にいがたイナカレッジ） <p>◆地域おこし協力隊活動発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉野 盛之 氏（上北谷ふるさとセンター長） ・菊間 新一 氏（見附市地域おこし協力隊） ・菅原 大希 氏（見附市地域おこし協力隊） <p>◆座談会</p>
出雲崎町 2/20	<p>テーマ：期間限定移住～外部の人材を受け入れるポイント</p> <p>◆講義『期間限定移住』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金子 知也 氏（にいがたイナカレッジ） <p>◆講義『外部人材を受け入れると、地域にどんなことが起こるのか』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春日 俊雄 氏（柏崎市高柳町荻ノ島 荻ノ島地域協議会 会長） <p>◆質疑応答</p>
燕市 3/2	<p>テーマ：外部人材との協働のあり方</p> <p>◆講義『地域おこし協力隊とは？』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金子 知也 氏（にいがたイナカレッジ） <p>◆『胎内市における地域おこし協力隊の導入方法とそのポイント』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮須 崇徳（胎内市総合政策課） <p>◆地域おこし協力隊活動発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤 正嗣（燕市地域おこし協力隊） ・岡田 大輝（燕市地域おこし協力隊） ・小酒井 朗（燕市地域おこし協力隊） <p>◆質疑応答およびディスカッション</p>

【2】移住相談員設置業務（新潟県新潟暮らし推進課）

本業務は、新潟県への移住・定住の促進を図るため、首都圏における移住相談機能を強化するため、認定NPO法人ふるさと回帰支援センターに相談員を配置し、地方暮らしに興味のある都市住民への対応を図るために実施するものである。

<実施内容>

新潟相談ブース『ココスにいがた』の移住コーディネーターとして山口夏実を配置し、日常的な移住相談への対応、県内市町村の移住担当者との連携、新潟県が主催するにいがた暮らしセミナーや各市町村が主催するイベントなどをサポートしている。



【3】にいがたライフスタイルカフェ（新潟県新潟暮らし推進課）

本業務は、地方に関心を持ってもらうため、“移住”ということ意識せず、各回テーマを設定し、魅力的な暮らし方・働き方をしている人たちをゲストにお呼びし、これからのライフスタイルを考えるイベントとして実施するものである。

■VOL.1 ローカルビジネス～地方で起業し生きていく～

○日 時：7月22日（土）18：00～20：00

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター

○参加費：無料

○参加者：31名（男性15名、女性16名）

○内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト：水戸部 智（NPO法人柏崎まちづくりネットあいさ）

矢島 衛（EARY CAFE）

佐藤 和幸（Next Commons Lab 南三陸）



■VOL. 2 コミュニティプレイス～コミュニティをつなぐ場を作る～

- 日 時：8月31日（木）19：00～20：45
- 会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター
- 参加費：無料
- 参加者：23名（男性8名、女性10名、不明5名）
- 内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問
- ゲスト：吉野さくら（つながる米屋コメタク）
たつみかずき（LODEC JAPAN）
タナカユウヤ（京都移住計画）



■VOL. 3 旅の仕事～観光、体験、地方の旅を仕事にする～

- 日 時：9月21日（木）19：00～20：45
- 会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター
- 参加費：無料
- 参加者：37名（男性17名、女性20名）
- 内 容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問
- ゲスト：大桃 理絵（ゲストハウスなり）
伊佐 知美（灯台もと暮らし）
加藤 拓馬（一社まるオフィス）



■VOL. 4 伝統をつなぐ仕事～地域の伝統をつなぎ仕事を作る～

- 日 時：10月26日（木）19：00～20：45
- 会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター
- 参加費：無料

- 参加者：12名（男性4名、女性9名）
- 内容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問
- ゲスト：池山 崇宏（オリガミデザイン）
林 貴俊（Tree Tree ishinomaki）
田山 貴鉦（タヤマスタジオ）



■VOL. 5 期間限定移住～期間を決めて地方に暮らし、キャリアを広げる～

- 日時：1月29日（火）19：00～21：30
- 会場：レンタルキッチンスペース Patia
- 参加費：無料
- 参加者：10名（男性9名、女性1名）※台風
- 内容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問
- ゲスト：高橋 要（福井市地域おこし協力隊）
須賀百合香（株式会社鮮冷）
伊藤 順平（NPO 法人 ETIC）



■VOL.6 パラレルワーク～兼業・副業、地方、多様な働きかた～

○日時：3月3日（土）17：00～20：00

○会場：カフェ風スタジオカジュアライズ

○参加費：無料

○参加者：22名（男性17名、女性5名）

○内容：ゲストトークセッション、ゲストへの質問

○ゲスト：ほんま さゆり（とかとこ ちいき編集部）

中神 美佳（合同会社カミヤマワークス）

山中 康司（フリーランス）高橋 要（福井市地域おこし協力隊）



【4】地域の魅力発信セミナー（新潟県新潟暮らし推進課）

本業務は、新潟県が主催する「にいがた暮らしセミナー」の一環として、首都圏等在住者のうち、移住検討度が比較的高い層を主な対象に、地域の移住者受入団体等が、各地域の魅力をPRするイベントを開催するものである。

■VOL.1 空き家で暮らす～新潟でかなえた海の暮らし・島の暮らし～

○日時：8月26日（土）18：00～20：30

○会場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター

○参加費：無料

○参加者：31名

○内容：ゲストトークセッション、Uターン相談会

○ゲスト：・青柳 花子（粟島ゲストハウスおむすびのいえ）

・熊野 礼美（佐渡Uターンサポートセンター、ひょうご屋）

・小川 吉幸（越前浜自治会）

○出展者：・新潟市

・新潟県宅地建物取引業協会

・長岡市

・新潟県Uターンコンシェルジュ

・柏崎市

・にいがたUターン情報センター

・新発田市

・日本政策金融公庫

・十日町市

・新潟県新規就農相談センター

・上越市

・ココスムにいがた

・佐渡市



■VOL.2 イナカのシゴト～いま、イナカには仕事があふれている～

○日 時：10月29日（日）16：30～19：30

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター

○参加費：無料

○参加者：14名※台風

○内 容：ゲストトークセッション、Uターン相談会

○ゲスト：・山崎 智仁（門出・田代ベとプロジェクト）

・清野 憂（岩沢アチコタネーゼ）

・阿部 巧（にいがたイナカレッジ）

○出展者：・新潟市 ・新潟県Uターンコンシェルジュ

・小千谷市 ・にいがたUターン情報センター

・十日町市 ・新潟県新規就農相談センター

・上越市 ・日本政策金融公庫

・魚沼市 ・新潟県宅地建物取引業協会

・ココスムにいがた



■VOL.3 好きなことを仕事にする～雪国で、夢かなえました～

○日 時：1月28日（日）16：30～19：30

○会 場：NPO 法人ふるさと回帰支援センター

○参加費：無料

○参加者：23名

○内 容：ゲストトークセッション、Uターン相談会

○ゲスト：・松川 菜々子（NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部）

- ・ 三浦 香織 (Sansan Yuzawa)
- ・ 松崎 清央 (Reach out Leaders)

- 出展者：
- ・ 新発田市
 - ・ 十日町市
 - ・ 燕市
 - ・ 妙高市
 - ・ 上越市／川谷もより協議会
 - ・ 胎内市
 - ・ 湯沢町
 - ・ 新潟県U・Iターンコンシェルジュ
 - ・ にいがたUターン情報センター
 - ・ 新潟県新規就農相談センター
 - ・ 日本政策金融公庫
 - ・ 新潟県宅地建物取引業協会
 - ・ ココスムにいがた



【5】地域おこし協力隊コーディネート業務（新発田市）

本業務は、新発田市の地域おこし協力隊導入にあたり、受入に向けた地域内の合意形成や体制づくり、隊員の募集、マッチングなどの一連のサポートを行うものである。

<実施内容>

- ① 地域での説明会の開催：受入を検討している地域での制度、および受入にあたってのポイント説明など
- ② 隊員募集活動：イナカレッジHPでの募集、地域仕掛人市への出展、JOIN「移住・交流&地域おこしフェア」への出展、その他募集にあたってのプロモーション活動



【6】「(仮称)片品村交流連携拠点」開業支援業務（群馬県片品村）

本業務は、村中心地区に開業予定の「片品村交流連携拠点」の整備に向け、その中核的な役割を果たす農産物直売所の開業にあたり、出荷者の組織化の準備・設立、商品の品揃え戦略、その他農産物直売所の運営に関わる必要な取組を支援することを目的に実施するものである。

<実施内容>

- ① 準備会議への出席・助言等

片品村交流連携拠点整備にあたり、関係者間で整備の進捗、各種検討事項の共有などを

図る準備会議に出席し、必要に応じて資料作成・提供や助言を行う。

② 直売所の運営に関すること

これまでの議論の内容を踏まえた事業計画・収支計画の見直し・修正、直売所の運営・出荷等にあたってのルールづくりなどを支援する。

③ 出荷者確保・組織化に関すること

出荷者組織設立発起人会の運営、設立総会の開催など出荷者組織の設立に関わる必要な支援を行うとともに、出荷商品調査の実施、研修会の開催などに取り組む

④ 商品の品揃えに関すること

尾瀬・片品村の農産物直売所としてふさわしい商品構成の検討、品揃え計画の作成および必要に応じて地域外からの仕入れ先の確保などを支援する。

⑤ その他関連する業務

その他、本業務を遂行するために必要となる業務

【7】新潟県地域おこし協力隊初任者研修業務（新潟県地域政策課）

本業務は、新潟県地域政策課から受託し、新潟県内の市町村の地域おこし協力隊の初任者を対象に、協力隊としての心構えや活動の中でのポイント、先輩やOB/OGの経験を聞く場として行った。

○日時：平成29年6月27日（月）～28日（火）

○場所：メイワサンピア（新潟市西区赤塚4627-1）

○対象：地域おこし協力隊員として委嘱されてから概ね1年以内の方

○事業協力者

- ・多田 朋孔 元・十日町市地域おこし協力隊／NPO 法人地域おこし
- ・宮原 大樹 元・十日町市地域おこし協力隊／米農家
- ・小山 友誉 元・十日町市地域おこし協力隊／NPO 法人地域おこし
- ・島田 久美子 元・魚沼市地域おこし協力隊／魚沼市役所
- ・岩崎 貴大 元・佐渡市地域おこし協力隊／有限会社浦島（旅館浦島）

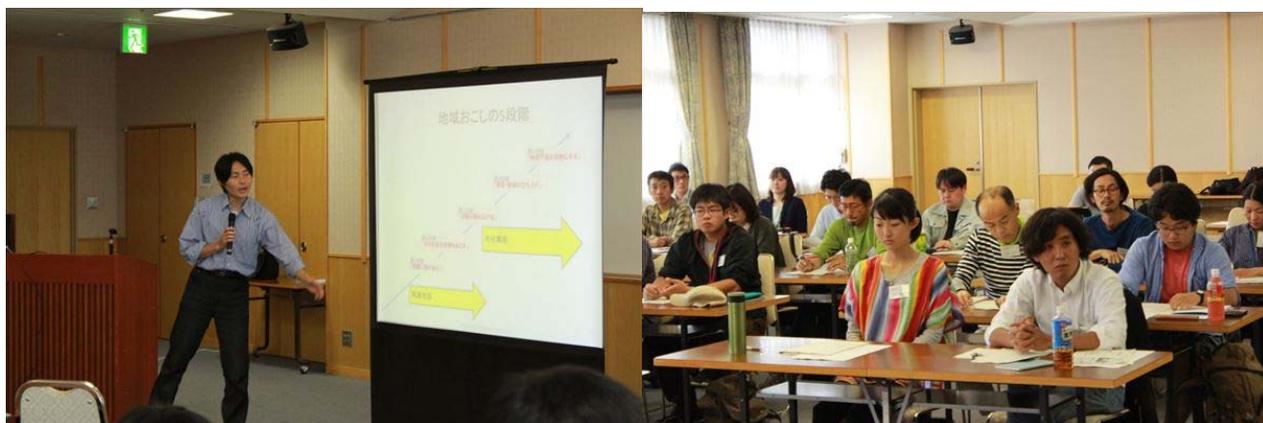
○参加者 31名

長岡市、三条市、新発田市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、糸魚川市、五泉市、上越市、阿賀野市、佐渡市、魚沼市、津南町、関川村、粟島浦村

○プログラム内容

- ①【講義】「全国の地域おこし協力隊の動向」 稲垣文彦氏
- ②【講義】「地域おこしとは？・活動ステップ」 多田朋孔氏
- ③【講義】「地域おこし協力隊の必要条件～地域に溶け込む～」 小山友誉氏
- ④【ワーク】自らの活動環境を共有する

- ⑤【ワーク】課題検討
- ⑥【講義】先輩隊員によるトークセッション
宮原大樹氏、島田久美子氏、岩崎貴大氏
- ⑦【ワーク】自らの活動をデザインする
- ⑧研修全体のまとめ



【8】新潟県地域おこし協力隊定住サポート研修業務（新潟県地域政策課）

本業務は、新潟県地域政策課から受託し、新潟県内の市町村の地域おこし協力隊員を対象に、3年という任期後にどのような道へ進むか、その選択肢や可能性を知り、具体的に任期後の姿を描いてもらうことを目的に開催した。

- 日時：2018年1月30日（火）～31日（水）
- 場所：駅前オフィス貸会議室 大会議室
- 参加費：無料、懇親会参加 4,000円
- 対象
 - ・新潟県内の地域おこし協力隊員。『任期後についてまだ迷っている（考えていない）隊員（1年目～2年目）
- 事業協力者
 - ・多田 朋孔 元・十日町市地域おこし協力隊／NPO 法人地域おこし

- ・宮原 大樹 元・十日町市地域おこし協力隊／米農家
- ・小山 友誉 元・十日町市地域おこし協力隊／NPO 法人地域おこし
- ・島田 久美子 元・魚沼市地域おこし協力隊／魚沼市役所
- ・清野 憂 元・小千谷市地域おこし協力隊／岩沢アチコタネーゼ
- ・岩崎 貴大 元・佐渡市地域おこし協力隊／有限会社浦島（旅館浦島）
- ・藤井 裕也 元・美作市地域おこし協力隊／山村エンタープライズ、地域おこし協力隊サポートデスク

○参加者 16名

津南町、関川村、五泉市、上越市、糸魚川市、三条市、佐渡氏、燕市、長岡市、新発田市、村上市

○プログラム内容

①オリエンテーション・自己紹介

②講義：地域おこし協力隊の任期後の進路とその背景

藤井裕也氏（山村エンタープライズ、元美作市地域おこし協力隊地域おこし協力隊サポートデスク）

③相談・意見交換会：先輩テーブル×3回

④1日目の振り返り

⑤懇親会

⑥今後の自分のプロセスを考える（個人ワーク）

⑦グループ意見交換

⑧全体振り返り





【9】糸魚川市駅北復興まちづくり中間支援業務（糸魚川市）

本業務は、糸魚川市から、平成28年12月に発生した糸魚川市駅北大火からの復興に向けた支援業務として受託した。市民、事業所、行政等の地域の主体の活動をコーディネートし、復興まちづくり活動、新たなにぎわい創出、人材育成を支援した。

○事業期間

平成29年10月1日～平成30年3月31日 ※平成30年度継続

○活動拠点

糸魚川市 復興まちづくり情報センター

○プロジェクトマネージャーの現地への配置

・プロジェクトマネージャー 野村佑太

ムラビト・デザインセンターからインターンシップコーディネーターとして外部委託をし、センターのメンバーとして活動してきた。現場常駐スタッフとして糸魚川市で活動をしてもらった。

○主な活動の内容

- ・復興まちづくり情報センターの運営
- ・復興イルミネーションプロジェクトの企画運営
- ・糸魚川魅力再発見アイデア出し会議の運営
- ・糸魚川青年会議所 次年度構想の支援（災害ネットワーク構築委員会）
- ・復興マルシェ・復興メギス祭り 実行委員
- ・「みらいづくり交流会」企画・実施
- ・糸魚川防災教育
- ・市民団体「まちづくりらぼ」チームづくり、活動実践



【10】 中山間地域直接支払交付金 小千谷市広域集落協定事務局業務

本業務は、小千谷市広域集落協定から、中山間地域等直接支払交付金を活用した小千谷の中山間地域集落の活性化を目的とした事務局業務を受託した。具体的には、広域集落協定に加盟する 19 集落の交付金事務、広域協定の会議運営、小千谷市との連絡調整などを行った。

○事業期間

平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 ※平成 30 年度継続

○委託元

小千谷市広域集落協定（山辺、真人・岩沢、吉谷・川井・東山・城川の 3 協定の連合体）

○業務内容

- ・ 中山間地域直接支払交付金の事務
- ・ 広域集落協定の役員会議等の運営
- ・ 小千谷市役所と加盟集落間の連絡調整 ほか



【11】 柏崎市移住促進セミナー実施支援業務（柏崎市）

柏崎市では今まで、移住・定住促進施策として、移住相談受付やファンクラブづくりを行ってきた。全国の都道府県が首都圏で様々な移住セミナーを開催する中、初めて単独での移住セミナーを開催した。首都圏在住の「地方での暮らしに興味がある」「漠然といつか地方で暮らしたい」という関心層のうち、特に「地域での新しい暮らしや仕事に挑戦してみたいが、まだぼんやりしている若い女性」をターゲットとし、当日はゲストの話をも深く聞くだけでなく、対話をする機会を作り、柏崎市がより身近に感じられることを重要視し、プログラムを設計した。

当日は 17 名が参加し、活発に意見交換をしていた。「新たなつながりができた」「自分のこれからのしごとについてしっかりと考える機会になった」「柏崎にこんな人がいることを知れた」などの声もあり、今後「移住」という形に結びつけていくやり方は検討の余地があるが全体の満足度は高いイベントとなった。

【テーマ】

女性のしごとのつくりかた～「好き」から生まれるこだわり店～

【内容】

○第一部 トークセッション

（ゲスト）

- ・ 柘植 香織さん 「Umi café DONA」
- ・ 矢島 慶子さん 「EALY CAFE」
- ・ 片山 紀子さん 「Hang in there」

○第二部 ワークショップ

【開催日時】

2018年2月17日（土）18：00～20：30

【場 所】 ふるさと回帰支援センターセミナースペース（有楽町）

【参加費】 無料（イベント後懇親会：3500円）

【参加人数】 16組17名（当日参加1名 欠席4名）





【12】 学生インターンシップ事業

昨年度に引き続き、大学生向けの1か月インターンを夏休みに実施した。各地域2，3人の大学生が地域・受け入れ先のやりたいことを一緒に行うプロジェクトを設定し、地域に住み地域の一員となりながら1か月を過ごした。プロジェクト終了後も、プロジェクトの成果物はそれぞれ地域を発信したり住民が地域の良さを確認するのに生かされ、また参加者は1か月が終わっても地域に通ったりと交流を深め続けている。

○実施期間

2017年8月中旬～9月中旬の1か月（開始・終了は地域別）

※1名10月受け入れあり

※9月2日に合同中間報告会を実施

※コーディネーター研修を前後に実施

○インターンシップ参加者

16名（県外大学生6名、県内大学生8名、社会人2名）

【参加者募集方法】

各大学でのOBOGの協力や授業内の告知を使った説明の場・ホームページ・チラシ配布・SNS広告・都内での単独募集説明会など

○インターンシップ実施地域一覧

受け入れ地域	プロジェクト名
長岡市木沢集落	百姓百貨店2017～遠くの村民に届ける木沢セットづくり～
柏崎市荻ノ島集落	集落を守るオヤジの生き方を次世代へ繋ぐインタビュープロジェクト
胎内市鹿ノ俣地域	山村集落のいいとこさがし ～未来へつなぐムラだより創刊プロジェクト～
胎内市観光協会	里山の愛され空間をプロデュース！ 道の駅UPDATEプロジェクト～

